

---

---

さぬき市 男女共同参画に関する  
市民アンケート調査

---

---

— 報告書 —

2022（令和4）年11月  
香川県 さぬき市

# ～ 目 次 ～

<b>I 調査の概要</b>	<b>1</b>
<b>II 回答者の属性</b>	<b>2</b>
1 性別	2
2 年齢	2
3 未既婚	3
4 共働きの状況	4
5 家族構成	5
6 家事に費やす時間	6
7 未就学児の有無	9
8 育児に費やす時間	10
9 要介護者の有無	11
10 介護に費やす時間	12
11 職業	13
12 管理職	14
<b>III 調査結果</b>	<b>15</b>
【1】男女の平等意識について	15
1 男女の平等意識	15
【2】職業生活について	20
1 就労状況	20
2 仕事の内容や待遇面での男女差	21
3 男女間の格差について	23
4 退職の経験	25
5 退職の理由	26
6 再就職の経験	31
7 育児休業や介護休業の取得状況	33
8 男性が育児休業や介護休業を取得することについて	35
9 男性が育児休業等を取得しない方がよいと思う理由	37
10 働きやすい社会環境をつくるために必要なこと	38
【3】家庭生活や地域活動について	41
1 男女の性別差や役割分担等について	41
2 感染症の拡大による影響	45
3 地域活動への参加状況	49
4 地域活動に参加していない理由	52
5 防災・災害復興対策で強化すべき取組	55
6 市の取組への満足度	57

【4】暴力の防止等について-----	62
1 各種ハラスメントやDVの経験-----	62
2 DVに関する相談状況-----	67
3 相談しなかった理由-----	69
4 DVをなくすために必要な取組-----	71
【5】男女共同参画の取組について-----	74
1 用語の認知状況-----	74
2 パートナーシップ宣誓制度の認知状況-----	77
3 選択的夫婦別姓（別氏）制度について-----	78
4 L G B T Qに関する課題について-----	79
5 身近にL G B T Qの方がいることについて-----	80
6 セミナーやイベント等への参加状況-----	81
7 参加してみたい講座やセミナー-----	82
8 男女共同参画の推進に市が力を入れるべきこと-----	84
【6】自由記述回答集約結果-----	88

資料 調査票-----	100
-------------	-----



# I 調査の概要

## 【調査の目的】

本調査は、「第3次さぬき市男女共同参画プラン」の策定に当たり、市民の男女共同参画に関する意識や実態、問題点や意見等を把握し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

## 【調査対象】

18歳以上の市民（住民基本台帳による無作為抽出）

## 【調査方法】

郵送配布～郵送回収、インターネットによる回答

## 【調査期間】

2022（令和4）年8月

## 【回収結果】

配布数 ----- 2,000件

有効回収数 ----- 721件（インターネットによる回答197件を含む）

有効回収率 ----- 36.1%

## 【報告書の見方について】

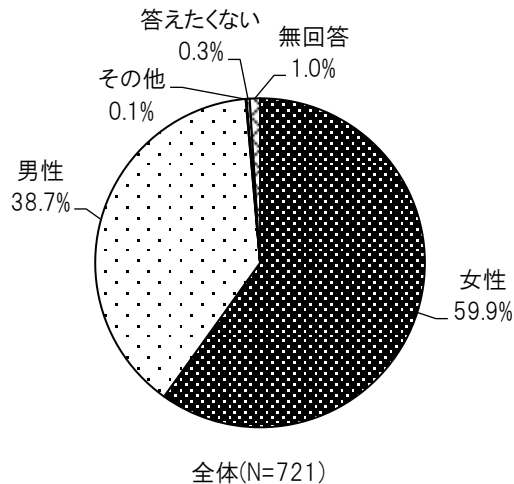
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成24年及び平成29年に実施した同調査との比較を行っている（時系列推移）。その際、図表等の表記は平成24年調査を「前々回（H24）」、平成29年調査を「前回（H29）」と略記している。また、「令和元年度 香川県男女共同参画社会に関する意識調査」（図表等では「香川県」と表記）及び国の「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年実施）」（図表等では「国」と表記）との比較を行っている。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

## II 回答者の属性

### 1 性別

問1 あなたの性別をお答えください。（自認する性別をお答えください。）（○印1つ）

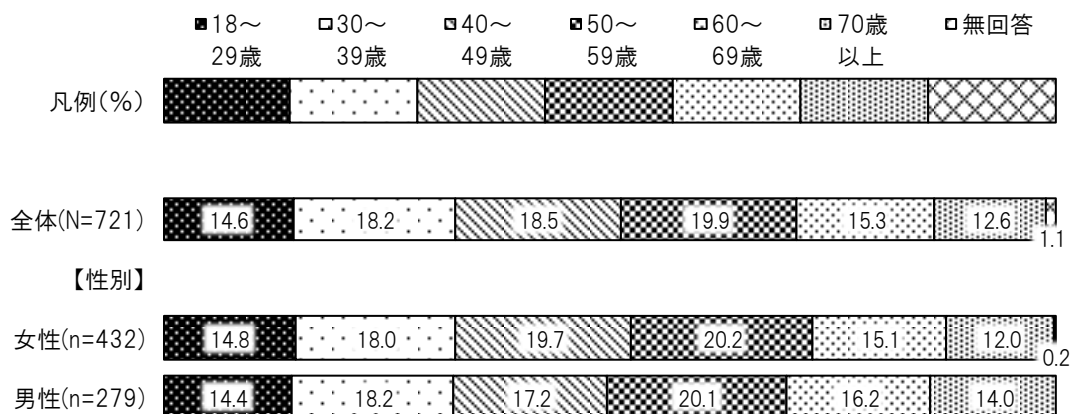
回答者の性別構成比は、「女性」が 59.9%、「男性」が 38.7%と、女性の割合が男性を大きく上回っている。



### 2 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。（○印1つ）

年齢別構成は、「50～59歳」の割合が 19.9%と最も高く、次いで「40～49歳」（18.5%）、「30～39歳」（18.2%）が続いているが、それぞれ同程度の割合となっている。  
性別では、大きな差はみられない。



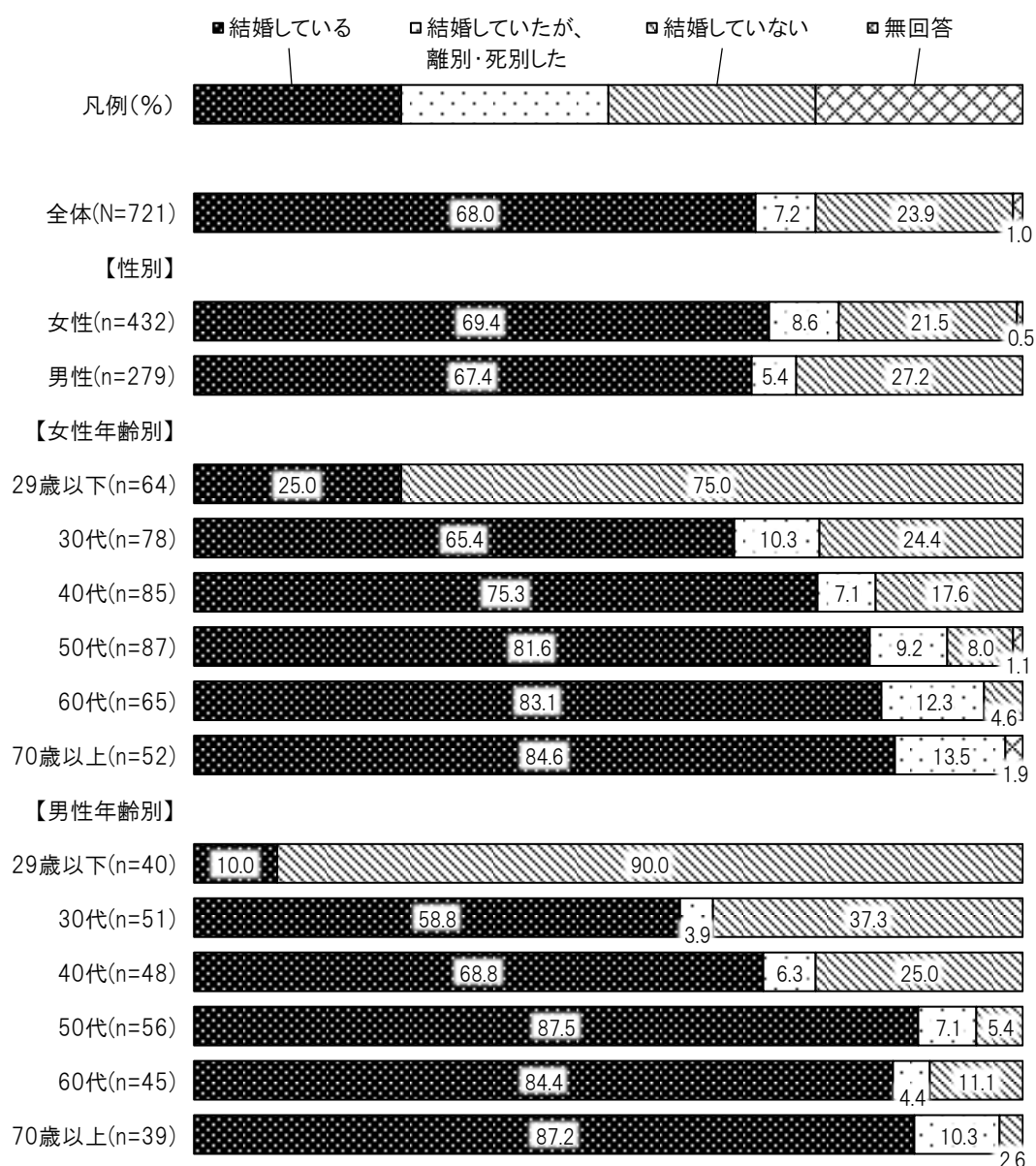
### 3 未既婚

問3 あなたは結婚（事実婚を含む）をしていますか。（○印1つ）

未既婚については、「結婚している」が68.0%、「結婚していたが、離別・死別した」が7.2%、「結婚していない」が23.9%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「結婚していない」の割合が高くなっている。

年齢別では、男女共に50代以上で「結婚している」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



## 4 共働きの状況

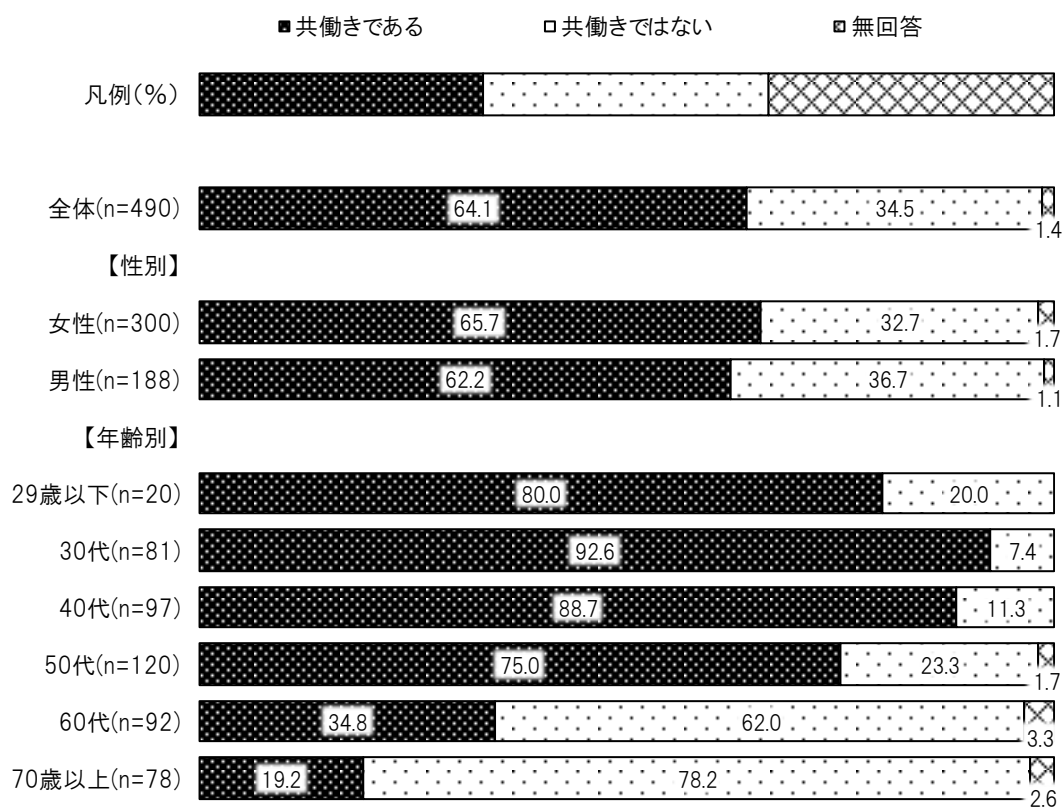
【問3で「1」と答えた方におたずねします。】

問4 あなたと配偶者（パートナー）は、共働き（パート・アルバイト等を含む）ですか。  
（○印1つ）

共働きの状況については、「共働きである」が64.1%、「共働きではない」が34.5%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「共働きではない」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、おおむね若い年齢層ほど「共働きである」の割合が高くなっている。





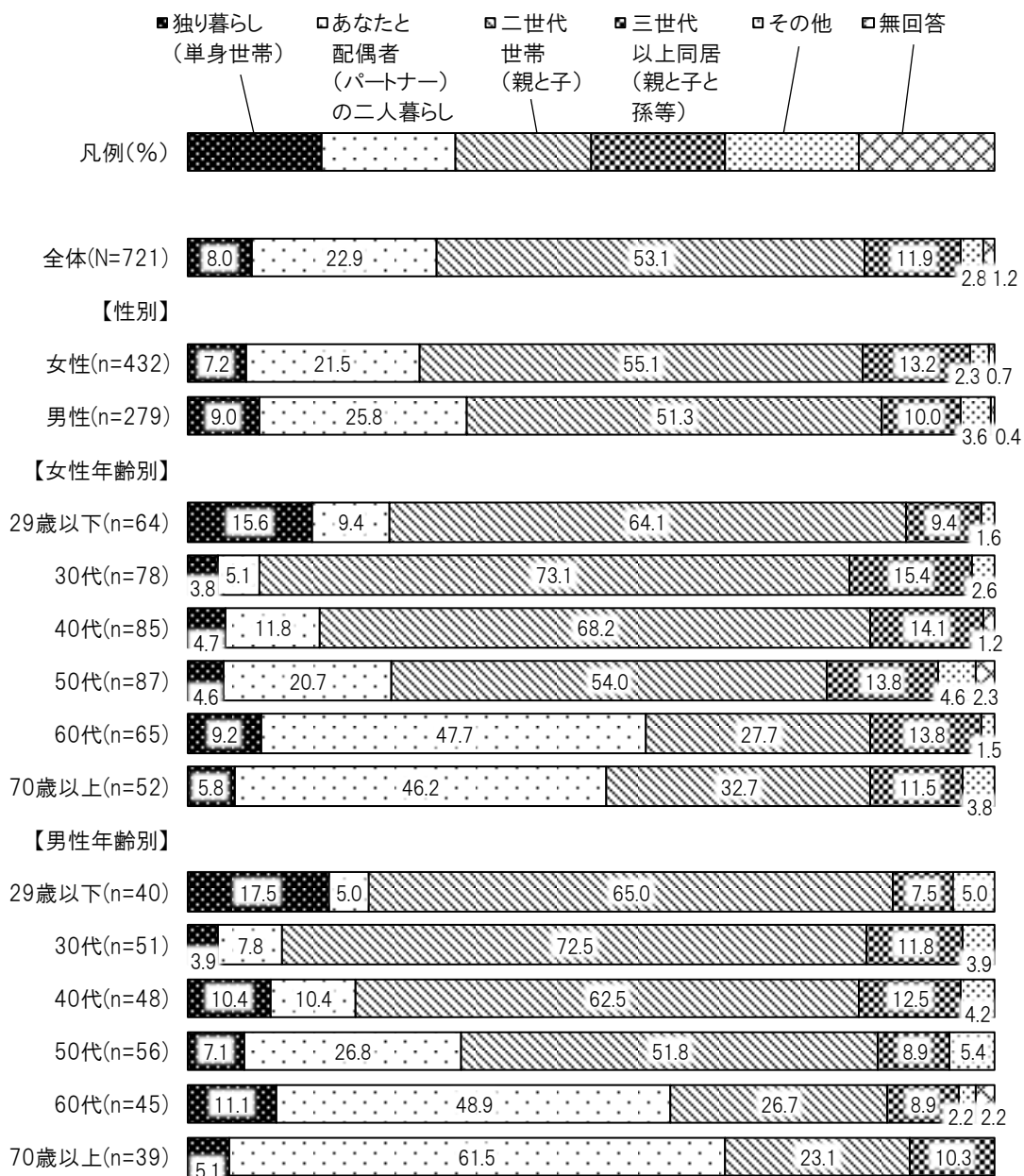
## 5 家族構成

問5 あなたの同居家族の構成をお答えください。(○印1つ)

家族構成については、「二世帯世帯(親と子)」の割合が53.1%と最も高く、次いで「あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし」(22.9%)、「三世帯以上同居(親と子と孫等)」(11.9%)、「独り暮らし(単身世帯)」(8.0%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、男女共に60代以上で「あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



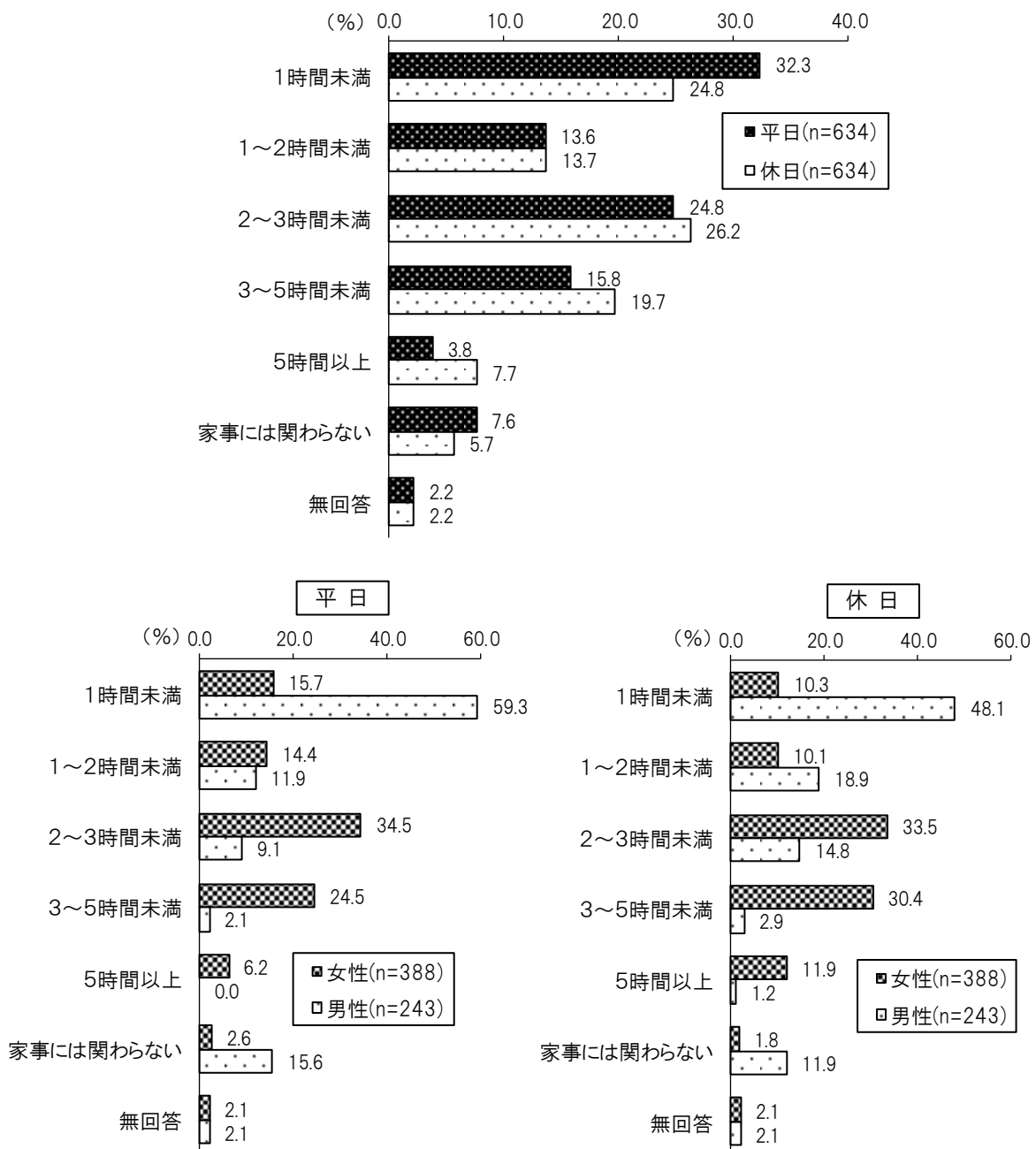
## 6 家事に費やす時間

【問5で「2～4」と答えた方におたずねします。】

問6 あなたが、食事のしたくや掃除、洗濯など家事に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。平日と休日に分けてお答えください。（○印1つずつ）

1日のうち家事に費やす時間をみると、平日は「1時間未満」の割合が32.3%と最も高く、次いで「2～3時間未満」（24.8%）、「3～5時間未満」（15.8%）の順となっている。また、平日は休日に比べ「1時間未満」の割合が高くなっている。

性別では、平日、休日共に、女性は男性に比べ「2～3時間未満」「3～5時間未満」の割合が高く、男性は「1時間未満」「家事には関わらない」の割合が女性を大きく上回っている。



年齢別では、女性は29歳以下で「1時間未満」、40代で「1～2時間未満」、60代で「3～5時間未満」、70歳以上で「2～3時間未満」の割合がそれぞれ高く、男性は30代で「1～2時間未満」、50代で「2～3時間未満」の割合が高くなっている。また、男性の29歳以下や40代では「家事には関わらない」の割合が高くなっている。

未既婚別では、未婚者は「1時間未満」の割合が既婚者を大きく上回っている。

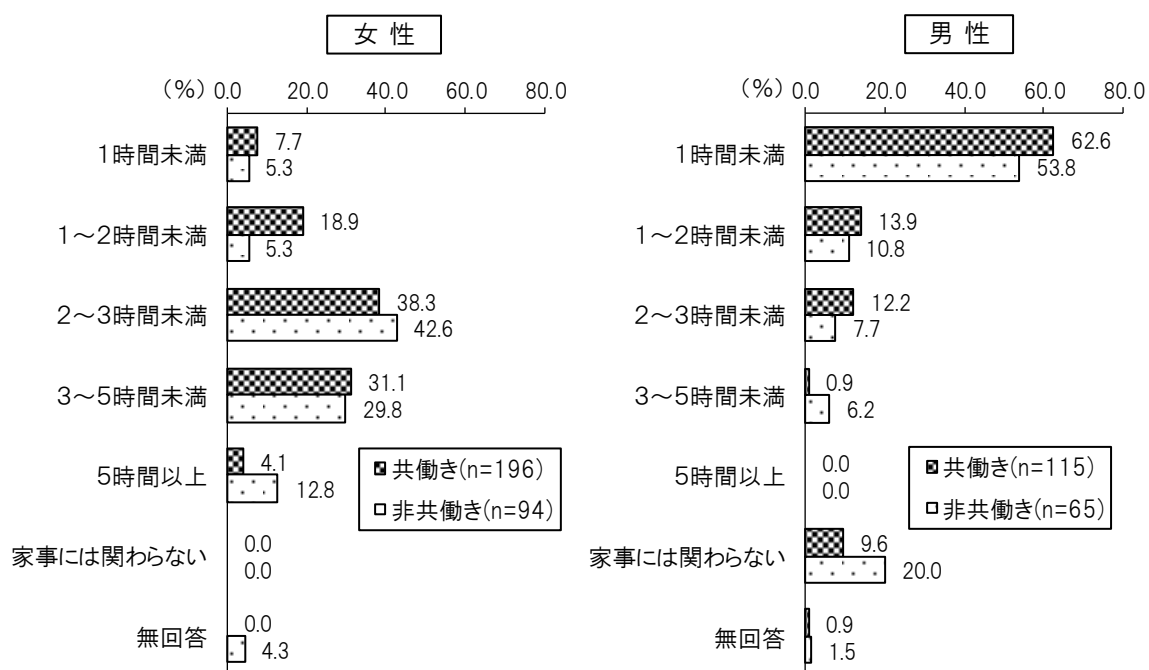
### ＜平日の家事に費やす時間＞

凡例 (%)	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～5時間未満	5時間以上	家事には関わらない
全体(n=634)	32.3	13.6	24.8	15.8	3.8	7.6
<b>【女性年齢別】</b>						
29歳以下(n=53)	45.3	9.4	18.9	9.4	3.8	11.3
30代(n=73)	20.5	13.7	37.0	20.5	5.5	1.4
40代(n=80)	12.5	21.3	31.3	27.5	3.8	2.5
50代(n=77)	6.5	16.9	41.6	27.3	6.5	1.3
60代(n=58)	8.6	12.1	31.0	32.8	10.3	0.0
70歳以上(n=47)	4.3	8.5	46.8	27.7	8.5	0.0
<b>【男性年齢別】</b>						
29歳以下(n=31)	61.3	9.7	6.5	0.0	0.0	22.6
30代(n=47)	57.4	17.0	8.5	2.1	0.0	12.8
40代(n=41)	61.0	9.8	4.9	0.0	0.0	22.0
50代(n=49)	57.1	10.2	16.3	0.0	0.0	14.3
60代(n=38)	63.2	13.2	7.9	0.0	0.0	10.5
70歳以上(n=37)	56.8	10.8	8.1	10.8	0.0	13.5
<b>【未既婚別】</b>						
未婚(n=126)	55.6	11.1	10.3	0.0	0.0	19.0
既婚(n=506)	26.7	14.0	28.5	19.8	4.5	4.7

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(年齢別など)において最も高い割合を示している。  
 但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。  
 また「無回答」は表記から省略している。(本報告書においては、以下同様)

共働き別でみると、女性の共働きの人は共働きでない人に比べて「1～2時間未満」の割合が高く、共働きでない人は「5時間以上」の割合が高くなっている。また、男性の共働きの人は共働きでない人に比べて「1時間未満」の割合が高く、共働きでない人は「家事には関わらない」の割合が高くなっている。

### ＜平日の家事に費やす時間（共働き別）＞

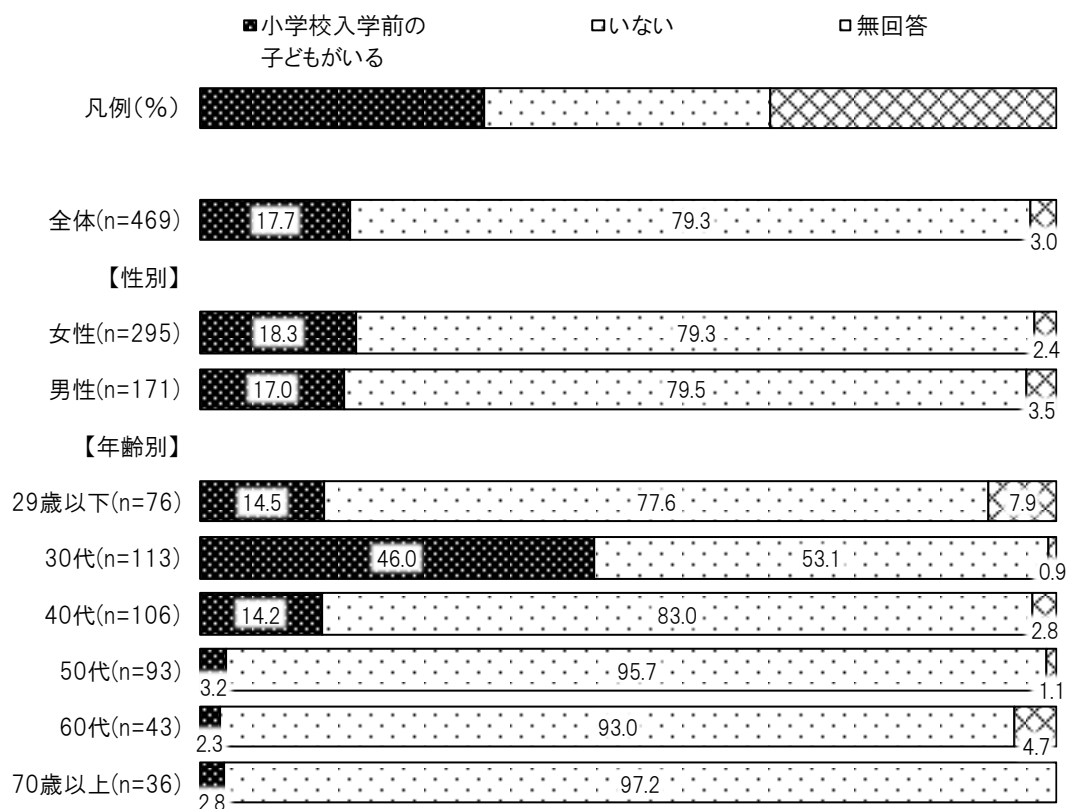


## 7 未就学児の有無

【問5で「3～4」と答えた方におたずねします。】

問7 あなたの同居家族の中に、小学校入学前の子どもはいますか。（○印1つ）

未就学児については、「小学校入学前の子どもがいる」割合が17.7%となっている。  
性別では大きな差はみられないが、年齢別では30代で「小学校入学前の子どもがいる」割合が他の年齢層を大きく上回っている。



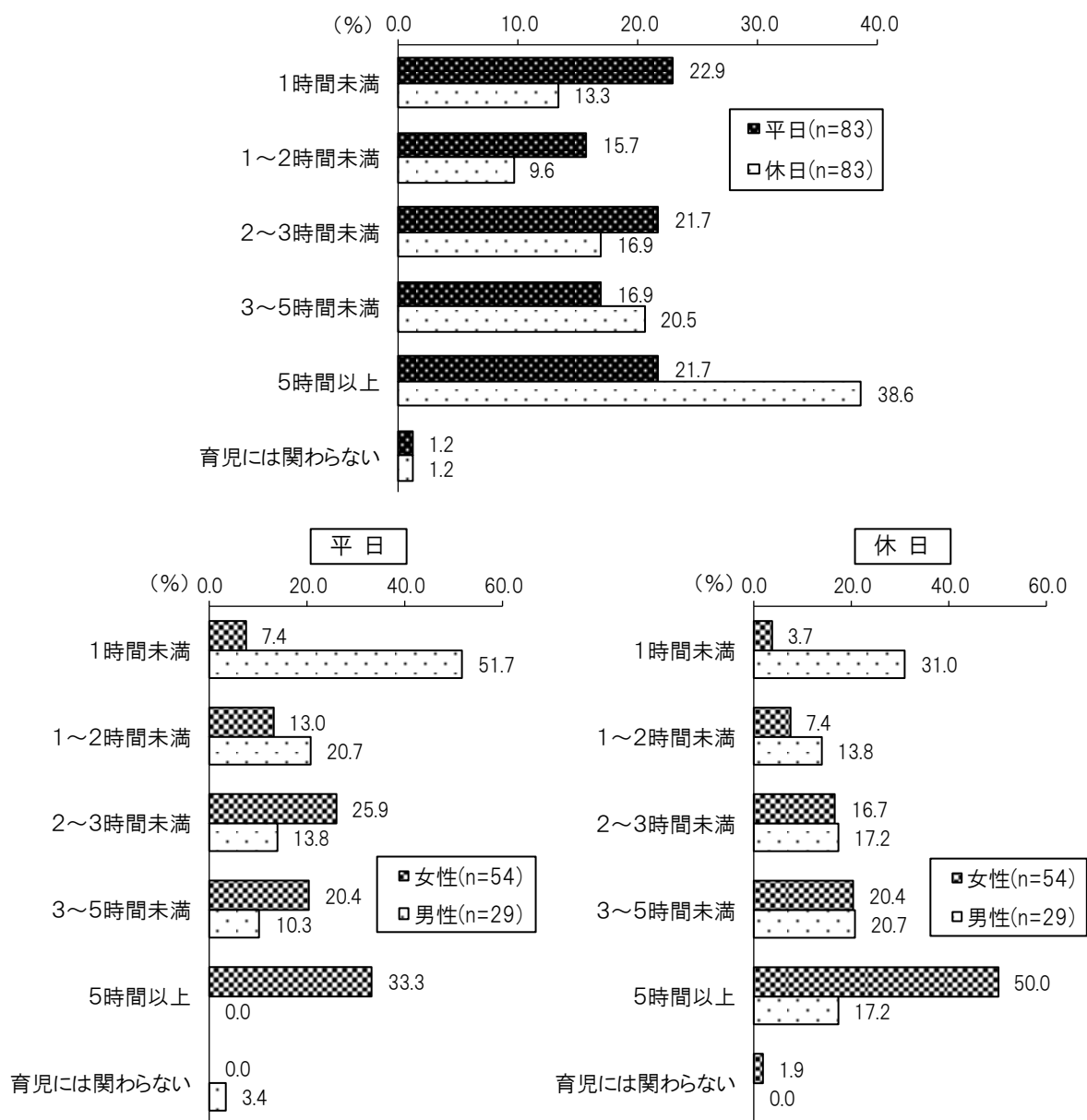
## 8 育児に費やす時間

【問7で「1」と答えた方におたずねします。】

問8 あなたが、子どもの食事や入浴の世話、保育所等への送迎など、育児に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。平日と休日に分けてお答えください。  
(○印1つずつ)

1日のうち育児に費やす時間をみると、平日は「1時間未満」の割合が22.9%と最も高く、次いで「2～3時間未満」「5時間以上」（各21.7%）が続いている。一方、休日は「5時間以上」の割合が最も高くなっている。

性別では、平日、休日共に、女性は「5時間以上」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「1時間未満」の割合が高くなっている。

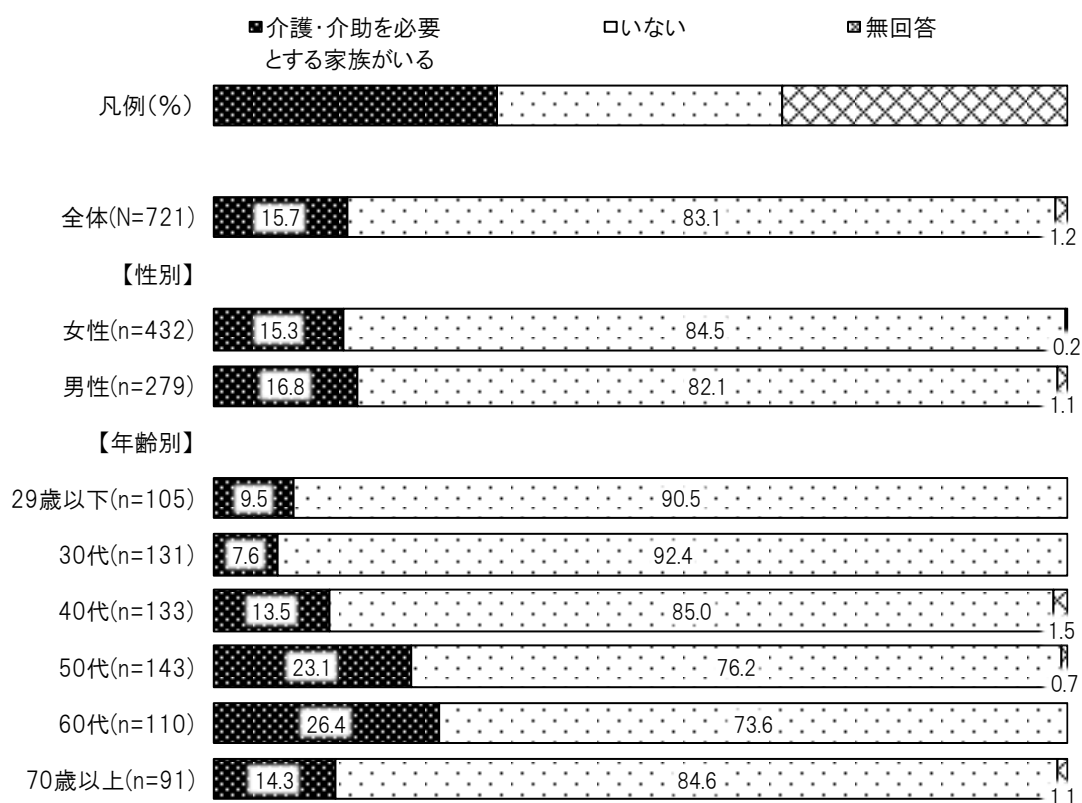


## 9 要介護者の有無

問9 あなたの家族の中に、介護・介助を必要とする方はいますか。（同居の有無は問いません。）（○印1つ）

要介護者については、「介護・介助を必要とする家族がいる」割合が15.7%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では50～60代で「介護・介助を必要とする家族がいる」割合が高くなっている。



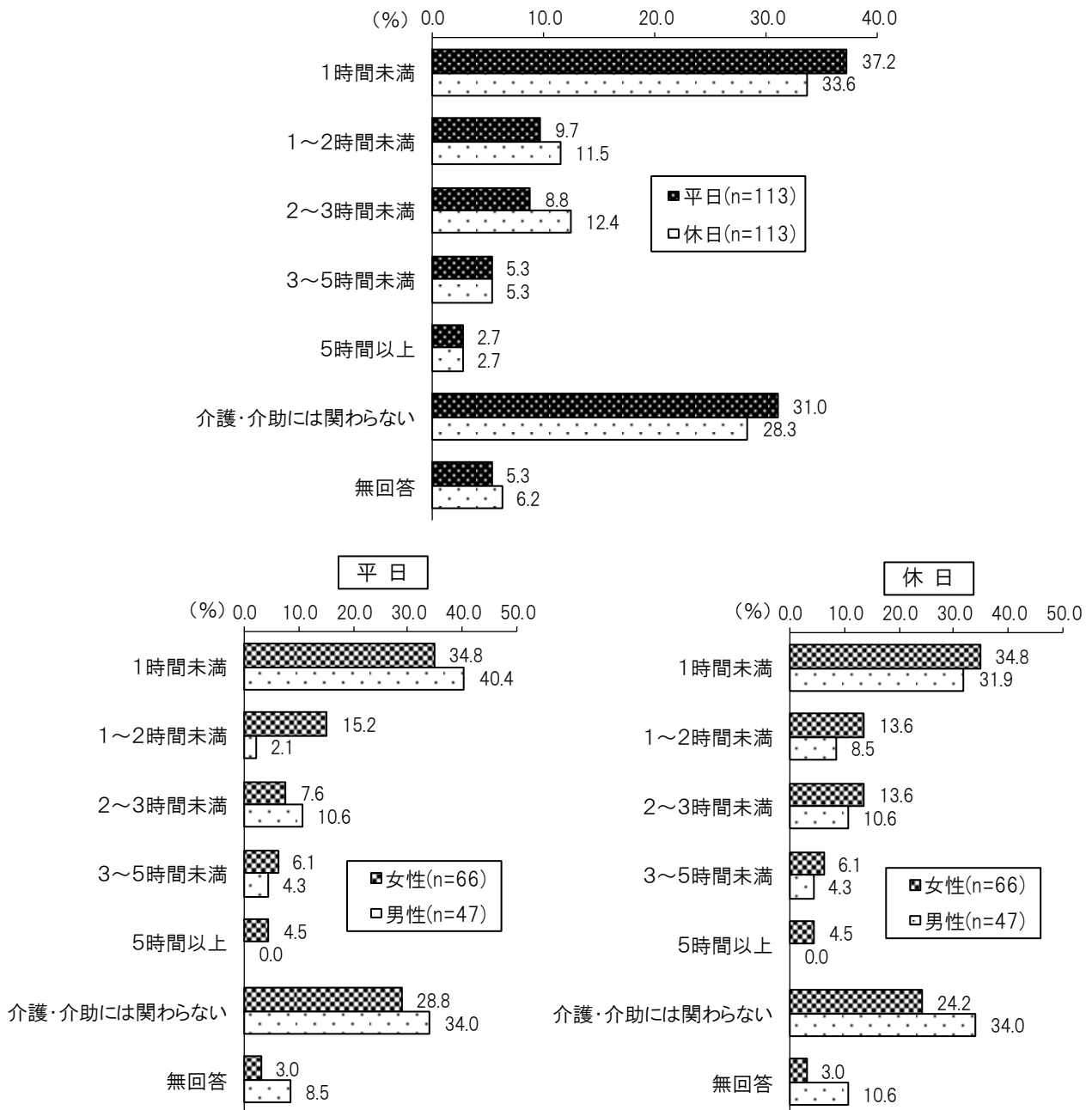
## 10 介護に費やす時間

【問9で「1」と答えた方におたずねします。】

問10 あなたが、介護・介助を必要とする家族の日常生活の世事に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。平日と休日に分けてお答えください。  
(○印1つつつ)

1日のうち介護に費やす時間をみると、平日は「1時間未満」の割合が37.2%と最も高く、次いで「1～2時間未満」(9.7%)、「2～3時間未満」(8.8%)の順となっており、約3割(31.0%)は「介護・介助には関わらない」と回答している。また、休日は平日と比べ、大きな差はみられない。

性別では、平日は女性で「1～2時間未満」の割合が男性を大きく上回っており、平日、休日共に、男性は女性に比べ「介護・介助には関わらない」の割合が高くなっている。



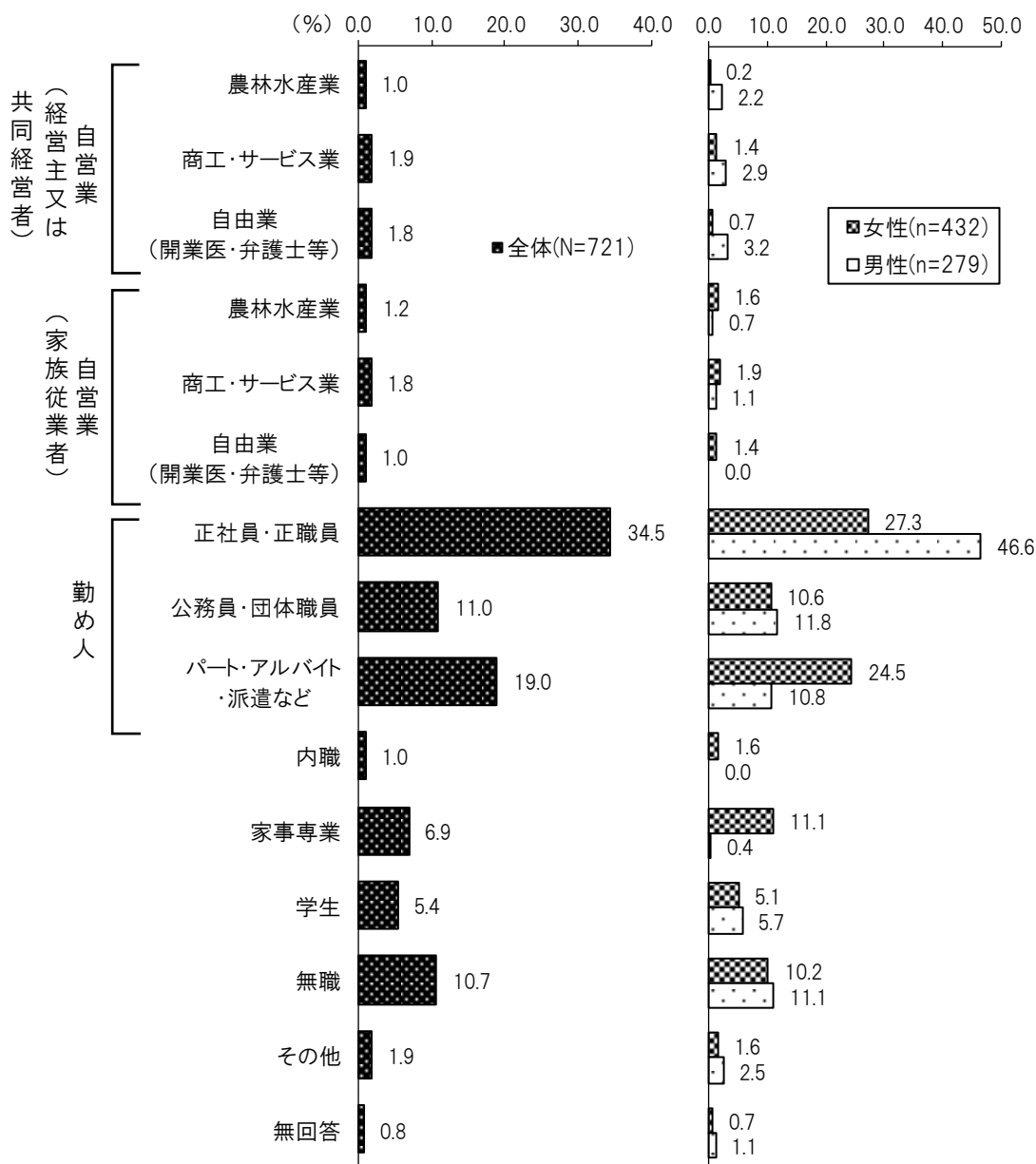


## 11 職業

問 11 あなたの職業をお答えください。(○印1つ)

職業については、「正社員・正職員」の割合が34.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣など」(19.0%)、「公務員・団体職員」(11.0%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「パート・アルバイト・派遣など」「家事専業」の割合が高く、男性は「正社員・正職員」の割合が女性を大きく上回っている。

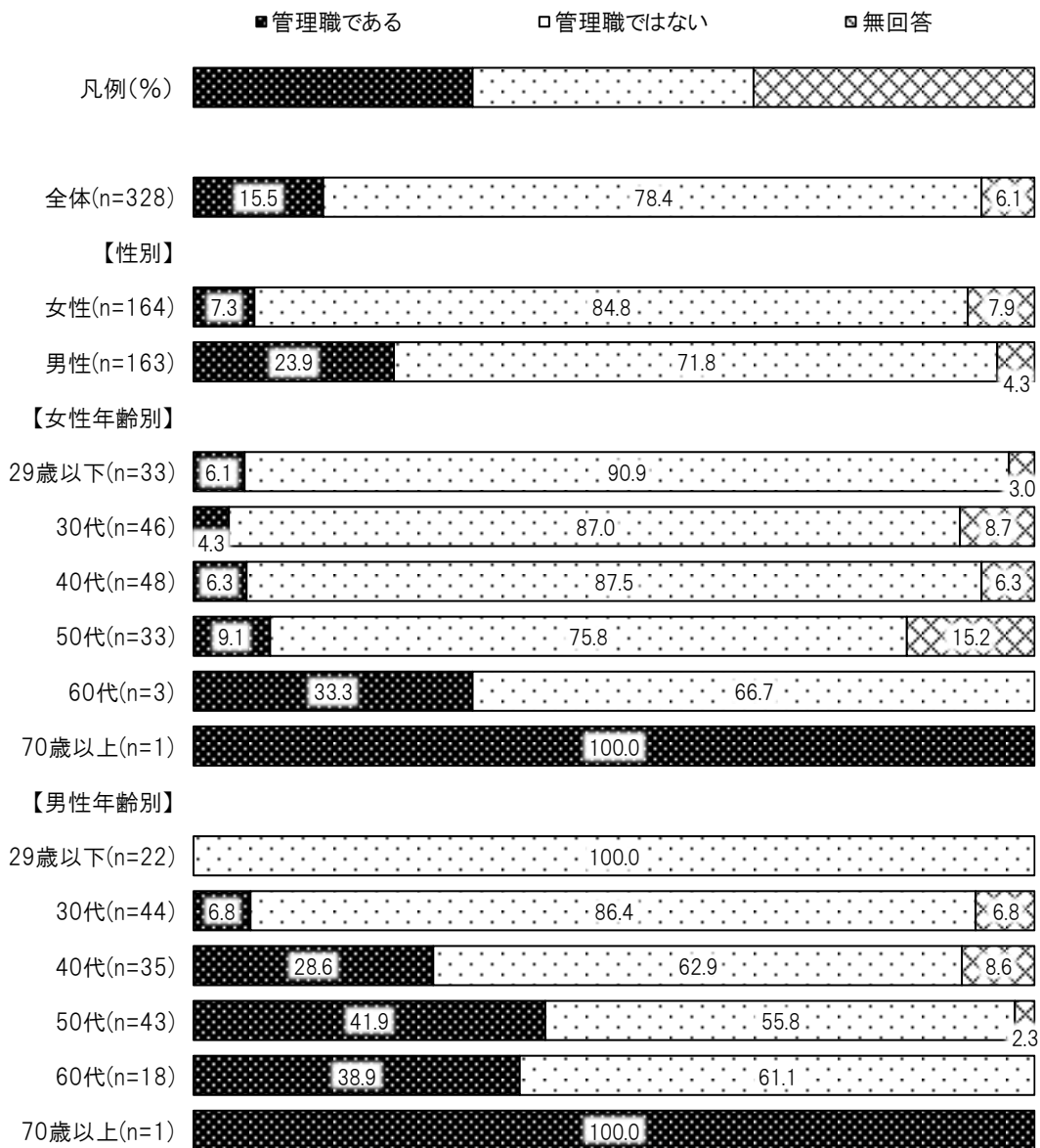


## 12 管理職

【問 11 で「7 正社員・正職員」「8 公務員・団体職員」と答えた方のみにおたずねします。】  
 問 11 付問 あなたは管理職ですか。

管理職については、「管理職である」が 15.5%、「管理職ではない」が 78.4%となっている。「管理職である」の割合は、女性が 7.3%、男性が 23.9%と、男性は女性の約 3 倍となっている。

年齢別では、男性の 50～60 代で「管理職である」の割合が高くなっている。



注：件数(n)が 10 未満の項目については、参考値として参照

### Ⅲ 調査結果

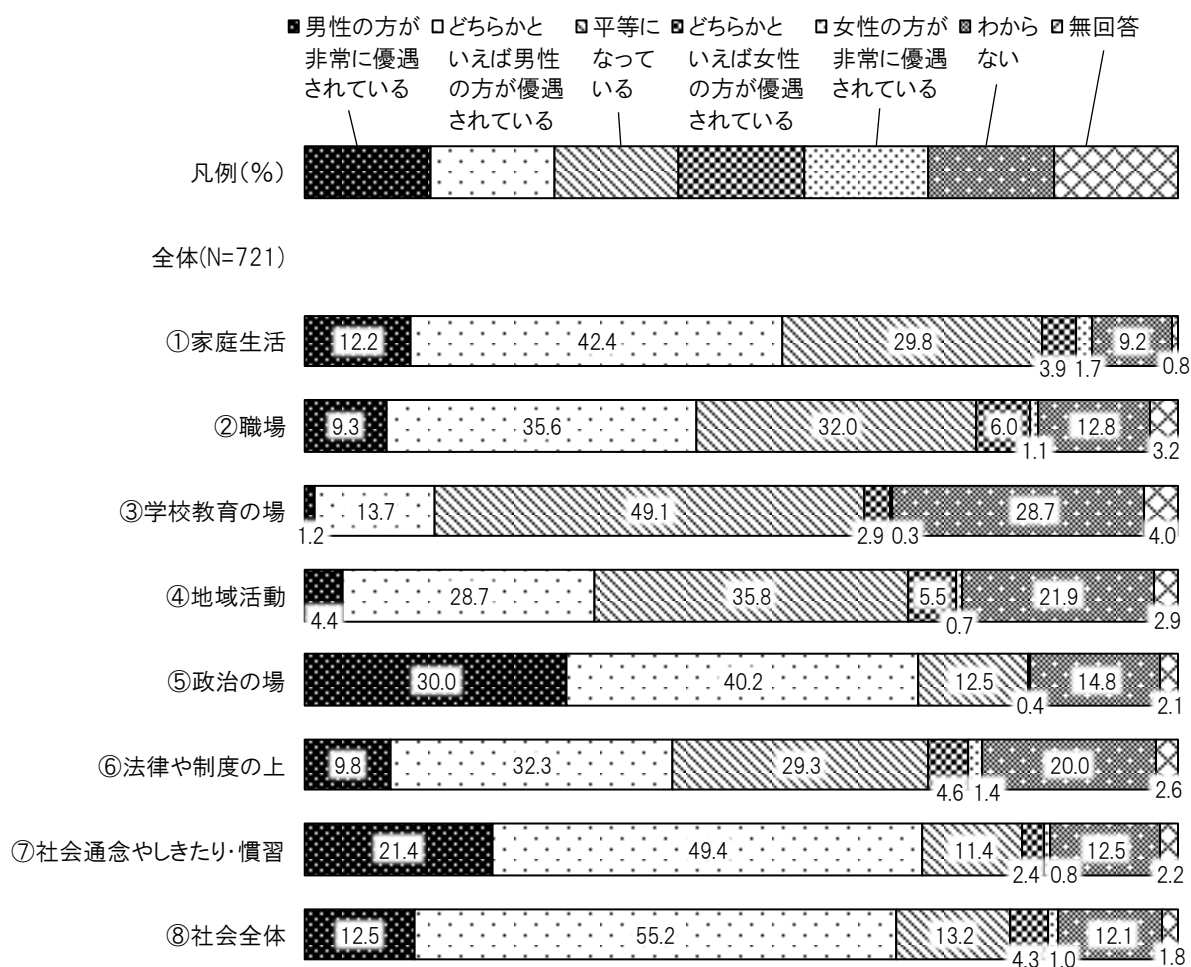
#### 【1】男女の平等意識について

##### 1 男女の平等意識

問 12 あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目についてお答えください。(○印1つずつ)

男女の平等意識については、全ての分野において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）の割合を上回っている。特に、「⑦社会通念やしきたり・慣習」（70.8%）、「⑤政治の場」（70.2%）、「⑧社会全体」（67.7%）で『男性優遇』の割合が高くなっている。

一方、「平等になっている」では「③学校教育の場」（49.1%）で高くなっている。

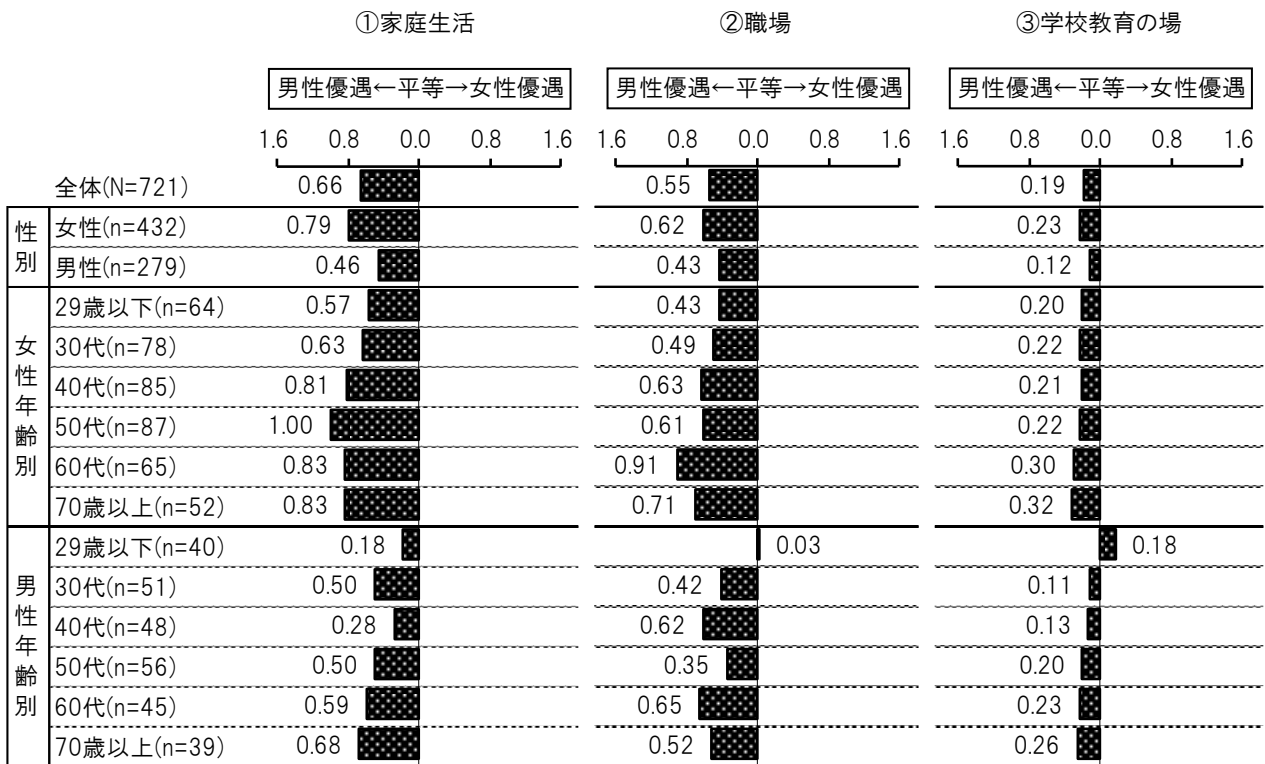


平均評定値\*による属性別傾向をみると、全ての分野において、女性は男性に比べ『男性優遇』意識が高くなっている。

年齢別では、男性の29歳以下において「②職場」「③学校教育の場」「④地域活動」で『平等』あるいは『女性優遇』意識が高くなっている。また、女性の50代では「①家庭生活」、女性の60代では「②職場」「⑤政治の場」で『男性優遇』意識が高くなっている。

※平均評定値

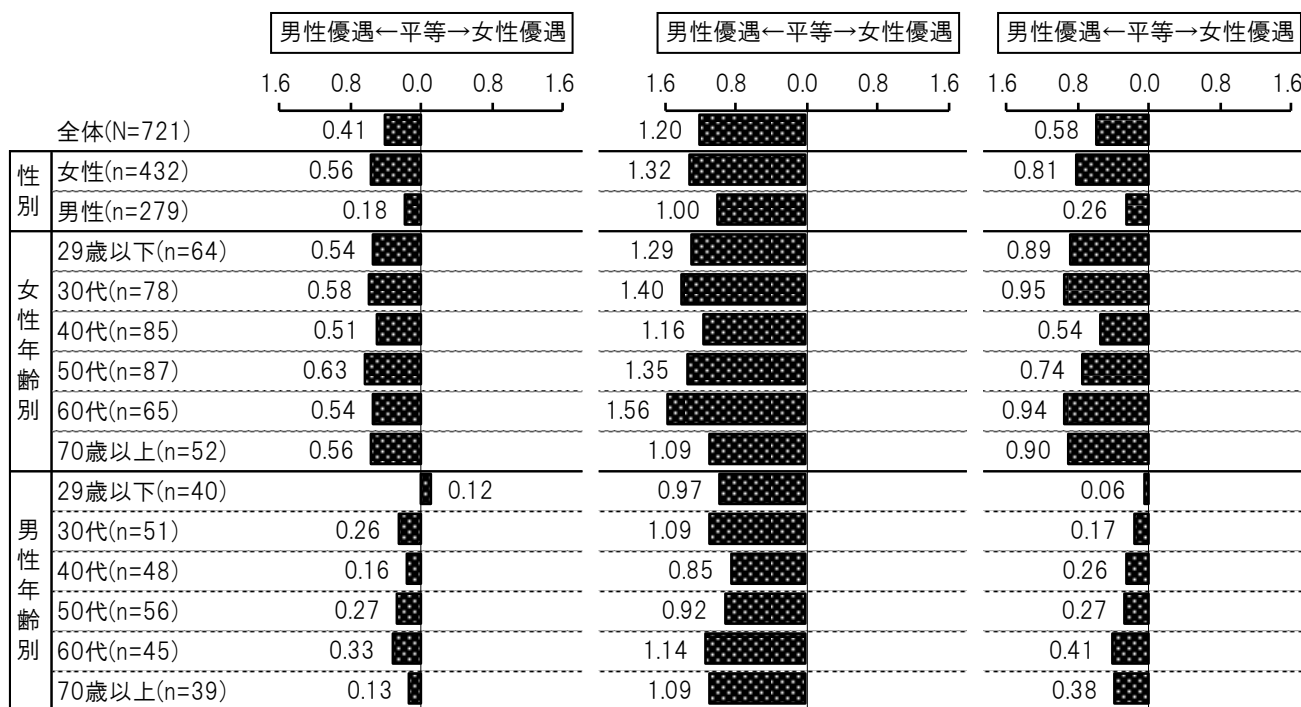
平均評定値とは、女性、男性それぞれについて「非常に優遇されている」に2点、「どちらかといえば優遇されている」に1点、「平等になっている」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ加重平均して算出した値で、グラフ上では左側が男性優遇、右側が女性優遇、0に近いほど平等を示す指標である。



④地域活動

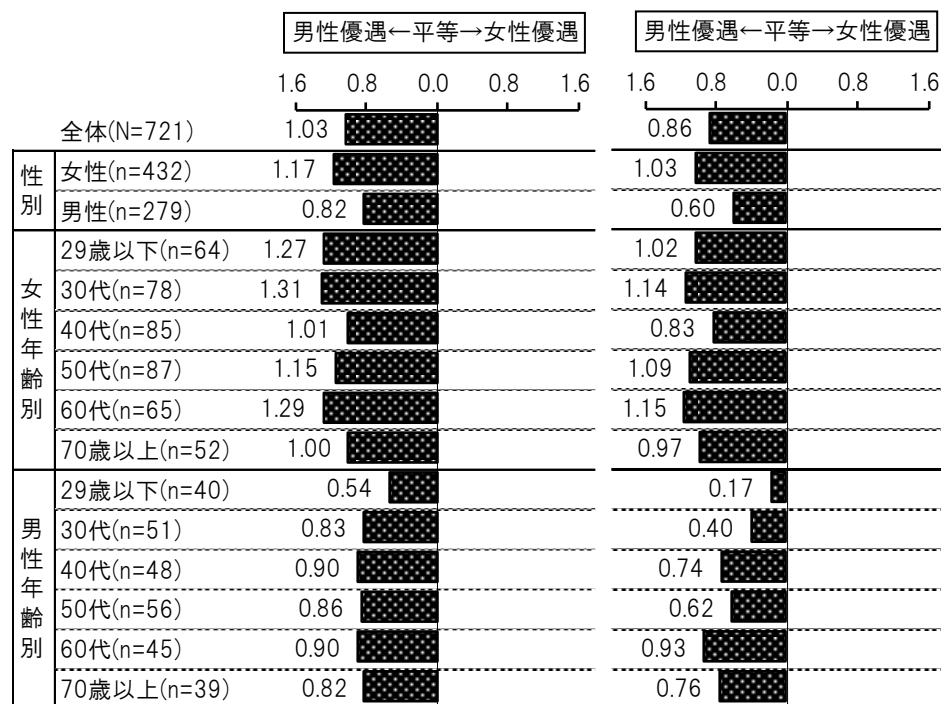
⑤政治の場

⑥法律や制度の上

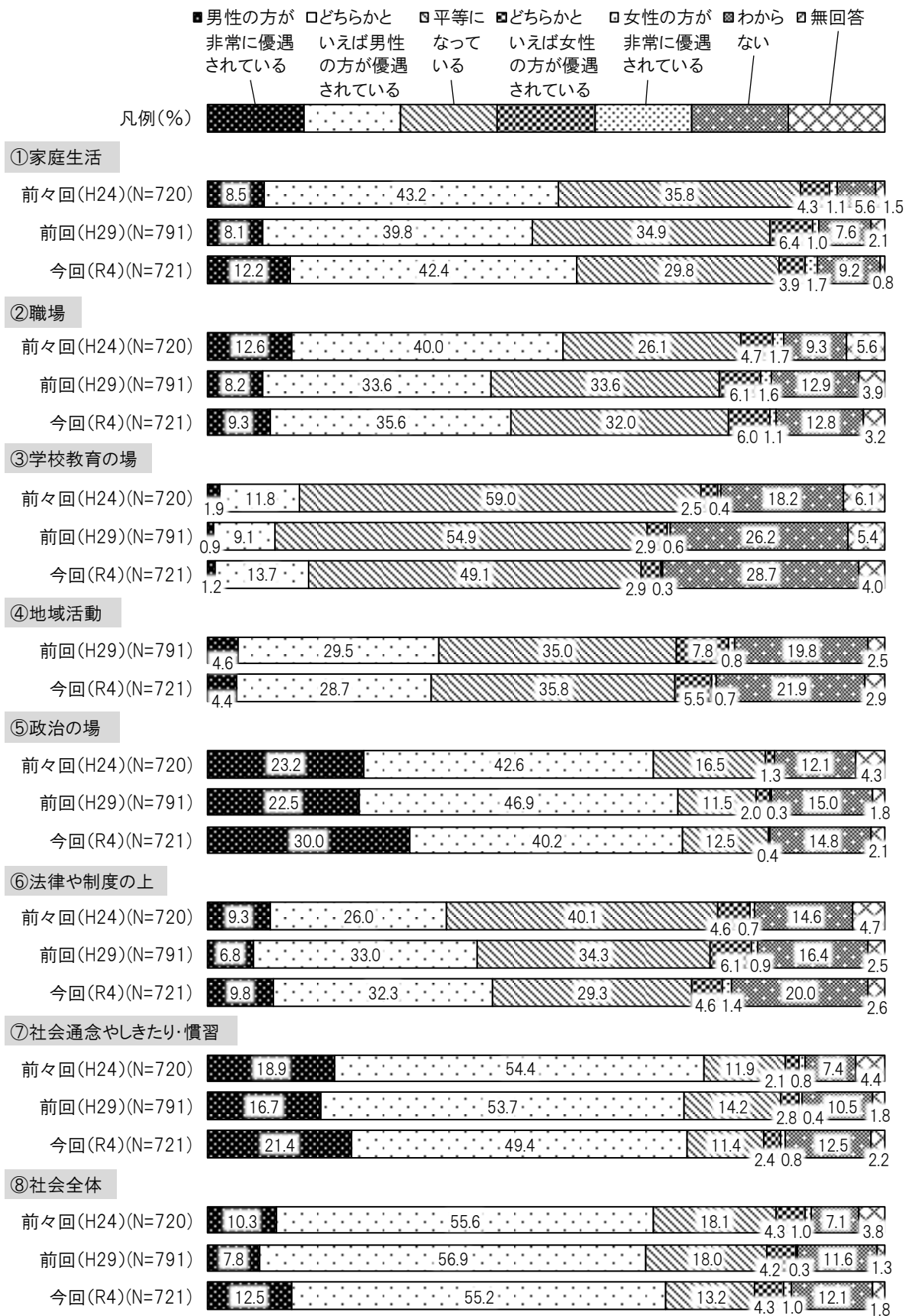


⑦社会通念やしきたり・慣習

⑧社会全体

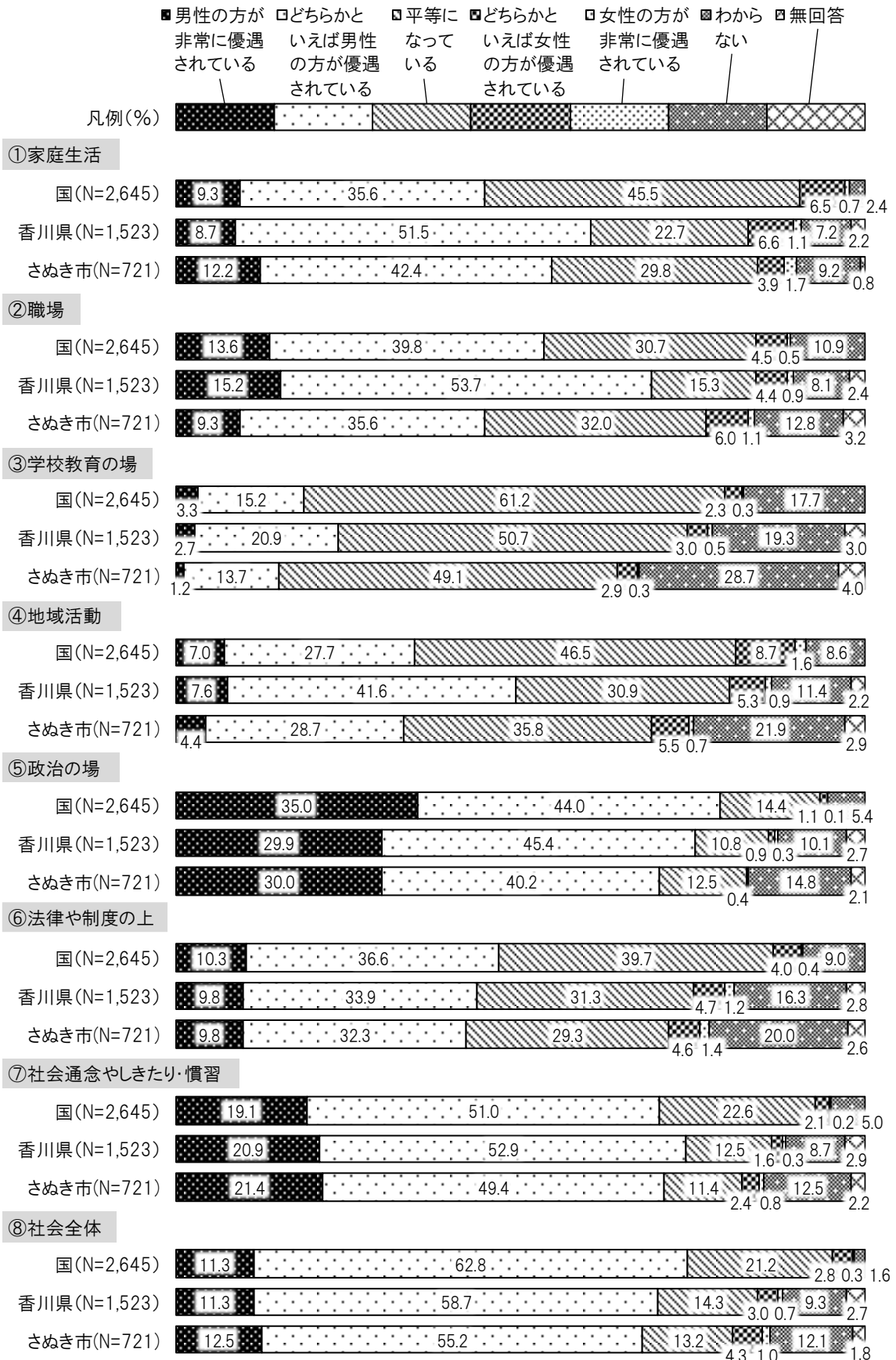


【参考／時系列推移】



注：前回及び前々回調査については、調査を実施している項目のみ掲載している。（以下同様）

【参考／香川県・国との比較】



## 【2】職業生活について

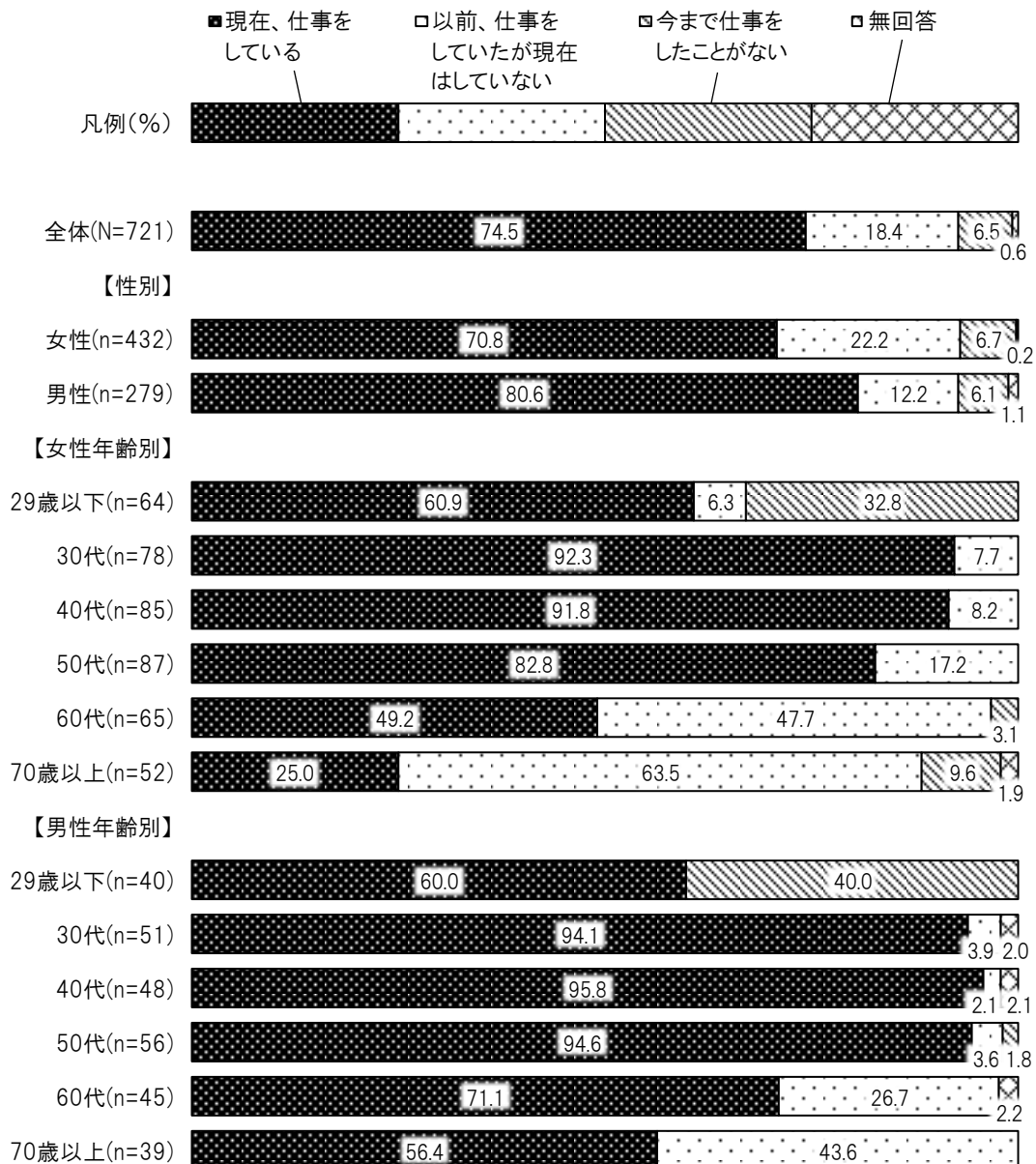
### 1 就労状況

問 13 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。（学生のアルバイトは除く）  
 ※ 病気や出産・育児、家族の介護などで一時休業している場合も、仕事をしていることに含まれます。（○印1つ）

就労状況については、「現在、仕事をしている」が74.5%、「以前、仕事をしていたが現在はしていない」が18.4%、合計で92.9%となっている。一方、「今まで仕事をしたことがない」は6.5%となっている。

性別では、女性は「以前、仕事をしていたが現在はしていない」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、女性の30～50代で「以前、仕事をしていたが現在はしていない」の割合が男性を上回っている。





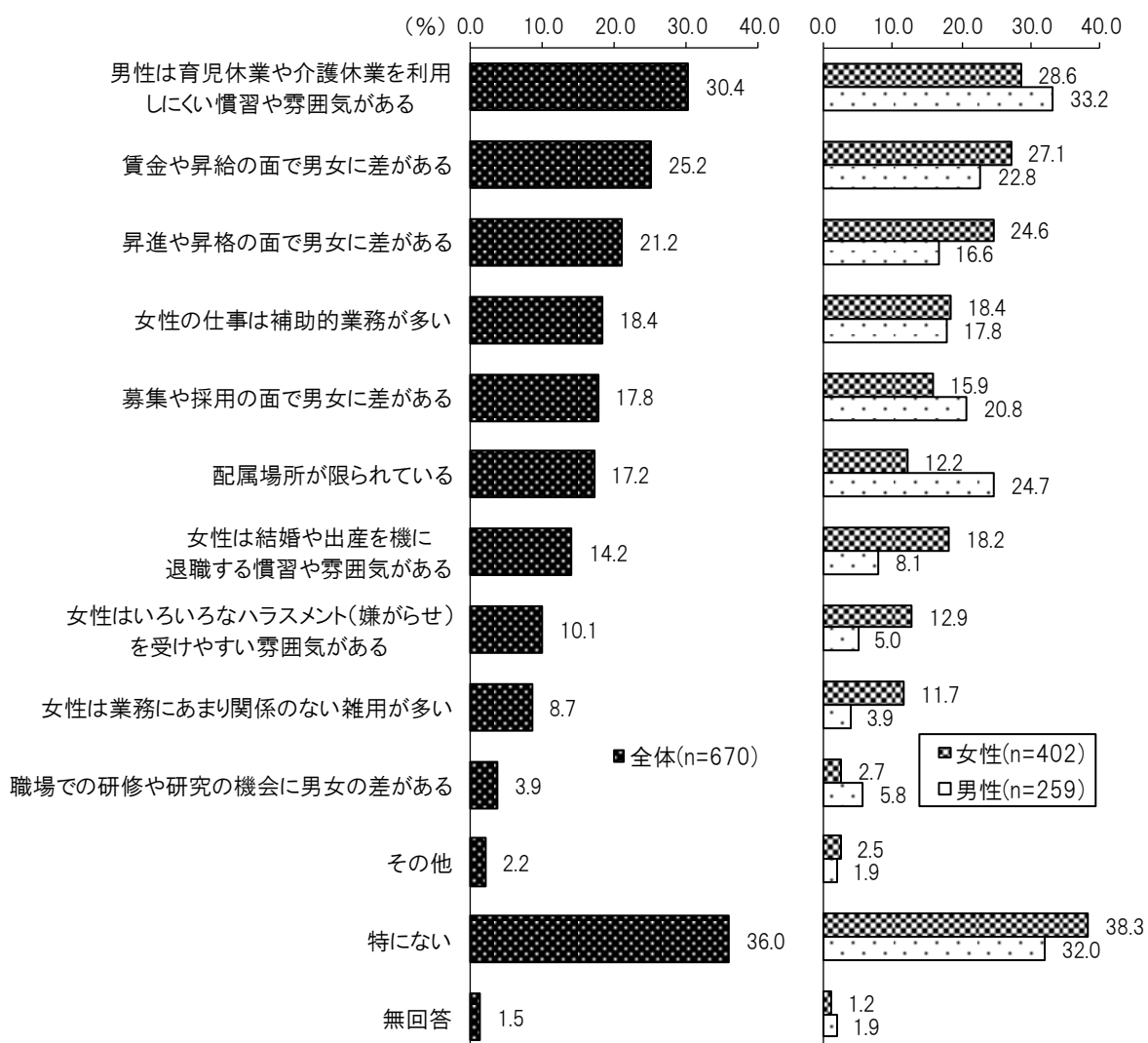
## 2 仕事の内容や待遇面での男女差

【問 13 で「1～2」と答えた方におたずねします。】

問 14 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、次のような男女間の格差がありますか（又は、ありましたか）。（○印いくつでも）

仕事の内容や待遇面での男女差については、「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「賃金や昇給の面で男女に差がある」（25.2%）、「昇進や昇格の面で男女に差がある」（21.2%）、「女性の仕事は補助的業務が多い」（18.4%）、「募集や採用の面で男女に差がある」（17.8%）の順となっている。一方、「特にない」は 36.0%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「昇進や昇格の面で男女に差がある」「女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある」などの割合が高く、男性は「配属場所が限られている」の割合が女性を大きく上回っている。



年齢別では、女性は50～60代で「昇進や昇格の面で男女に差がある」、60代以上で「女性の仕事は補助的業務が多い」の割合が高く、女性は年齢が上がるほど「賃金や昇給の面で男女に差がある」の割合が高くなっている。また、男性の30代では「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」の割合が高くなっている。

単位 (%)	男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある	賃金や昇給の面で男女に差がある	昇進や昇格の面で男女に差がある	女性の仕事は補助的業務が多い	募集や採用の面で男女に差がある	配属場所が限られている	女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	女性（嫌がらせ）を避けやすい雰囲気がある	雑用は業務にあまり関係のない	女性の差がある	職場での研修や研究の機会に男女の差がある	その他	特になし
全体(n=670)	30.4	25.2	21.2	18.4	17.8	17.2	14.2	10.1	8.7	3.9	2.2	36.0	
【女性年齢別】													
29歳以下(n=43)	34.9	14.0	14.0	14.0	20.9	11.6	16.3	23.3	11.6	0.0	2.3	37.2	
30代(n=78)	24.4	25.6	17.9	15.4	19.2	9.0	14.1	10.3	14.1	0.0	0.0	50.0	
40代(n=85)	30.6	25.9	21.2	11.8	8.2	10.6	16.5	9.4	11.8	3.5	3.5	41.2	
50代(n=87)	33.3	28.7	33.3	17.2	13.8	16.1	17.2	14.9	14.9	6.9	2.3	36.8	
60代(n=63)	28.6	31.7	33.3	27.0	19.0	11.1	25.4	12.7	6.3	1.6	0.0	31.7	
70歳以上(n=46)	17.4	34.8	23.9	30.4	19.6	15.2	21.7	10.9	8.7	2.2	8.7	26.1	
【男性年齢別】													
29歳以下(n=24)	25.0	12.5	12.5	16.7	12.5	16.7	16.7	12.5	12.5	0.0	0.0	41.7	
30代(n=50)	42.0	18.0	18.0	18.0	24.0	22.0	14.0	12.0	4.0	8.0	2.0	36.0	
40代(n=47)	34.0	19.1	10.6	21.3	23.4	29.8	2.1	0.0	4.3	0.0	2.1	19.1	
50代(n=55)	30.9	9.1	3.6	7.3	18.2	25.5	5.5	3.6	1.8	5.5	0.0	38.2	
60代(n=44)	38.6	40.9	31.8	22.7	22.7	25.0	9.1	2.3	2.3	11.4	4.5	31.8	
70歳以上(n=39)	23.1	38.5	25.6	23.1	20.5	25.6	5.1	2.6	2.6	7.7	2.6	28.2	

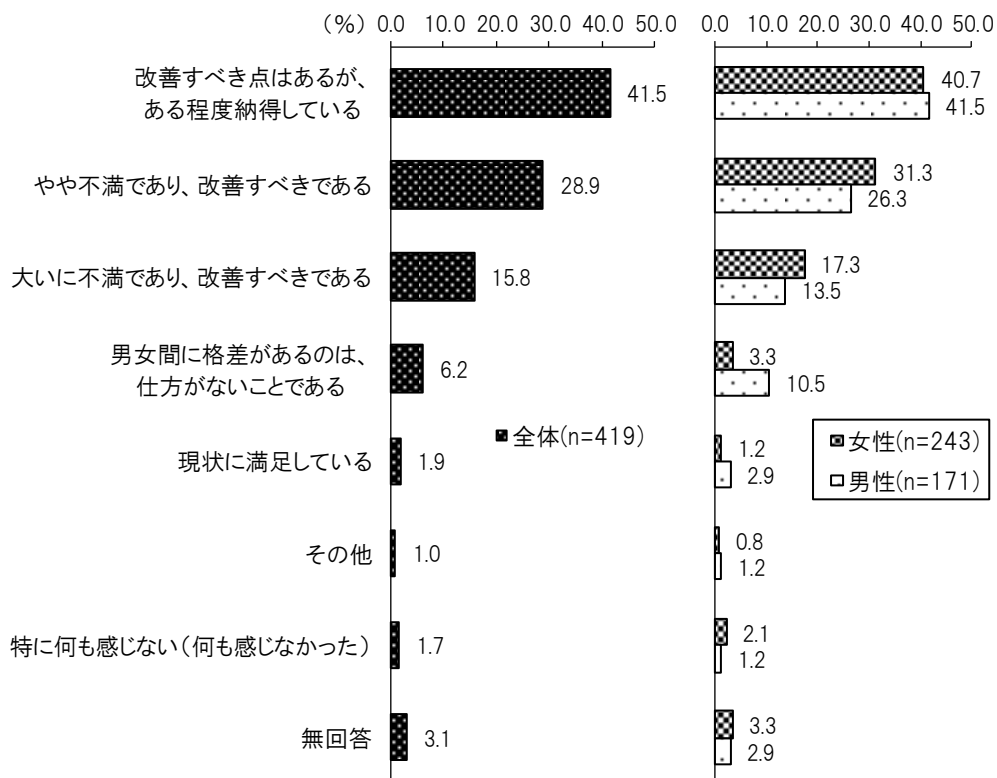
### 3 男女間の格差について

【問 14 で「1～11」と答えた方におたずねします。】

問 15 あなたは、そのような男女間の格差があることに対して、どのように思いますか。  
(○印1つ)

男女間の格差については、「改善すべき点はあるが、ある程度納得している」の割合が41.5%と最も高く、次いで「やや不満であり、改善すべきである」(28.9%)、「大いに不満であり、改善すべきである」(15.8%)、「男女間に格差があるのは、仕方がないことである」(6.2%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「やや不満であり、改善すべきである」「大いに不満であり、改善すべきである」の割合が高く、男性は「男女間に格差があるのは、仕方がないことである」の割合が女性を上回っている。



年齢別では、女性の30代で「やや不満であり、改善すべきである」の割合が高く、男性は30代以下で「大いに不満であり、改善すべきである」、60代以上で「男女間に格差があるのは、仕方がないことである」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。

職業別では、自営業（家族従業者）で「改善すべき点はあるが、ある程度納得している」の割合が他の層を大きく上回っている。

単位 (%)	改善すべき点はある程度納得している	やや不満であり、改善	大いに不満であり、改善	男女間に格差があるのは仕方がないことである	現状に満足している	その他	特に何も感じない（何も感じなかった）
全体(n=419)	41.5	28.9	15.8	6.2	1.9	1.0	1.7
<b>【女性年齢別】</b>							
29歳以下(n=26)	26.9	34.6	23.1	3.8	7.7	3.8	0.0
30代(n=39)	33.3	43.6	20.5	0.0	0.0	0.0	2.6
40代(n=49)	38.8	34.7	16.3	4.1	2.0	0.0	4.1
50代(n=55)	45.5	30.9	18.2	1.8	0.0	1.8	1.8
60代(n=43)	48.8	27.9	18.6	2.3	0.0	0.0	0.0
70歳以上(n=31)	45.2	12.9	6.5	9.7	0.0	0.0	3.2
<b>【男性年齢別】</b>							
29歳以下(n=14)	35.7	21.4	28.6	7.1	7.1	0.0	0.0
30代(n=32)	37.5	31.3	25.0	0.0	3.1	0.0	3.1
40代(n=37)	43.2	21.6	13.5	8.1	5.4	2.7	2.7
50代(n=32)	37.5	31.3	15.6	6.3	3.1	0.0	0.0
60代(n=30)	46.7	23.3	3.3	23.3	0.0	0.0	0.0
70歳以上(n=26)	46.2	26.9	0.0	19.2	0.0	3.8	0.0
<b>【職業別】</b>							
自営業(経営主等)(n=16)	37.5	37.5	12.5	6.3	6.3	0.0	0.0
自営業(家族従業者)(n=14)	57.1	7.1	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0
正社員・正職員(n=162)	42.0	27.8	19.8	2.5	2.5	1.9	2.5
公務員・団体職員(n=45)	37.8	42.2	11.1	4.4	2.2	0.0	0.0
パート・アルバイト等(n=79)	45.6	31.6	11.4	3.8	1.3	1.3	2.5
家事専業(n=36)	47.2	16.7	22.2	5.6	2.8	0.0	2.8
学生(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無職(n=59)	33.9	30.5	13.6	15.3	0.0	0.0	0.0

注：学生については、件数(n)が少ないため参考値として参照

## 4 退職の経験

【問 13 で「1～2」と答えた方におたずねします。】

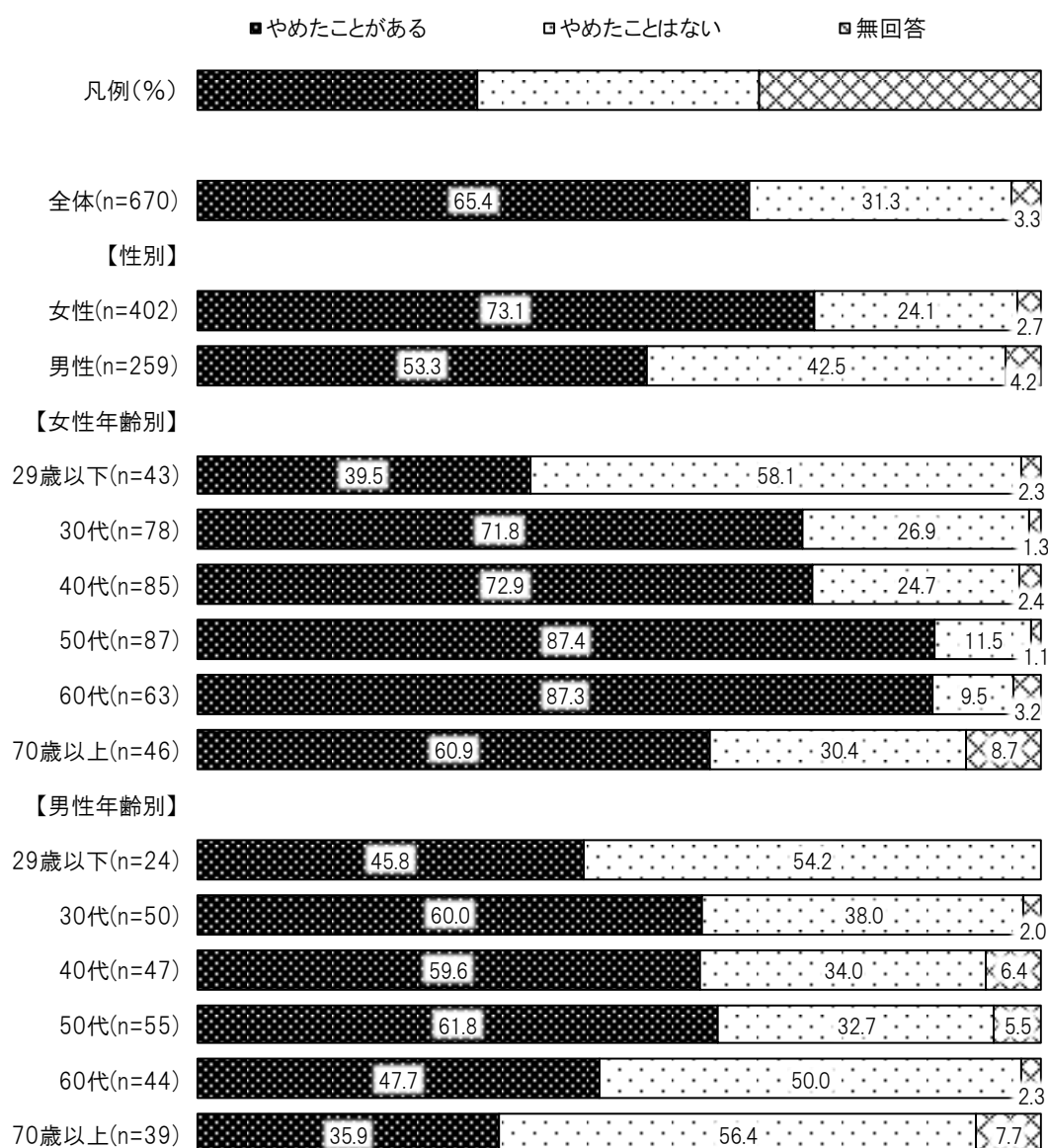
問 16 あなたはこれまでに、仕事をやめたことがありますか。（定年退職を除く）

（○印1つ）

退職の経験については、「やめたことがある」が 65.4%、「やめたことはない」が 31.3% となっている。

性別では、女性は「やめたことがある」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、女性の 50～60 代で「やめたことがある」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

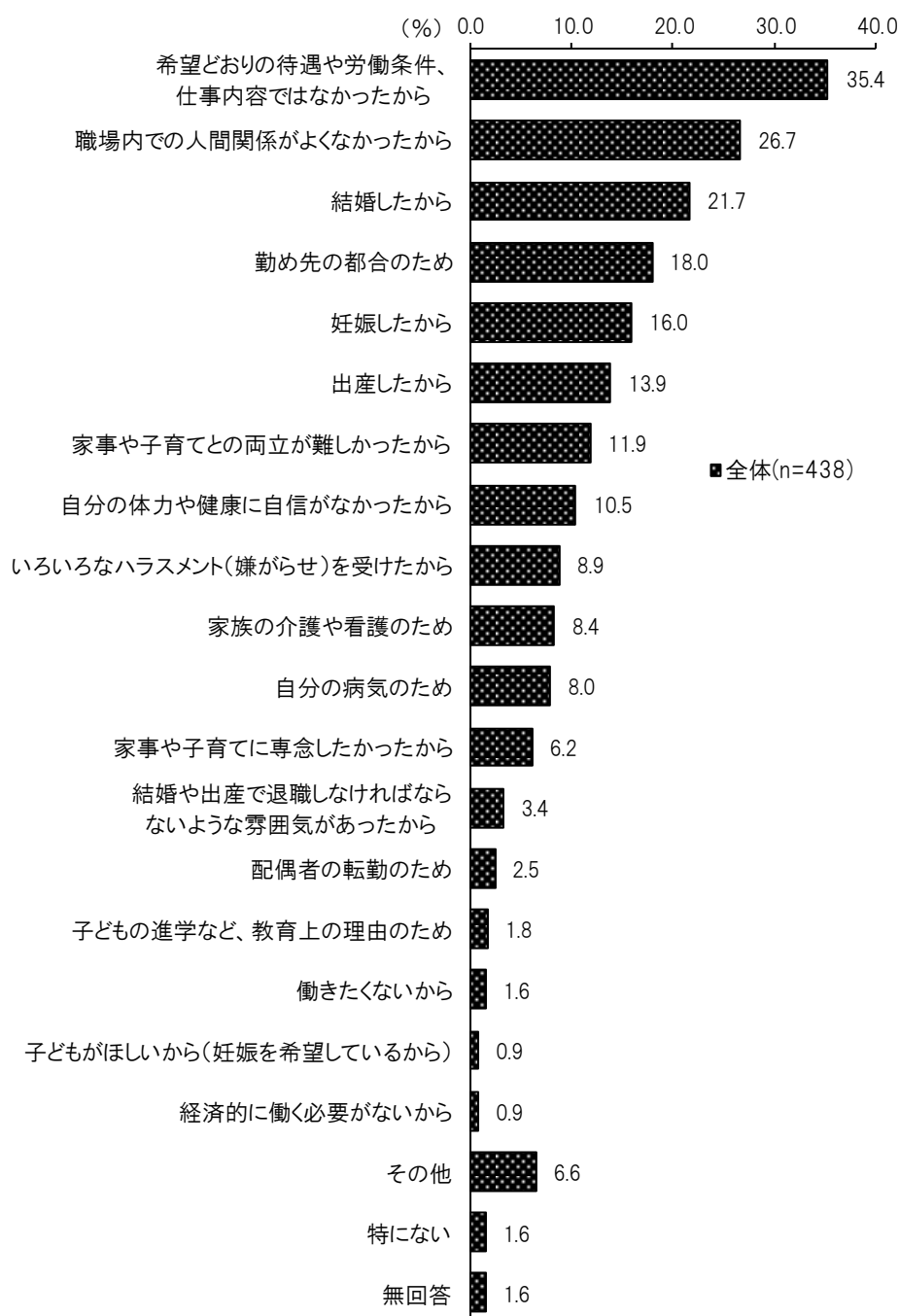


## 5 退職の理由

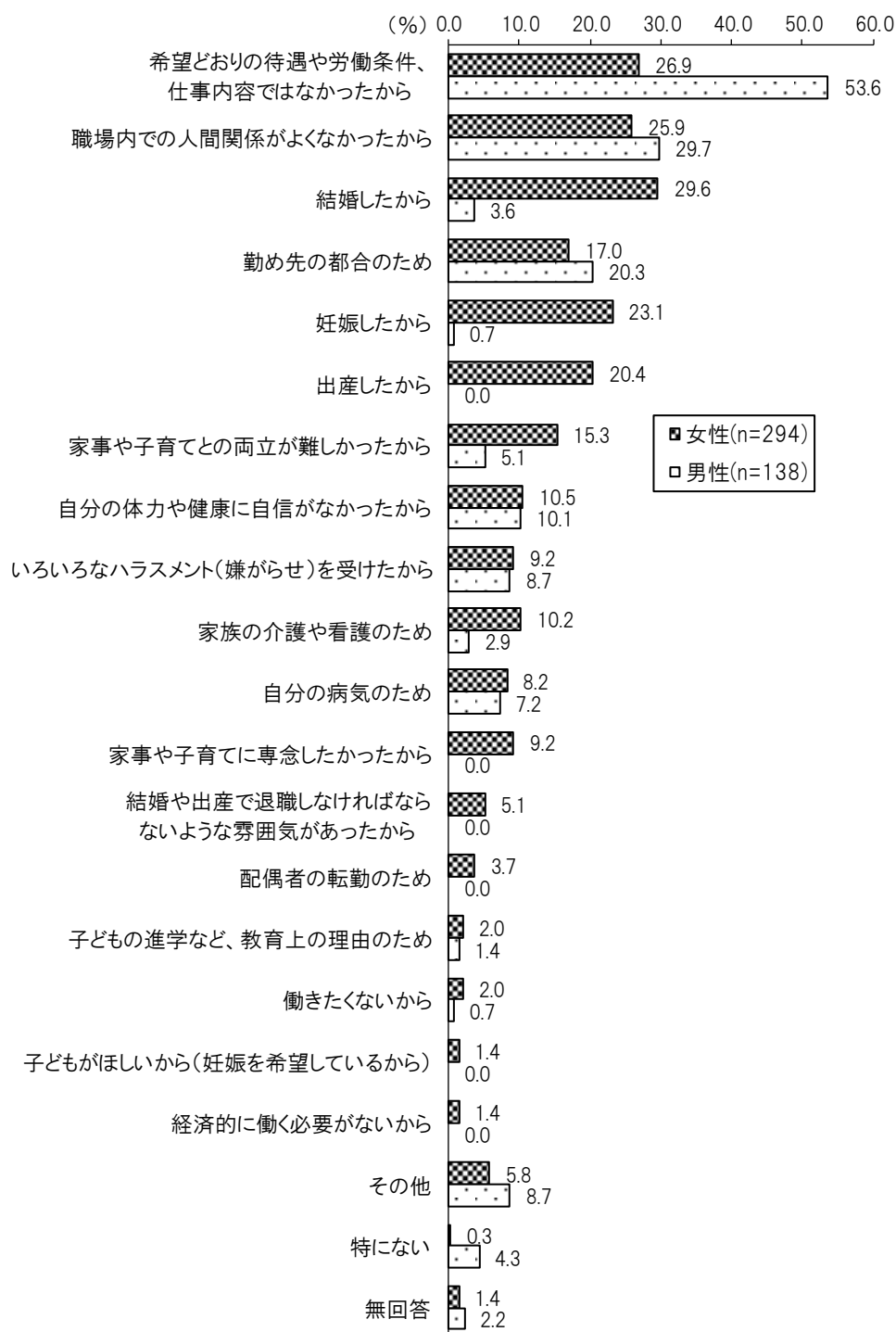
【問 16 で「1」と答えた方におたずねします。】

問 17 あなたが仕事をやめた理由は何ですか。（○印いくつでも）

退職の理由については、「希望どおりの待遇や労働条件、仕事内容ではなかったから」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「職場内での人間関係がよくなかったから」(26.7%)、「結婚したから」(21.7%)、「勤め先の都合のため」(18.0%)、「妊娠したから」(16.0%)の順となっている。



性別では、女性は「結婚したから」「妊娠したから」「出産したから」「家事や子育てとの両立が難しかったから」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「希望どおりの待遇や労働条件、仕事内容ではなかったから」の割合が高くなっている。



女性の年齢別では、若い年齢層ほど「希望どおりの待遇や労働条件、仕事内容ではなかったから」の割合が高く、29歳以下で「職場内での人間関係がよくなかったから」、40代で「勤め先の都合のため」「出産したから」、60代以上で「家族の介護や看護のため」、70歳以上で「結婚したから」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	な働希よ職結勤妊出が家信自たトいめ家 か働条望く場場婚め娠産難事やが分ののたから つ件どく内内した先したしたしや子なな嫌らるな た、件どく内内した先したしたしや子なな嫌らるな か、件どく内内した先したしたしや子なな嫌らるな ら、件どく内内した先したしたしや子なな嫌らるな 仕事の内容や待遇では労働関係が										
全体(n=438)	35.4	26.7	21.7	18.0	16.0	13.9	11.9	10.5	8.9	8.4	
<b>【女性年齢別】</b>											
29歳以下(n=17)	52.9	58.8	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0	23.5	23.5	0.0	
30代(n=56)	46.4	26.8	30.4	10.7	28.6	16.1	21.4	10.7	8.9	0.0	
40代(n=62)	33.9	25.8	32.3	24.2	25.8	29.0	12.9	6.5	14.5	4.8	
50代(n=76)	15.8	23.7	26.3	18.4	23.7	22.4	14.5	11.8	5.3	11.8	
60代(n=55)	14.5	23.6	30.9	14.5	25.5	18.2	18.2	10.9	9.1	23.6	
70歳以上(n=28)	10.7	14.3	39.3	17.9	10.7	17.9	14.3	7.1	0.0	17.9	

単位 (%)	自た家事秀け結配育子働か(子い経済その他特 分の病つか事困れ婚偶のの働きた(妊どもからに働く必要がない 気につや気ばや者の者の理のたたたたたたたたた のた子や気ばやののののののののののののののののの ためかや気ばやののののののののののののののののの のた子や気ばやののののののののののののののののの た子や気ばやののののののののののののののののの から子や気ばやののののののののののののののののの に育てに専念し										
全体(n=438)	8.0	6.2	3.4	2.5	1.8	1.6	0.9	0.9	6.6	1.6	
<b>【女性年齢別】</b>											
29歳以下(n=17)	17.6	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	0.0	
30代(n=56)	10.7	3.6	7.1	3.6	1.8	0.0	5.4	0.0	5.4	0.0	
40代(n=62)	4.8	11.3	3.2	1.6	3.2	3.2	1.6	0.0	9.7	1.6	
50代(n=76)	11.8	10.5	6.6	5.3	2.6	3.9	0.0	2.6	3.9	0.0	
60代(n=55)	3.6	12.7	7.3	5.5	1.8	0.0	0.0	3.6	1.8	0.0	
70歳以上(n=28)	3.6	7.1	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	



男性の年齢別では、29歳以下で「職場内での人間関係がよくなかったから」「自分の体力や健康に自信がなかったから」、30～40代で「希望どおりの待遇や労働条件、仕事内容ではなかったから」、60代以上で「勤め先の都合のため」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	なかつたから	働条件、仕事の待遇や労働内容では	希望どおりの待遇や労働内容では	よくないから	職場内での人間関係が	結婚したから	勤め先の都合のため	妊娠したから	出産したから	が難しかったから	家事や子育てとの両立	信がなかつたから	自分の体力や健康に自	たから	ト(嫌がらせ)を受け	いろいろなハラスメント	め家族の介護や看護のた
全体(n=438)	35.4	26.7	21.7	18.0	16.0	13.9	11.9	10.5	8.9	8.4							
<b>【男性年齢別】</b>																	
29歳以下(n=11)	36.4	45.5	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	36.4	18.2	0.0							
30代(n=30)	66.7	30.0	6.7	13.3	0.0	0.0	10.0	0.0	13.3	6.7							
40代(n=28)	71.4	32.1	3.6	17.9	0.0	0.0	3.6	10.7	14.3	7.1							
50代(n=34)	47.1	26.5	5.9	14.7	2.9	0.0	5.9	8.8	2.9	0.0							
60代(n=21)	52.4	28.6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	9.5	4.8	0.0							
70歳以上(n=14)	21.4	21.4	0.0	35.7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0							

単位 (%)	自分の病気のため	たかつたから	家事や子育てに専念し	秀困気があつたから	ければならぬような	結婚や出産で退職しな	配偶者の転勤のため	育上の子の進学など、教	働きたくないから	から)	(子どもがほしいから	いから	経済的に働く必要がな	その他	特にな
全体(n=438)	8.0	6.2	3.4	2.5	1.8	1.6	0.9	0.9	6.6	1.6					
<b>【男性年齢別】</b>															
29歳以下(n=11)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	
30代(n=30)	6.7	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	3.3				
40代(n=28)	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.7	3.6				
50代(n=34)	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	5.9				
60代(n=21)	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
70歳以上(n=14)	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0				

職業別では、正社員・正職員や公務員・団体職員で「希望どおりの待遇や労働条件、仕事内容ではなかったから」、自営業（家族従業者）で「家事や子育てとの両立が難しかったから」「家族の介護や看護のため」、パート・アルバイト等や家事専業で「妊娠したから」、家事専業で「結婚したから」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	な働希よ職 か働条望く場 つ件ど、な内 た、おの、な か仕の、た ら事待、た から容、か はで、ら は、や は、	め先 の 都 合 の た め	妊 娠 し た か ら	出 産 し た か ら	が家 事 や 子 育 て と の 両 立 が 難 し か つ た か ら	信 が な か つ た か ら	自 分 の 体 力 や 健 康 に 自 た か ら	ト （ 嫌 が ら せ ） を 受 け た か ら	い ろ い ろ な ハ ラ ス メ ン	め 家 族 の 介 護 や 看 護 の た め
全体(n=438)	35.4	26.7	21.7	18.0	16.0	13.9	11.9	10.5	8.9	8.4
【職業別】										
自営業(経営主等)(n=22)	36.4	13.6	18.2	13.6	9.1	4.5	18.2	0.0	0.0	4.5
自営業(家族従業者)(n=16)	18.8	0.0	31.3	12.5	18.8	12.5	31.3	12.5	0.0	25.0
正社員・正職員(n=151)	48.3	33.1	15.9	16.6	7.9	10.6	5.3	7.9	9.9	3.3
公務員・団体職員(n=27)	48.1	14.8	14.8	11.1	7.4	3.7	7.4	0.0	3.7	3.7
パート・アルバイト等(n=119)	34.5	30.3	20.2	21.0	25.2	21.0	16.0	13.4	10.1	12.6
家事専業(n=40)	20.0	20.0	57.5	20.0	30.0	17.5	12.5	20.0	10.0	10.0
学生(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無職(n=49)	14.3	26.5	16.3	22.4	14.3	14.3	16.3	12.2	12.2	12.2

単位 (%)	自 分 の 病 気 の た め	た 家 事 や 子 育 て に 専 念 し た か ら	霧 困 気 が あ つ た か ら	け れ ば な ら な い 退 職 し な な い	結 婚 や 出 産 で な い た か ら	配 偶 者 の 転 勤 の た め	育 子 上 の 理 由 の た め、 教	働 き た く な い か ら	か ら （ 妊 娠 を 希 望 し て い ら る ）	子 ど も が ほ し い か ら	い か ら （ 妊 娠 を 希 望 し て い ら る ）	経 済 的 に 働 く 必 要 が な い	そ の 他	特 に な い
全体(n=438)	8.0	6.2	3.4	2.5	1.8	1.6	0.9	0.9	0.9	6.6	1.6	9.1	9.1	
【職業別】														
自営業(経営主等)(n=22)	13.6	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1	9.1	
自営業(家族従業者)(n=16)	12.5	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	
正社員・正職員(n=151)	6.0	2.6	2.0	1.3	1.3	1.3	0.7	0.0	0.0	9.3	1.3	9.3	1.3	
公務員・団体職員(n=27)	0.0	3.7	3.7	3.7	7.4	0.0	7.4	0.0	7.4	7.4	7.4	7.4	7.4	
パート・アルバイト等(n=119)	7.6	5.9	4.2	2.5	1.7	0.8	0.8	0.8	0.8	2.5	0.0	2.5	0.0	
家事専業(n=40)	5.0	15.0	2.5	2.5	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
学生(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無職(n=49)	14.3	8.2	6.1	6.1	2.0	4.1	0.0	2.0	8.2	0.0	0.0	8.2	0.0	

注:学生については、件数(n)が少ないため参考値として参照

## 6 再就職の経験

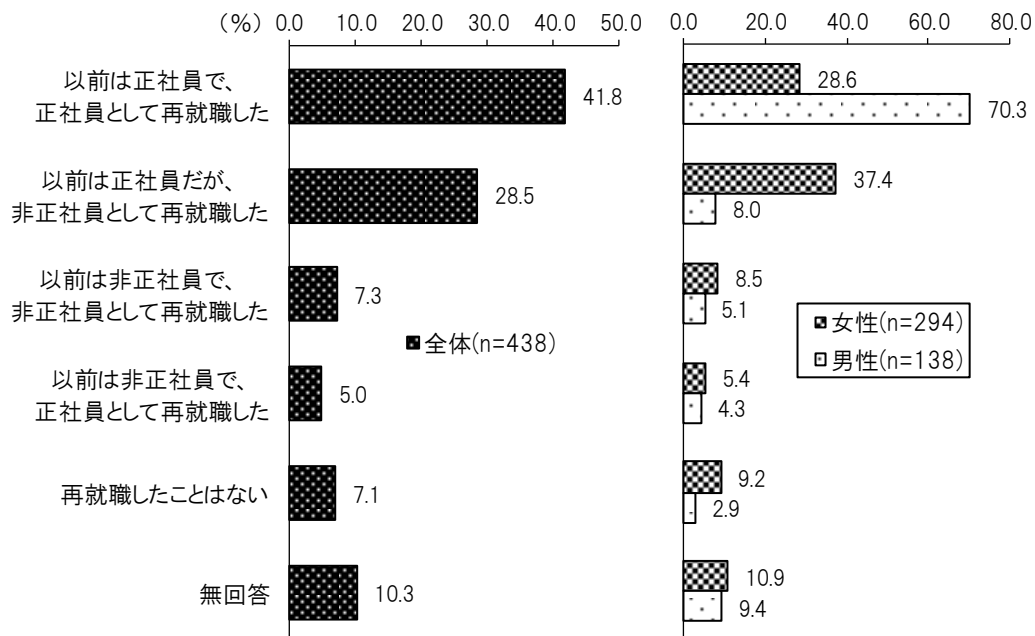
【問 16 で「1」と答えた方におたずねします。】

問 18 あなたは、仕事をやめた後、再就職されましたか。（○印1つ）

※ 仕事をやめた経験が複数回ある場合は、最初のことについてお答えください。

再就職の経験については、「以前は正社員で、正社員として再就職した」の割合が 41.8% と最も高く、次いで「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」（28.5%）、「以前は非正社員で、非正社員として再就職した」（7.3%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」の割合が高く、男性は「以前は正社員で、正社員として再就職した」の割合が女性を大きく上回っている。



年齢別では、女性は29歳以下で「以前は正社員で、正社員として再就職した」、60代で「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」の割合が高く、男性は29歳以下で「以前は非正社員で、非正社員として再就職した」、40代や70歳以上で「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」の割合が高くなっている。

単位 (%)	以前は正社員で、 正社員として再就職した	以前は正社員だが、 非正社員として再就職した	以前は非正社員で、 非正社員として再就職した	以前は非正社員で、 正社員として再就職した	再就職したことはない
全体(n=438)	41.8	28.5	7.3	5.0	7.1
<b>【女性年齢別】</b>					
29歳以下(n=17)	41.2	17.6	11.8	0.0	17.6
30代(n=56)	32.1	33.9	12.5	8.9	5.4
40代(n=62)	32.3	40.3	11.3	8.1	1.6
50代(n=76)	23.7	40.8	7.9	5.3	5.3
60代(n=55)	23.6	47.3	1.8	0.0	21.8
70歳以上(n=28)	28.6	21.4	7.1	7.1	14.3
<b>【男性年齢別】</b>					
29歳以下(n=11)	63.6	9.1	27.3	0.0	0.0
30代(n=30)	73.3	3.3	3.3	6.7	3.3
40代(n=28)	78.6	14.3	3.6	0.0	0.0
50代(n=34)	64.7	5.9	0.0	11.8	5.9
60代(n=21)	76.2	4.8	4.8	0.0	0.0
70歳以上(n=14)	57.1	14.3	7.1	0.0	7.1

## 7 育児休業や介護休業の取得状況

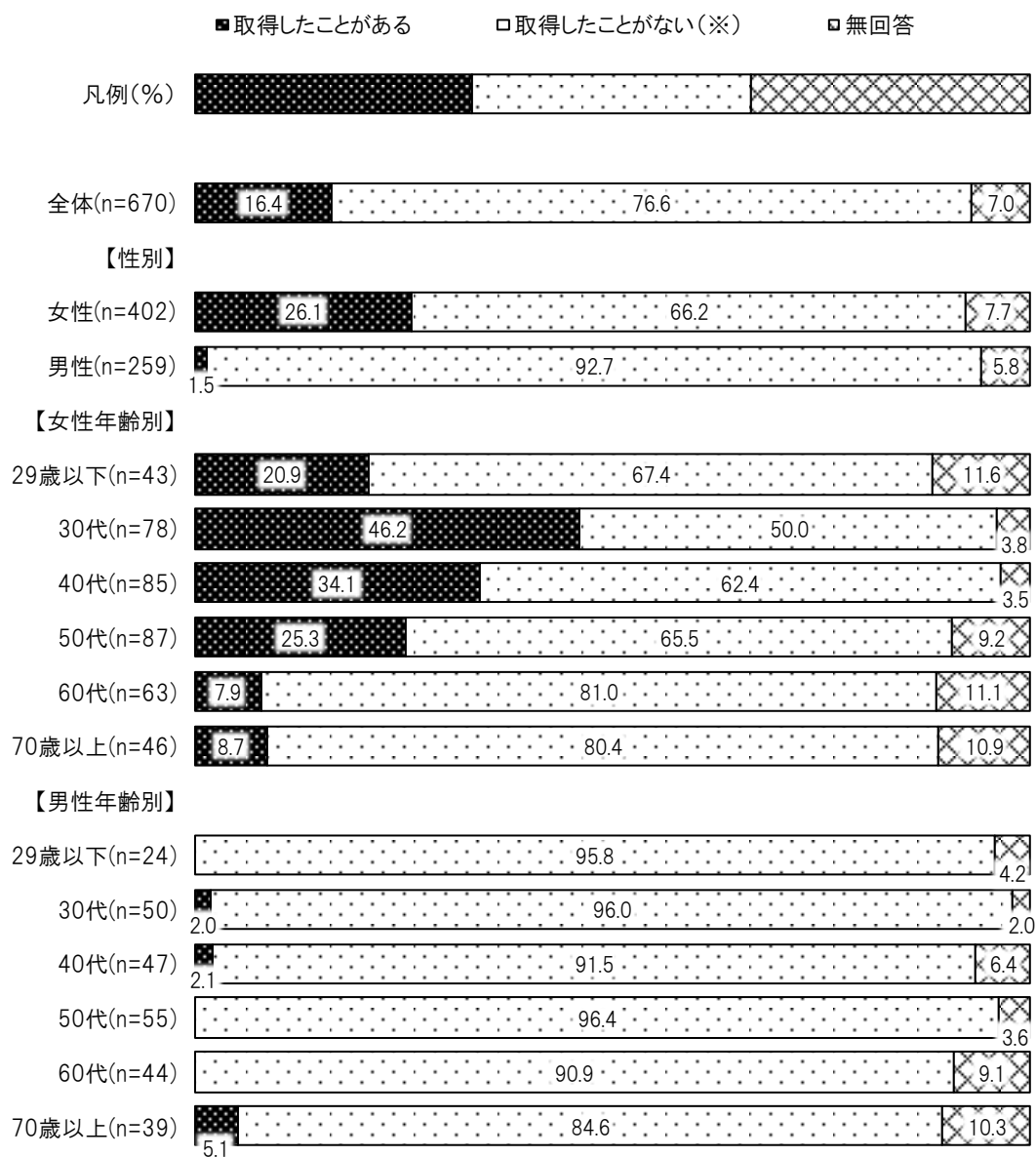
【問 13 で「1～2」と答えた方におたずねします。】

問 19 あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(○印1つずつ)

### ①育児休業

育児休業の取得状況については、「取得したことがある」割合が 16.4%となっており、女性で 26.1%、男性で 1.5%となっている。

年齢別では、女性はおおむね若い年齢層ほど「取得したことがある」の割合が高くなっている。

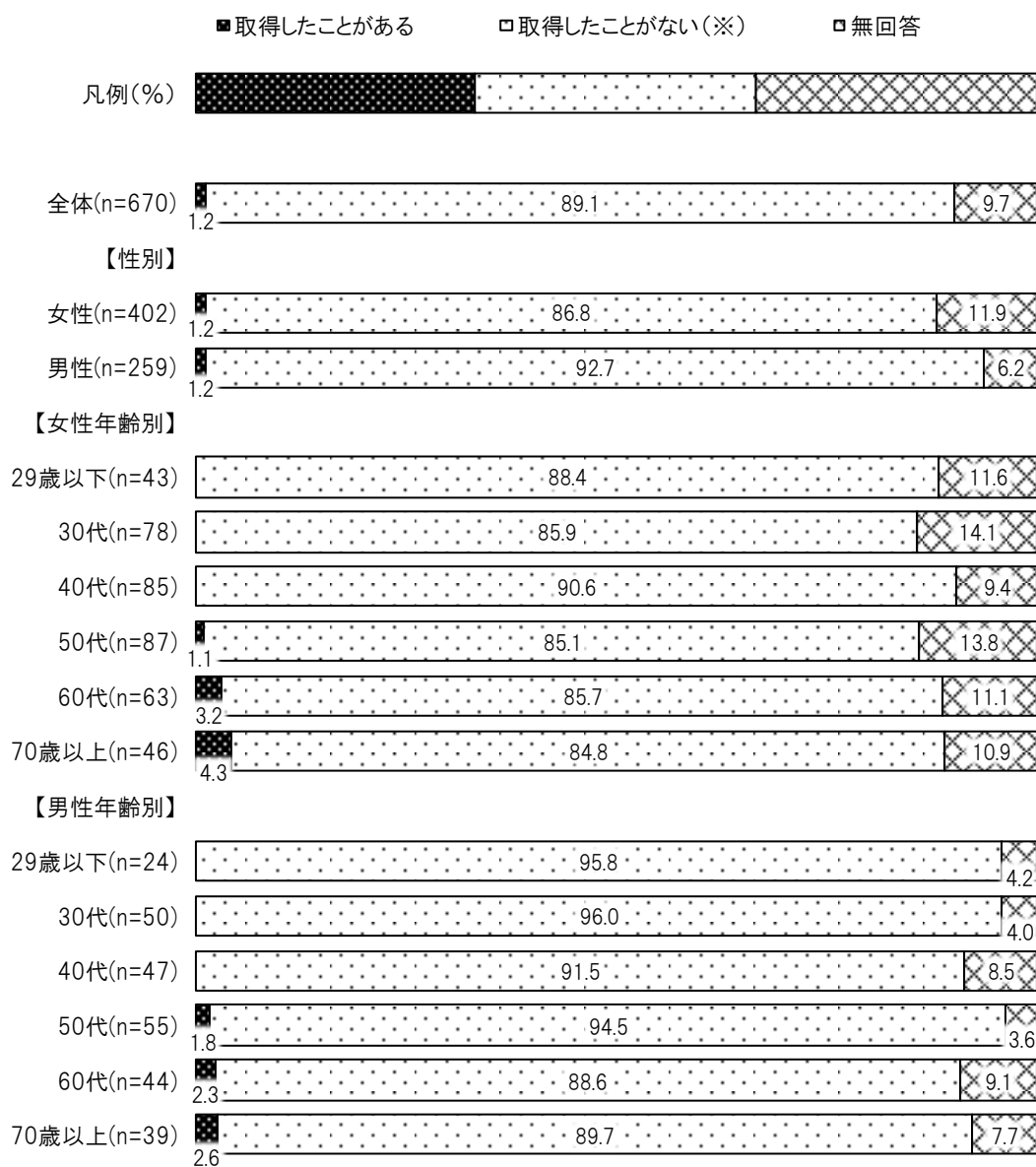


※取得したことがない(取得する必要がなかったを含む)

## ②介護休業

介護休業の取得状況については、「取得したことがある」割合が1.2%となっており、女性、男性共に1.2%となっている。

年齢別では、男女共に50代以上で「取得したことがある」の割合が高くなっている。



※取得したことがない(取得する必要がなかったを含む)

## 8 男性が育児休業や介護休業を取得することについて

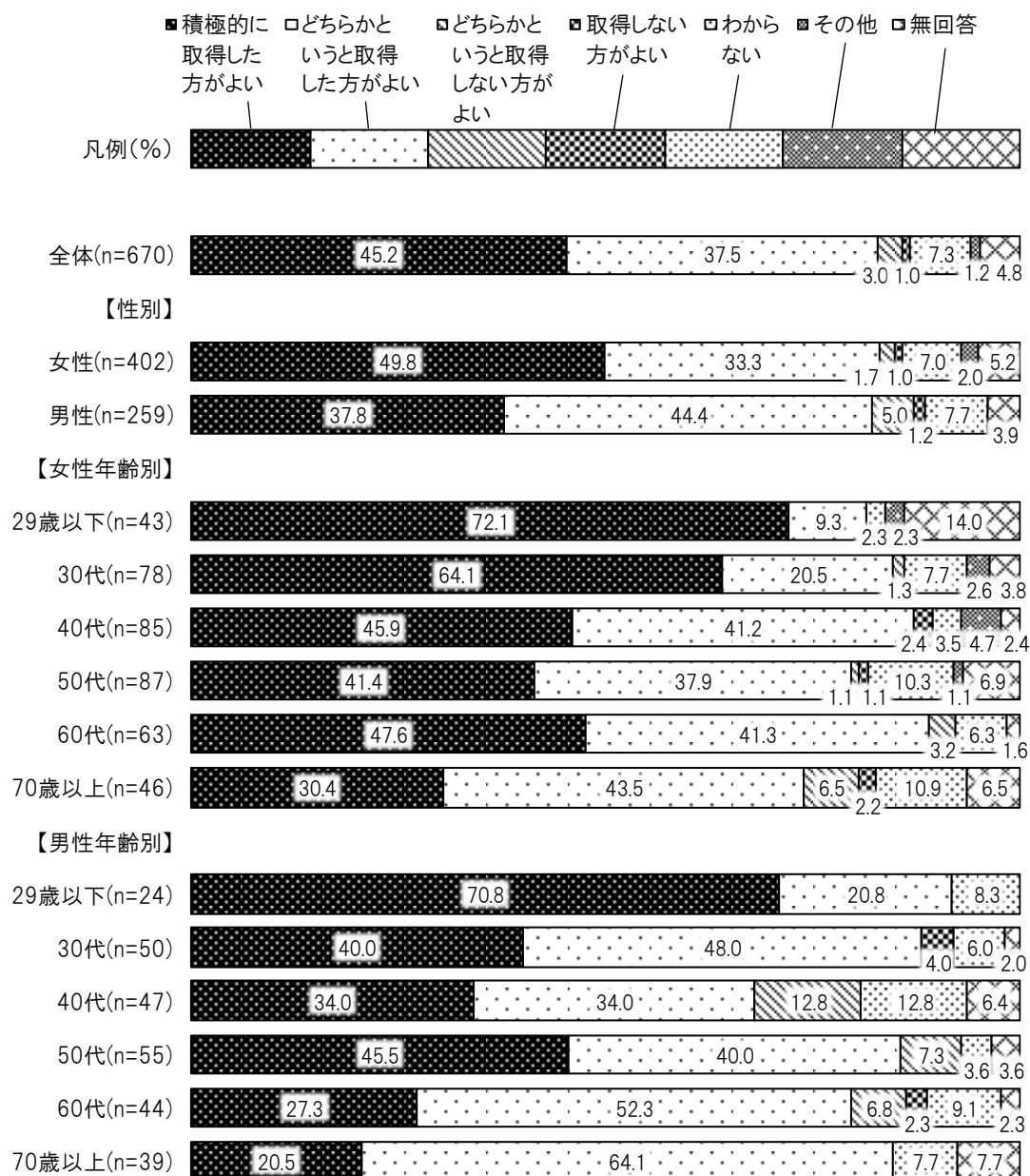
【問 13 で「1～2」と答えた方におたずねします。】

問 20 あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。  
(○印1つ)

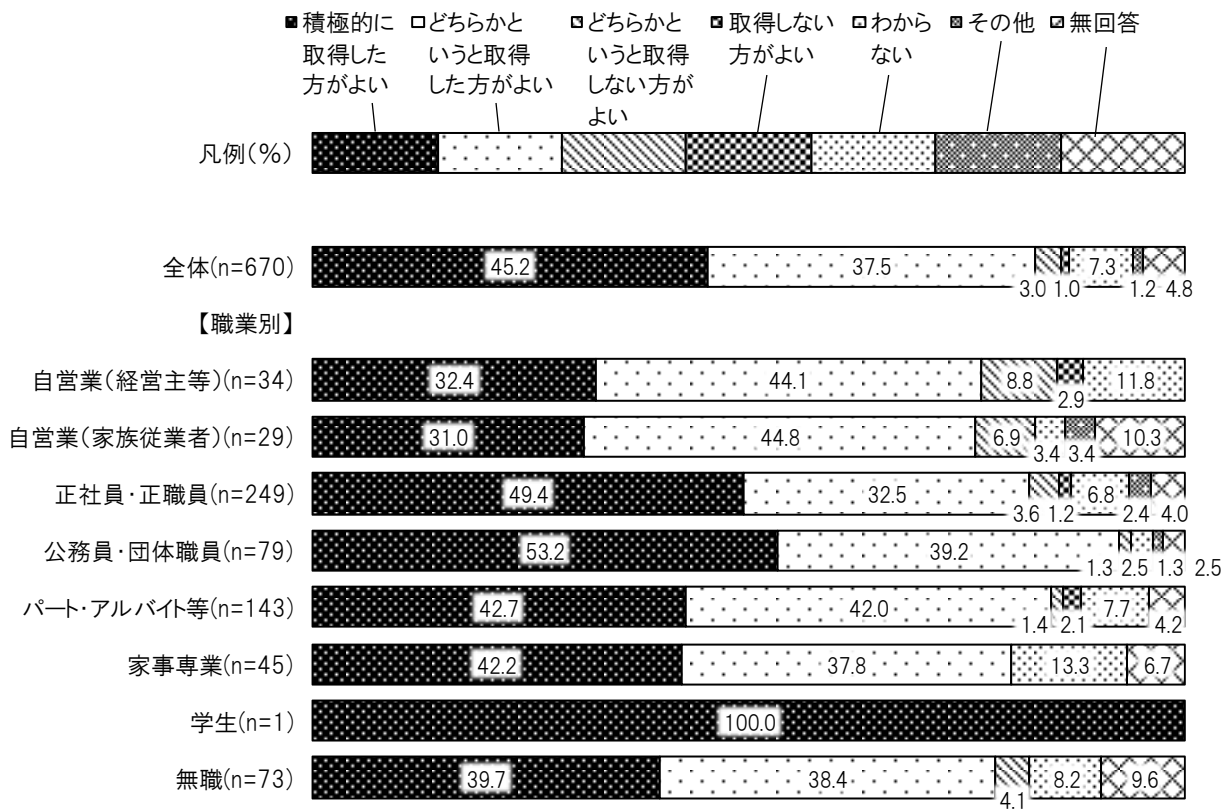
男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「積極的に取得した方がよい」が45.2%、「どちらかというと取得した方がよい」が37.5%、合計で約8割(82.7%)が『取得した方がよい』と回答している。一方、「どちらかというと取得しない方がよい」(3.0%)、「取得しない方がよい」(1.0%)の合計は4.0%となっている。

性別では、女性は「積極的に取得した方がよい」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、男女共におおむね若い年齢層ほど「積極的に取得した方がよい」の割合が高くなっている。



職業別では、正社員・正職員や公務員・団体職員で「積極的に取得した方がよい」の割合が他の層に比べて高くなっている。



注: 学生については、件数(n=)が少ないため参考値として参照



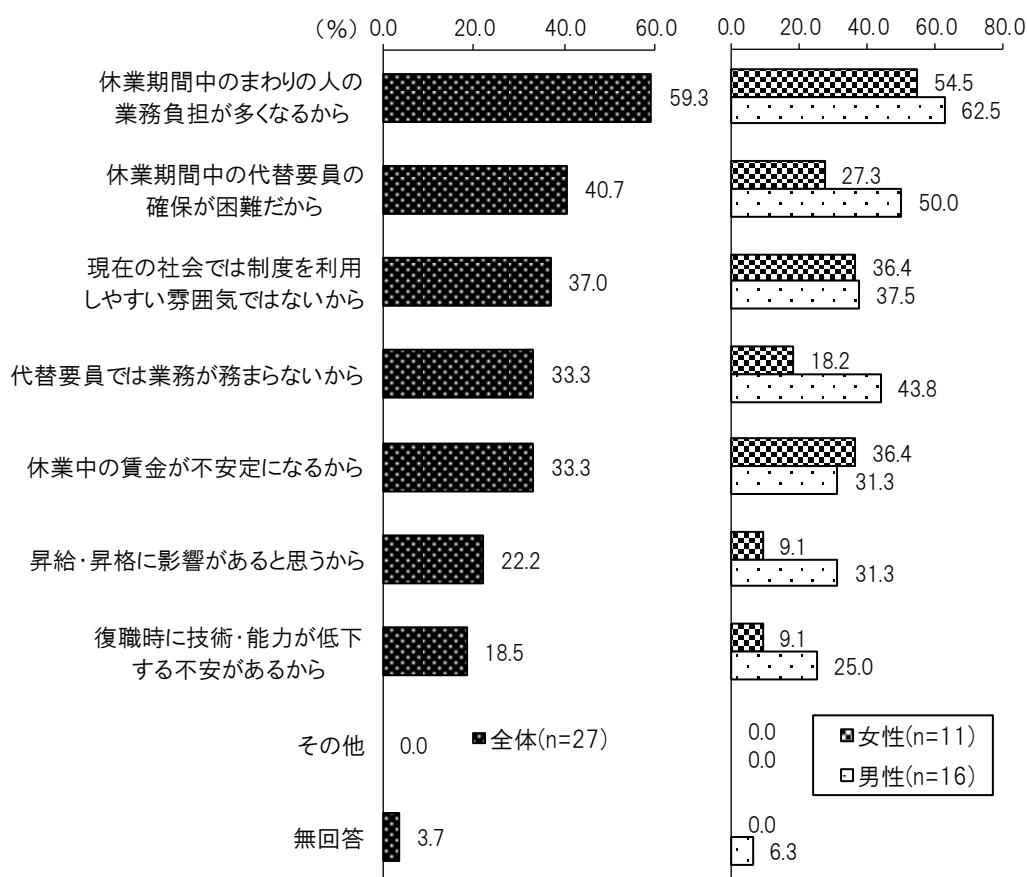
## 9 男性が育児休業等を取得しない方がよいと思う理由

【問 20 で「3～4」と答えた方におたずねします。】

問 21 取得しない方がよいと思う理由は何ですか。（○印いくつでも）

男性が育児休業等を取得しない方がよいと思う理由については、「休業期間中のまわり  
の人の業務負担が多くなるから」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「休業期間中の代替  
要員の確保が困難だから」（40.7%）、「現在の社会では制度を利用しやすい雰囲気では  
ないから」（37.0%）、「代替要員では業務が務まらないから」「休業中の賃金が不安定  
になるから」（各 33.3%）の順となっている。

性別では、男性は「休業期間中の代替要員の確保が困難だから」「代替要員では業務が  
務まらないから」「昇給・昇格に影響があると思うから」などの割合が女性を大きく上回っ  
ている。

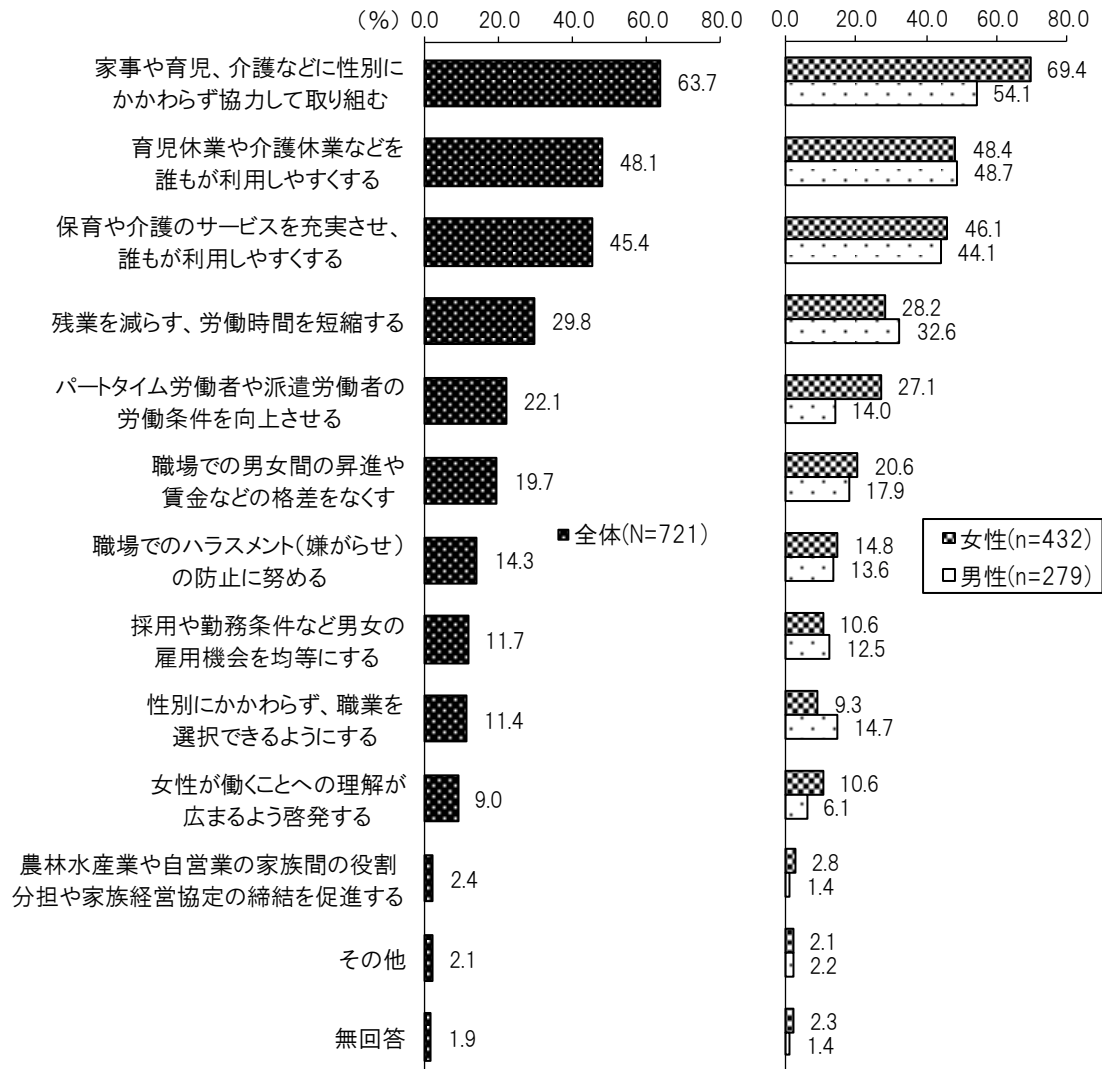


## 10 働きやすい社会環境をつくるために必要なこと

問 22 あなたは、性別にかかわらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが大切だと思いますか。（○印3つまで）

働きやすい社会環境をつくるために必要なことについては、「家事や育児、介護などに性別にかかわらず協力して取り組む」の割合が63.7%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業などを誰もが利用しやすくする」（48.1%）、「保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする」（45.4%）、「残業を減らす、労働時間を短縮する」（29.8%）の順となっている。

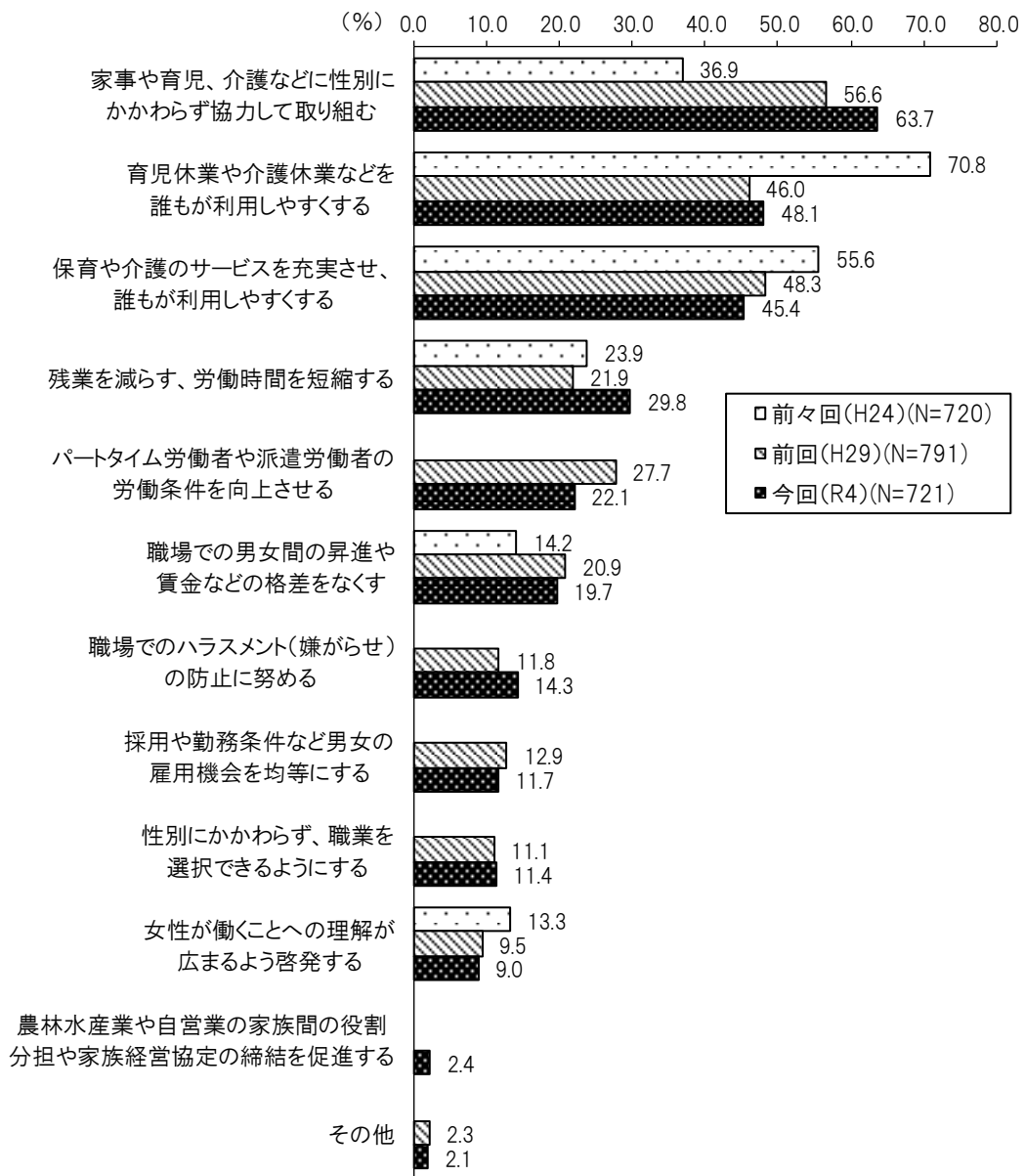
性別では、女性は「家事や育児、介護などに性別にかかわらず協力して取り組む」「パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男女共に 29 歳以下で「残業を減らす、労働時間を短縮する」「職場でのハラスメント（嫌がらせ）の防止に努める」、60 代で「パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる」の割合がそれぞれ高くなっている。また、女性の 30 代で「家事や育児、介護などに性別にかかわらず協力して取り組む」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

単位 (%)	家事や育児、介護などに性別にかかわらず協力して取り組む	育児休業や介護休業などを誰も利用しやすくする	保育や介護のサービスを充実させ、誰もが利用しやすくする	残業を減らす、労働時間を短縮する	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	職場での男女間の昇進や賃金などの格差をなくす	職場でのハラスメント（嫌がらせ）の防止に努める	採用や勤務条件など男女の雇用機会を均等にする	性別にかかわらず、職業を選べるようにする	女性が働くことへの理解が広まるよう啓発する	農林水産業や自営業の家族間の役割分担や家族経営協定の締結を促進する	その他
全体(N=721)	63.7	48.1	45.4	29.8	22.1	19.7	14.3	11.7	11.4	9.0	2.4	2.1
【女性年齢別】												
29歳以下(n=64)	65.6	54.7	43.8	42.2	17.2	26.6	25.0	12.5	12.5	7.8	0.0	0.0
30代(n=78)	83.3	51.3	38.5	41.0	21.8	28.2	15.4	11.5	10.3	14.1	3.8	6.4
40代(n=85)	71.8	54.1	49.4	32.9	21.2	22.4	14.1	14.1	11.8	8.2	1.2	3.5
50代(n=87)	73.6	43.7	49.4	23.0	32.2	13.8	9.2	6.9	6.9	10.3	5.7	1.1
60代(n=65)	58.5	41.5	50.8	12.3	40.0	15.4	16.9	6.2	6.2	12.3	3.1	0.0
70歳以上(n=52)	57.7	44.2	42.3	13.5	30.8	17.3	9.6	11.5	7.7	11.5	1.9	0.0
【男性年齢別】												
29歳以下(n=40)	52.5	50.0	37.5	50.0	12.5	15.0	22.5	15.0	20.0	12.5	0.0	2.5
30代(n=51)	54.9	45.1	43.1	35.3	3.9	19.6	11.8	13.7	19.6	2.0	2.0	2.0
40代(n=48)	58.3	43.8	45.8	41.7	12.5	16.7	12.5	12.5	10.4	6.3	2.1	2.1
50代(n=56)	57.1	50.0	51.8	28.6	7.1	12.5	16.1	14.3	14.3	5.4	0.0	3.6
60代(n=45)	53.3	46.7	40.0	20.0	31.1	24.4	11.1	13.3	13.3	6.7	0.0	0.0
70歳以上(n=39)	46.2	59.0	43.6	20.5	20.5	20.5	7.7	5.1	10.3	5.1	5.1	2.6

【参考／時系列推移】



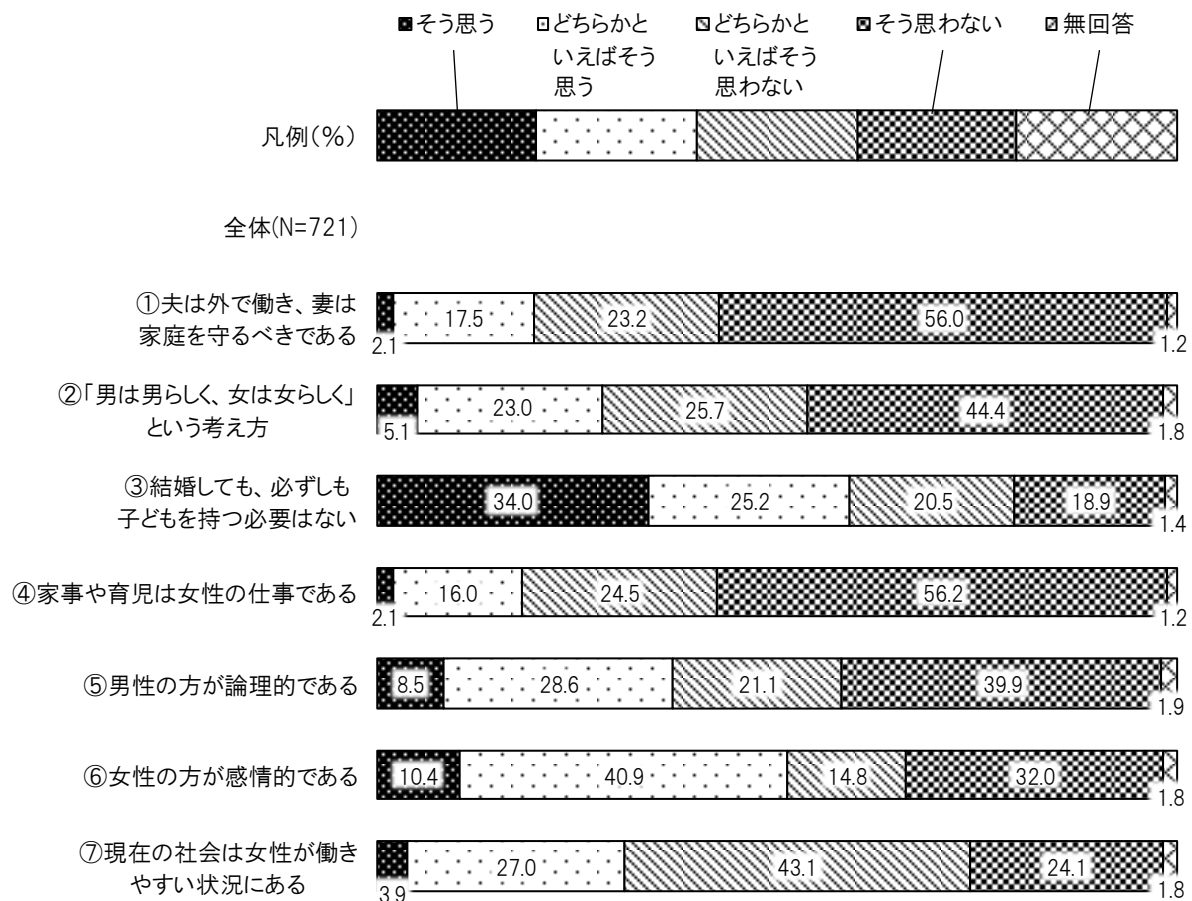
### 【3】家庭生活や地域活動について

#### 1 男女の性別差や役割分担等について

問 23 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。（○印1つずつ）

男女の性別差や役割分担等については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した割合が高い順に、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」(59.2%)、「⑥女性の方が感情的である」(51.3%)、「⑤男性の方が論理的である」(37.1%)となっている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した割合が高い順に、「④家事や育児は女性の仕事である」(80.7%)、「①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」(79.2%)、「②男は男らしく、女は女らしくという考え方」(70.1%)、「⑦現在の社会は女性が働きやすい状況にある」(67.2%)となっている。

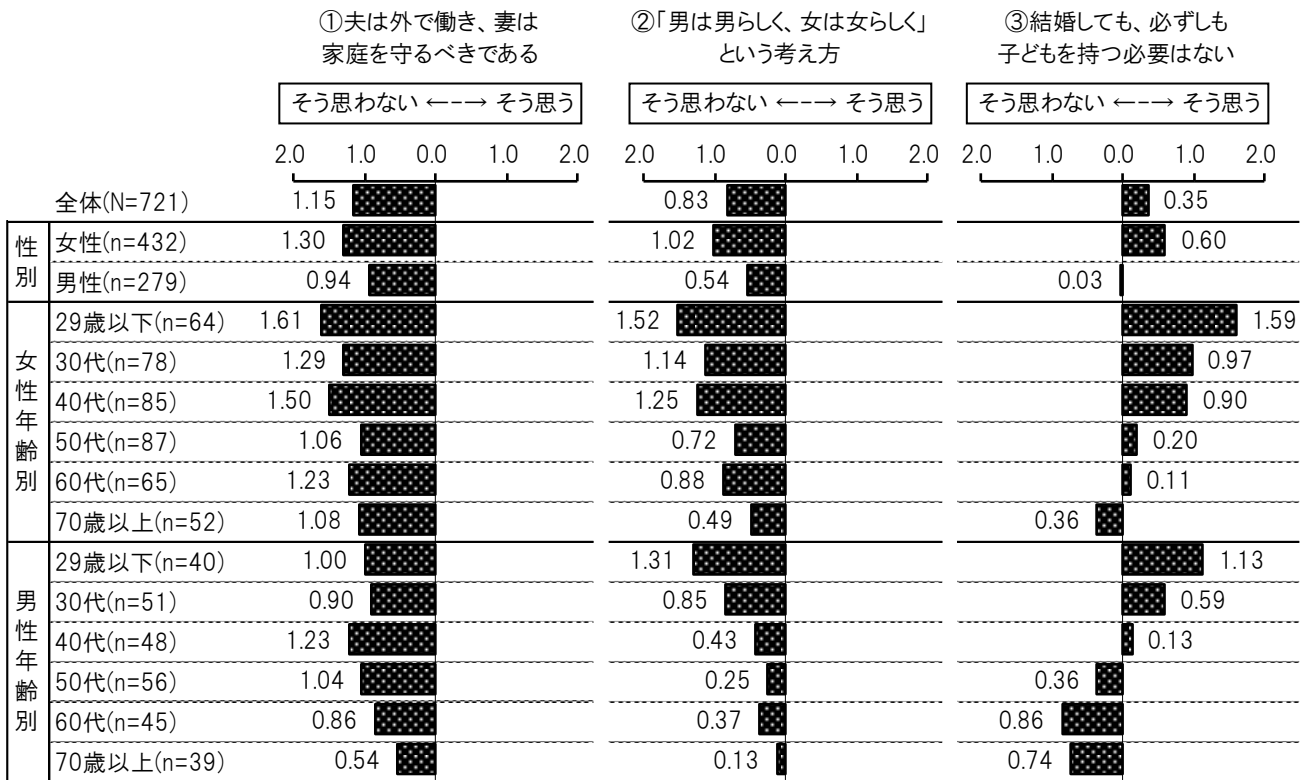


平均評定値\*による属性別傾向をみると、女性は「②男は男らしく、女は女らしくという考え方」で否定的な回答が多く、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」で肯定的な回答が男性を大きく上回っている。

年齢別でみると、男女共におおむね若い年齢層ほど「②男は男らしく、女は女らしくという考え方」で否定的な回答が多く、「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」で肯定的な回答が多くなっている。また、女性の29歳以下では「①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」「④家事や育児は女性の仕事である」「⑥女性の方が感情的である」で否定的な回答が多くなっている。

※平均評定値

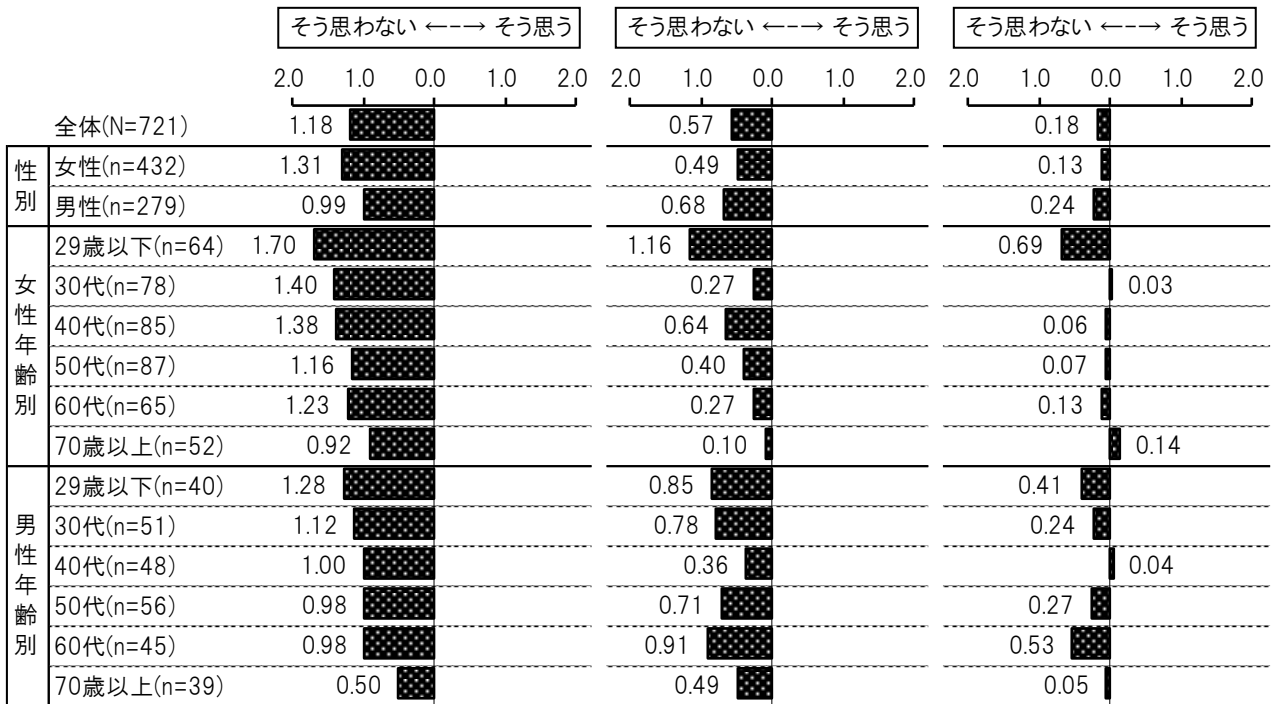
平均評定値とは、「そう思う」「そう思わない」に2点、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」に1点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では右側が肯定的、左側が否定的な意見を示す指標である。



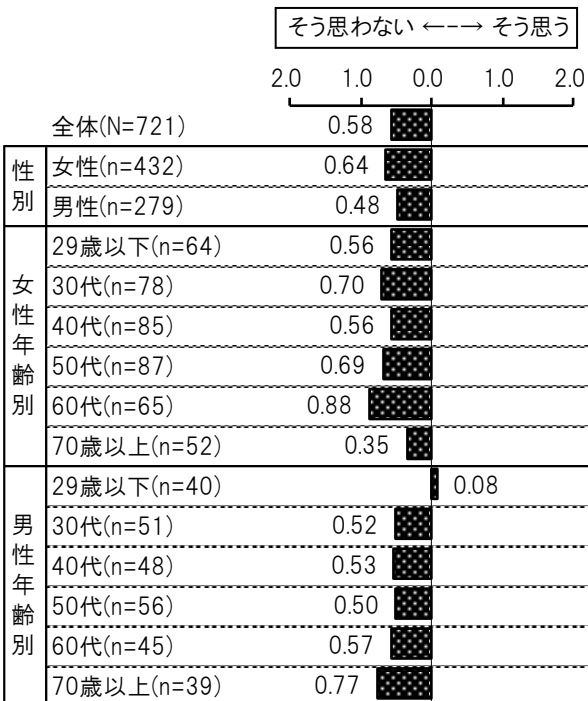
④家事や育児は女性の仕事である

⑤男性の方が論理的である

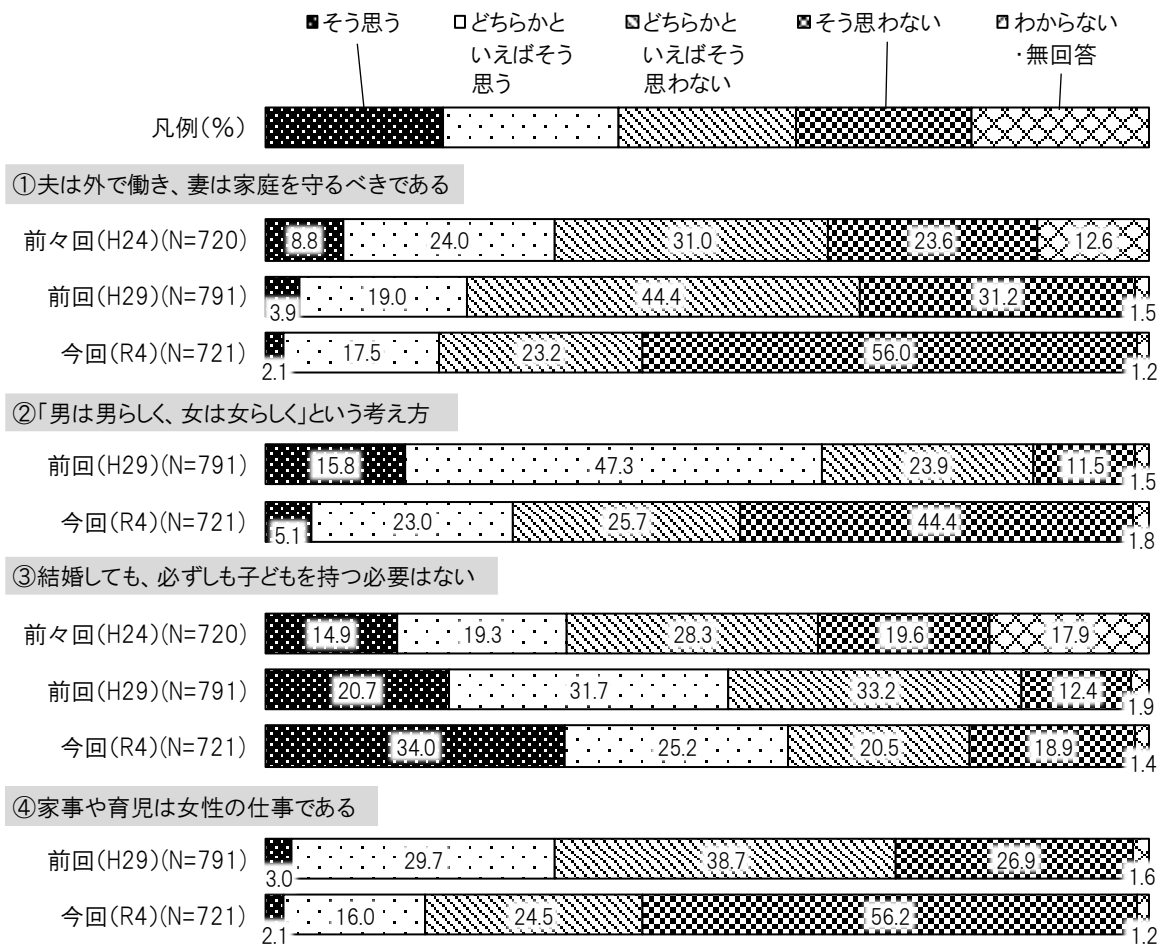
⑥女性の方が感情的である



⑦現在の社会は女性が働きやすい状況にある



【参考／時系列推移】

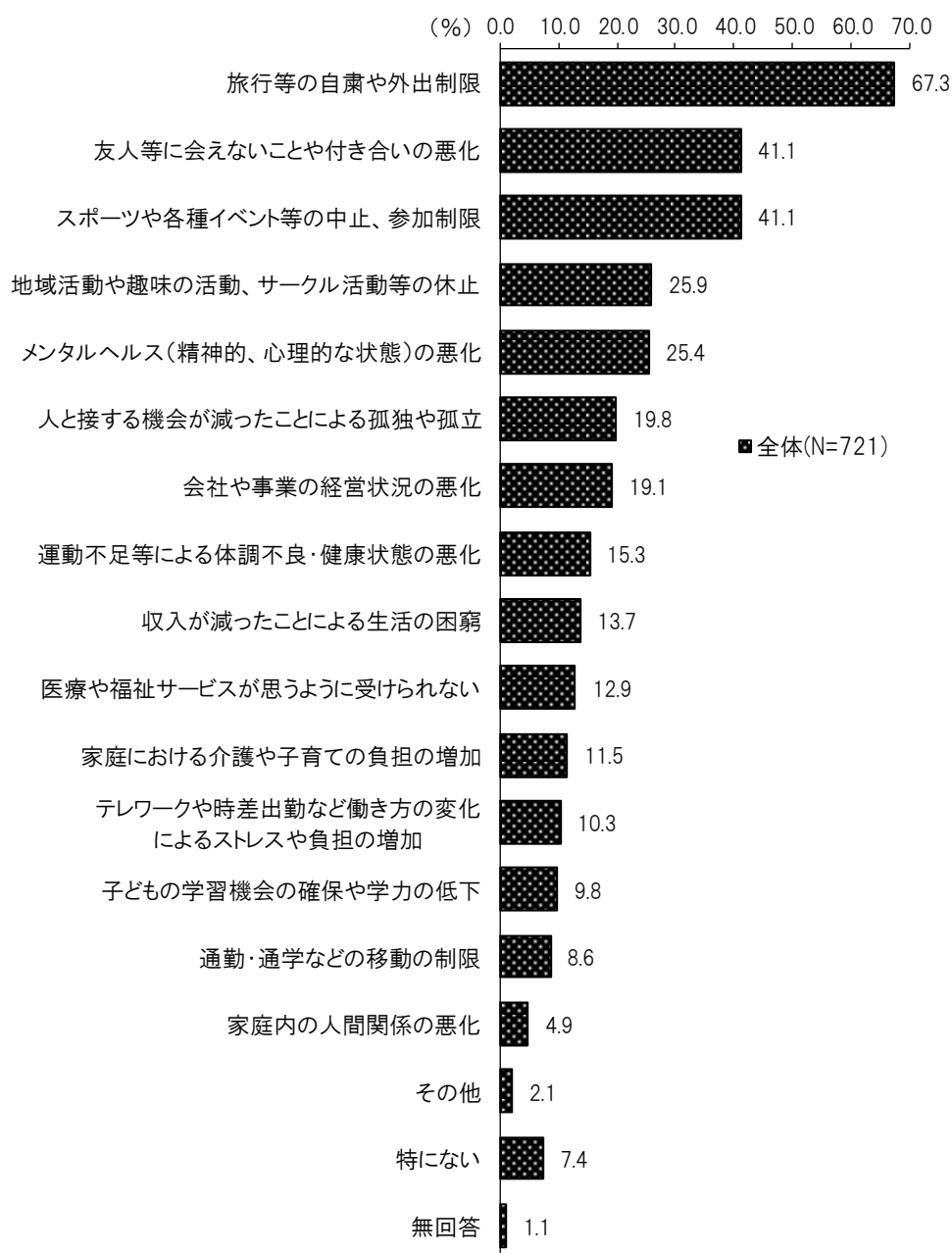




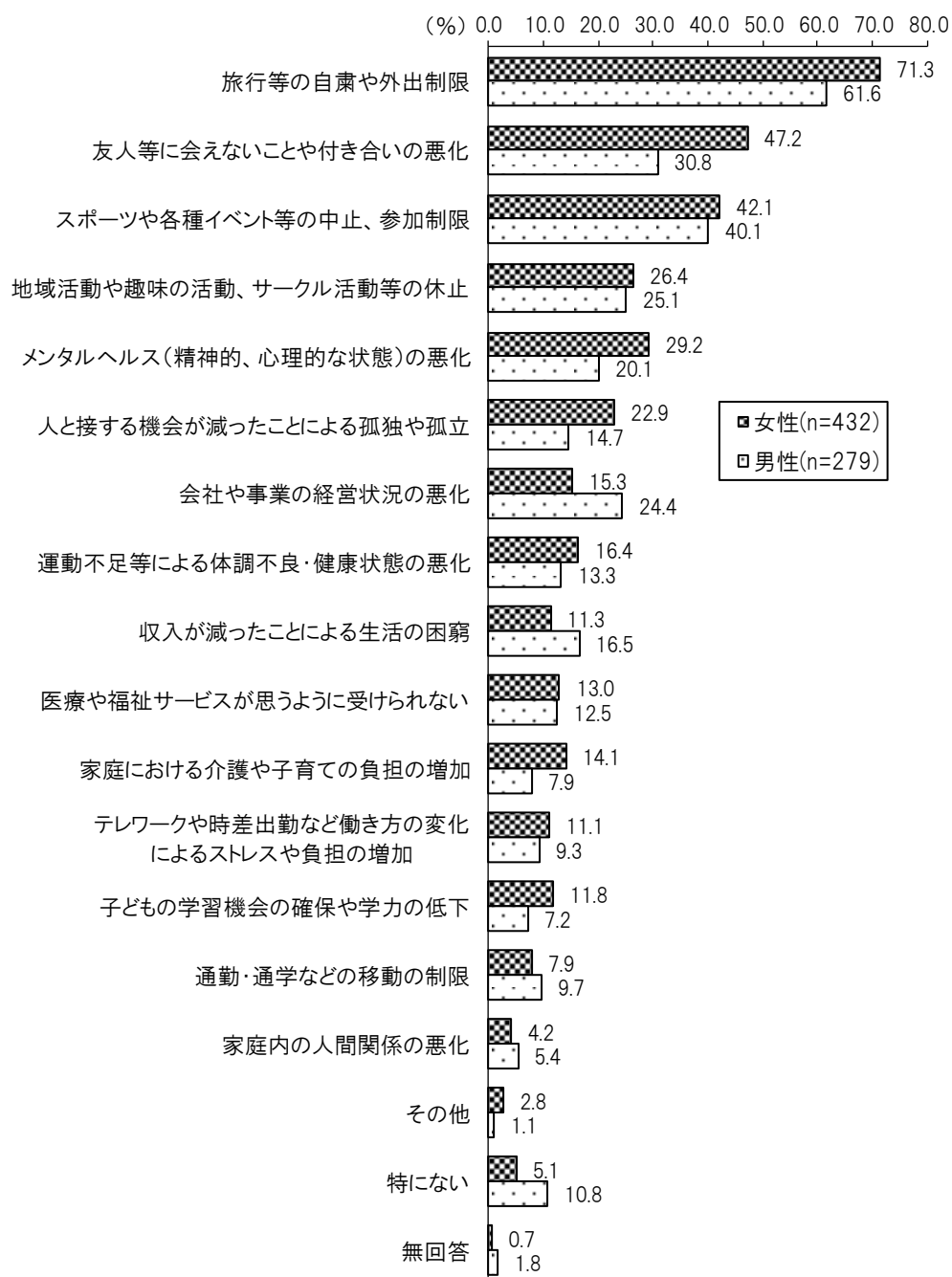
## 2 感染症の拡大による影響

問 24 あなたの日常生活では、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、次にあげるような悪影響はありましたか。(〇印いくつでも)

感染症の拡大による影響については、「旅行等の自粛や外出制限」の割合が67.3%と最も高く、次いで「友人等に会えないことや付き合いの悪化」「スポーツや各種イベント等の中止、参加制限」(各41.1%)、「地域活動や趣味の活動、サークル活動等の休止」(25.9%)、「メンタルヘルス(精神的、心理的な状態)の悪化」(25.4%)の順となっている。



性別では、女性は男性に比べ「旅行等の自粛や外出制限」「友人等に会えないことや付き合いの悪化」「メンタルヘルス（精神的、心理的な状態）の悪化」「人と接する機会が減ったことによる孤独や孤立」などの割合が高く、男性は「会社や事業の経営状況の悪化」「収入が減ったことによる生活の困窮」の割合が女性を上回っている。



女性の年齢別では、30代以下で「人と接する機会が減ったことによる孤独や孤立」、30代で「友人等に会えないことや付き合いの悪化」「家庭における介護や子育ての負担の増加」、40代で「子どもの学習機会の確保や学力の低下」、70歳以上で「地域活動や趣味の活動、サークル活動等の休止」「運動不足等による体調不良・健康状態の悪化」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	旅行等の自粛や外出制限	友人等に会えないことや付き合いの悪化	スポーツや各種イベントの中止、参加制限	サークル活動や趣味の活動の休止	地域活動や趣味の活動の休止	化的メンタルヘルス(精神的な状態)の悪化	人と接する機会が減ったことによる孤独や孤立	悪化 会社や事業の経営状況の悪化	良運動不足等による体調不良	収入が減ったことによる生活の困窮
全体(N=721)	67.3	41.1	41.1	25.9	25.4	19.8	19.1	15.3	13.7	
【女性年齢別】										
29歳以下(n=64)	76.6	39.1	53.1	25.0	29.7	31.3	14.1	9.4	10.9	
30代(n=78)	67.9	55.1	52.6	28.2	33.3	32.1	19.2	16.7	11.5	
40代(n=85)	75.3	48.2	51.8	25.9	35.3	22.4	16.5	16.5	16.5	
50代(n=87)	65.5	44.8	40.2	20.7	25.3	13.8	18.4	17.2	11.5	
60代(n=65)	78.5	46.2	23.1	24.6	23.1	16.9	9.2	13.8	9.2	
70歳以上(n=52)	63.5	48.1	23.1	36.5	26.9	23.1	11.5	25.0	5.8	

単位 (%)	医療や福祉サービスがないが思うように受けられない	家庭における介護や子育ての負担の増加	トレスや方々の負担の増加	子どもや学力の低下	子どもの学習機会の確保	通勤・通学などの移動の制限	家庭内の人間関係の悪化	その他	特になし
全体(N=721)	12.9	11.5	10.3	9.8	8.6	4.9	2.1	7.4	
【女性年齢別】									
29歳以下(n=64)	9.4	7.8	17.2	4.7	14.1	4.7	6.3	7.8	
30代(n=78)	16.7	33.3	15.4	20.5	10.3	6.4	5.1	3.8	
40代(n=85)	10.6	18.8	16.5	28.2	11.8	3.5	2.4	1.2	
50代(n=87)	8.0	9.2	10.3	5.7	2.3	3.4	2.3	5.7	
60代(n=65)	20.0	7.7	3.1	4.6	6.2	6.2	0.0	6.2	
70歳以上(n=52)	15.4	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	

男性の年齢別では、29歳以下で「通勤・通学などの移動の制限」、30代で「スポーツや各種イベント等の中止、参加制限」「メンタルヘルス（精神的、心理的な状態）の悪化」、40代で「友人等に会えないことや付き合いの悪化」、40～50代で「旅行等の自粛や外出制限」、70歳以上で「地域活動や趣味の活動、サークル活動等の休止」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	旅行等の自粛や外出制限	友人等に会えないことや付き合いの悪化	スポーツや各種イベント等の中止、参加制限	サークル活動や趣味の活動の休止	地域活動や趣味の活動の休止	メンタルヘルス（精神的、心理的な状態）の悪化	人と接する機会が減った	会社や事業の経営状況の悪化	運動不足等による体調不良	収入が減ったことによる生活の困窮
全体(N=721)	67.3	41.1	41.1	25.9	25.4	19.8	19.1	15.3	13.7	
<b>【男性年齢別】</b>										
29歳以下(n=40)	57.5	30.0	40.0	17.5	20.0	15.0	20.0	10.0	17.5	
30代(n=51)	52.9	27.5	47.1	25.5	33.3	17.6	29.4	11.8	19.6	
40代(n=48)	72.9	37.5	41.7	22.9	20.8	12.5	29.2	20.8	10.4	
50代(n=56)	69.6	30.4	39.3	23.2	17.9	16.1	19.6	16.1	19.6	
60代(n=45)	60.0	31.1	31.1	28.9	11.1	11.1	24.4	6.7	8.9	
70歳以上(n=39)	53.8	28.2	41.0	33.3	15.4	15.4	23.1	12.8	23.1	

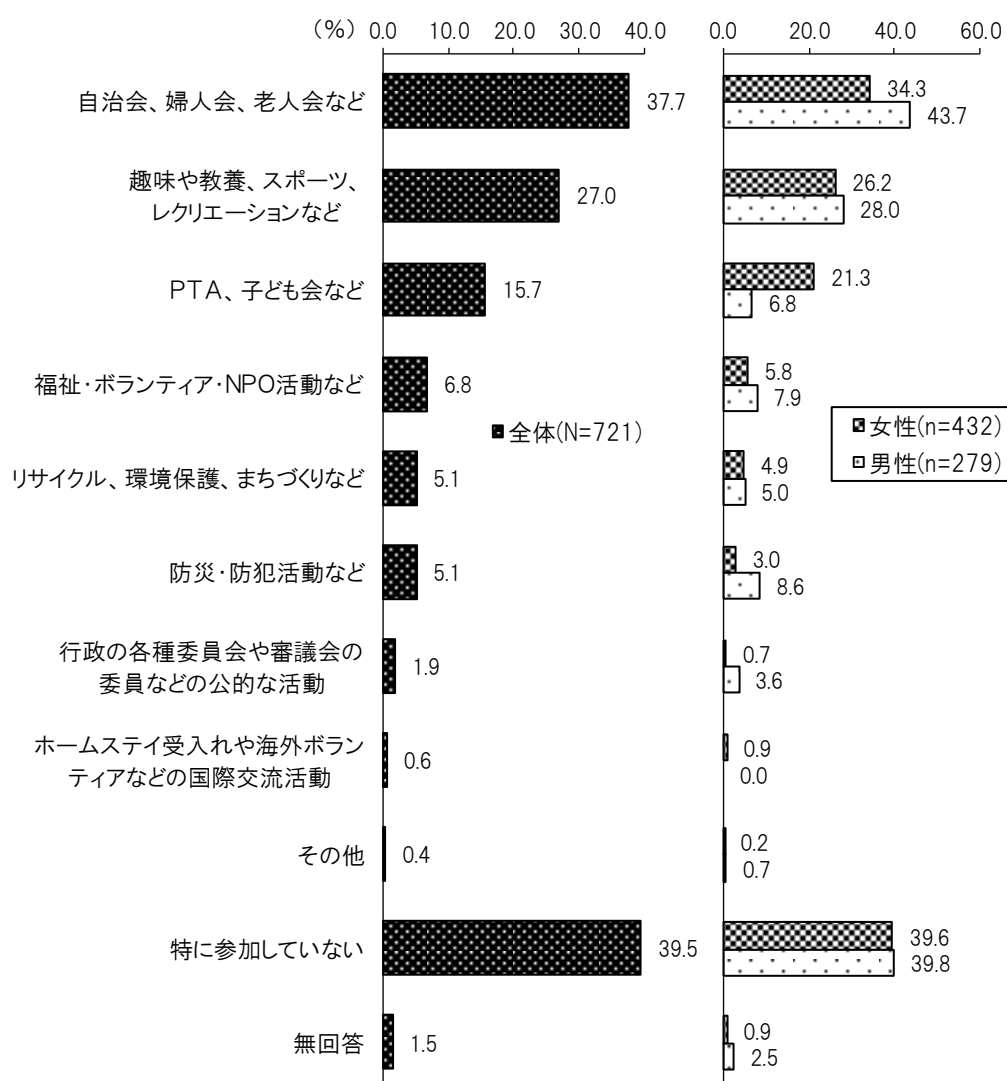
単位 (%)	医療や福祉サービスがないが思うように受けられない	家庭の負担の増加や子育ての負担の増加	テレワークや時差出勤による通勤時間の短縮	子どもの学習機会の確保	通勤・通学などの移動の制限	家庭内の人間関係の悪化	その他	特になし
全体(N=721)	12.9	11.5	10.3	9.8	8.6	4.9	2.1	7.4
<b>【男性年齢別】</b>								
29歳以下(n=40)	5.0	10.0	7.5	5.0	17.5	7.5	0.0	12.5
30代(n=51)	15.7	13.7	5.9	5.9	5.9	9.8	3.9	7.8
40代(n=48)	6.3	12.5	16.7	12.5	10.4	6.3	0.0	10.4
50代(n=56)	16.1	1.8	14.3	10.7	8.9	1.8	1.8	8.9
60代(n=45)	13.3	0.0	4.4	2.2	11.1	2.2	0.0	15.6
70歳以上(n=39)	17.9	10.3	5.1	5.1	5.1	5.1	0.0	10.3

### 3 地域活動への参加状況

問 25 あなたは、次の地域活動に参加していますか。コロナ前の活動も含めてお答えください。（○印いくつでも）

地域活動への参加状況については、「自治会、婦人会、老人会など」の割合が37.7%と最も高く、次いで「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなど」（27.0%）、「PTA、子ども会など」（15.7%）、「福祉・ボランティア・NPO活動など」（6.8%）の順となっている。一方、約4割（39.5%）は「特に参加していない」と回答している。

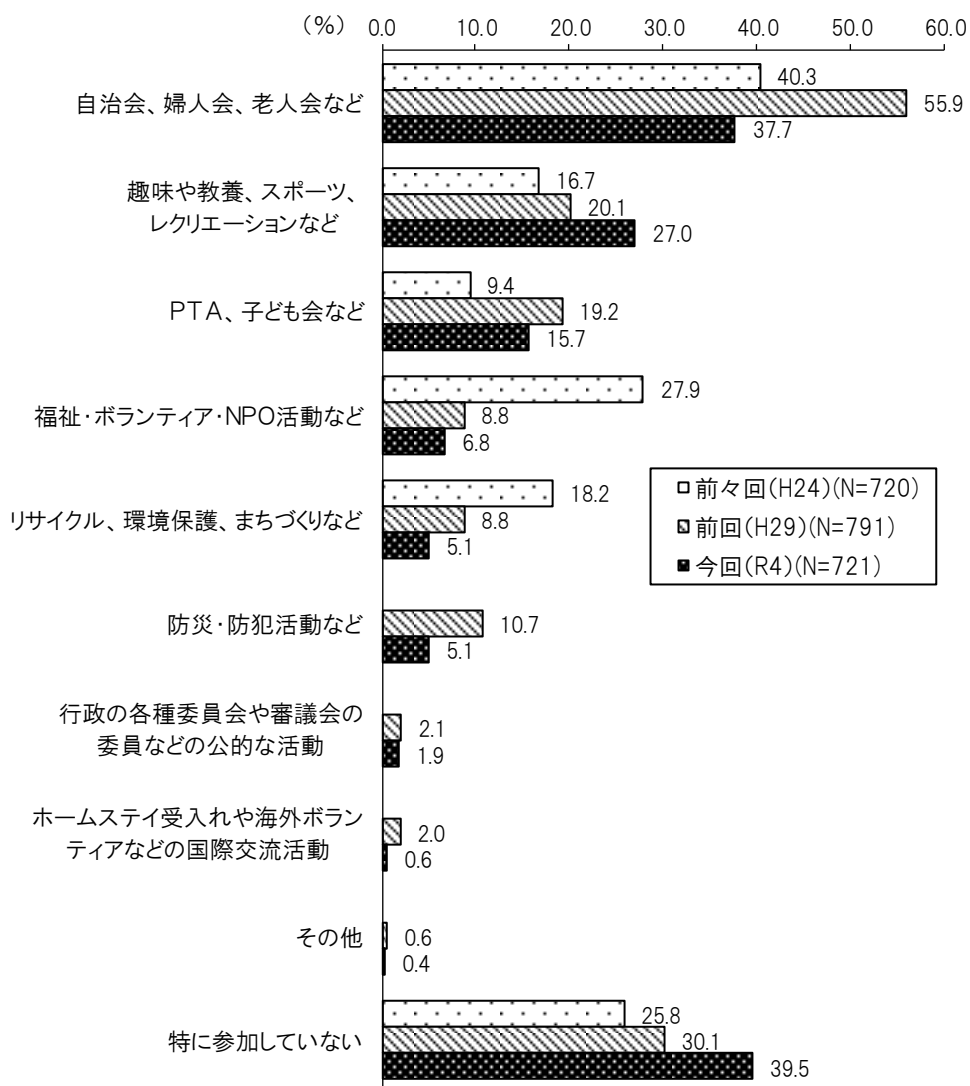
性別では、女性は「PTA、子ども会など」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「自治会、婦人会、老人会など」「防災・防犯活動など」の割合が高くなっている。



年齢別では、男女共に 29 歳以下で「特に参加していない」の割合が高く、女性は 30～40 代で「PTA、子ども会など」、50～60 代で「自治会、婦人会、老人会など」、70 歳以上で「趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなど」の割合が高くなっている。また、男性は 60 代以上で「自治会、婦人会、老人会など」、70 歳以上で「福祉・ボランティア・NPO 活動など」の割合が高くなっている。

単位 (%)	自治会、 婦人会、 老人会など	趣味や教養、 スポーツ、 レク リエーションなど	PTA、 子ども会など	福祉・ボ ランティア ・NPO 活動など	づくりな ど、環境 保護、 まち	防災・防 犯活動な ど	行政の各 種委員会 や審議 会の公 的な活 動	ホーム ステイ アなど の国際 交流活 動	その他	特に参 加して いない
全体(N=721)	37.7	27.0	15.7	6.8	5.1	5.1	1.9	0.6	0.4	39.5
<b>【女性年齢別】</b>										
29歳以下(n=64)	6.3	17.2	4.7	6.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	71.9
30代(n=78)	15.4	23.1	43.6	0.0	3.8	2.6	0.0	0.0	0.0	41.0
40代(n=85)	35.3	22.4	49.4	2.4	5.9	2.4	0.0	2.4	0.0	31.8
50代(n=87)	52.9	31.0	11.5	11.5	3.4	6.9	1.1	1.1	1.1	29.9
60代(n=65)	56.9	26.2	4.6	7.7	6.2	3.1	3.1	1.5	0.0	27.7
70歳以上(n=52)	36.5	38.5	0.0	7.7	5.8	1.9	0.0	0.0	0.0	42.3
<b>【男性年齢別】</b>										
29歳以下(n=40)	7.5	20.0	0.0	0.0	5.0	2.5	0.0	0.0	0.0	65.0
30代(n=51)	33.3	29.4	13.7	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	45.1
40代(n=48)	45.8	31.3	18.8	12.5	4.2	8.3	4.2	0.0	2.1	35.4
50代(n=56)	51.8	32.1	3.6	7.1	1.8	7.1	3.6	0.0	1.8	33.9
60代(n=45)	62.2	28.9	2.2	4.4	8.9	15.6	2.2	0.0	0.0	28.9
70歳以上(n=39)	59.0	23.1	0.0	23.1	12.8	17.9	12.8	0.0	0.0	33.3

【参考／時系列推移】



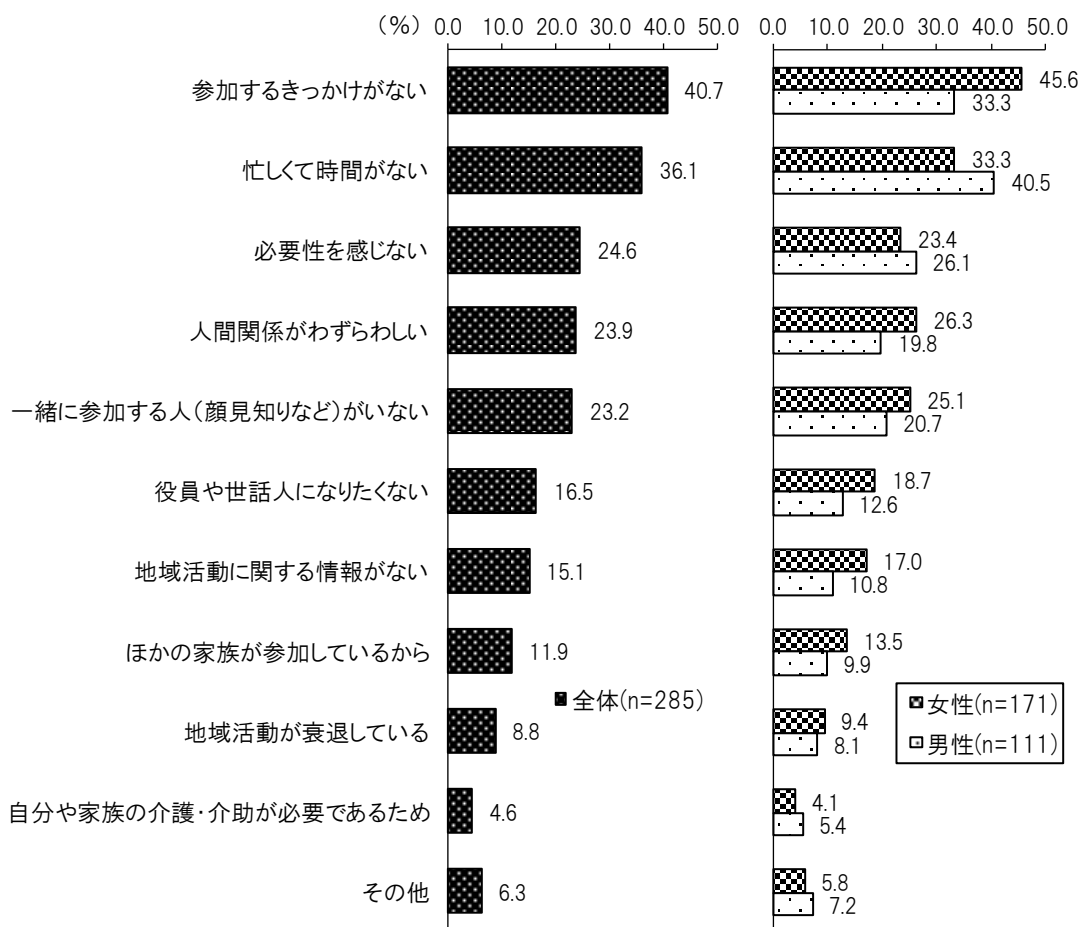
注：前々回調査(H24)では、過去1年間に参加した活動として回答

#### 4 地域活動に参加していない理由

【問 25 で「10 特に参加していない」と答えた方におたずねします。】  
 問 26 「特に参加していない」理由を教えてください。（○印いくつでも）

地域活動に参加していない理由については、「参加するきっかけがない」の割合が 40.7% と最も高く、次いで「忙しくて時間がない」(36.1%)、「必要性を感じない」(24.6%)、「人間関係がわずらわしい」(23.9%)、「一緒に参加する人(顔見知りなど)がない」(23.2%) の順となっている。

性別では、女性は「参加するきっかけがない」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「忙しくて時間がない」の割合が高くなっている。

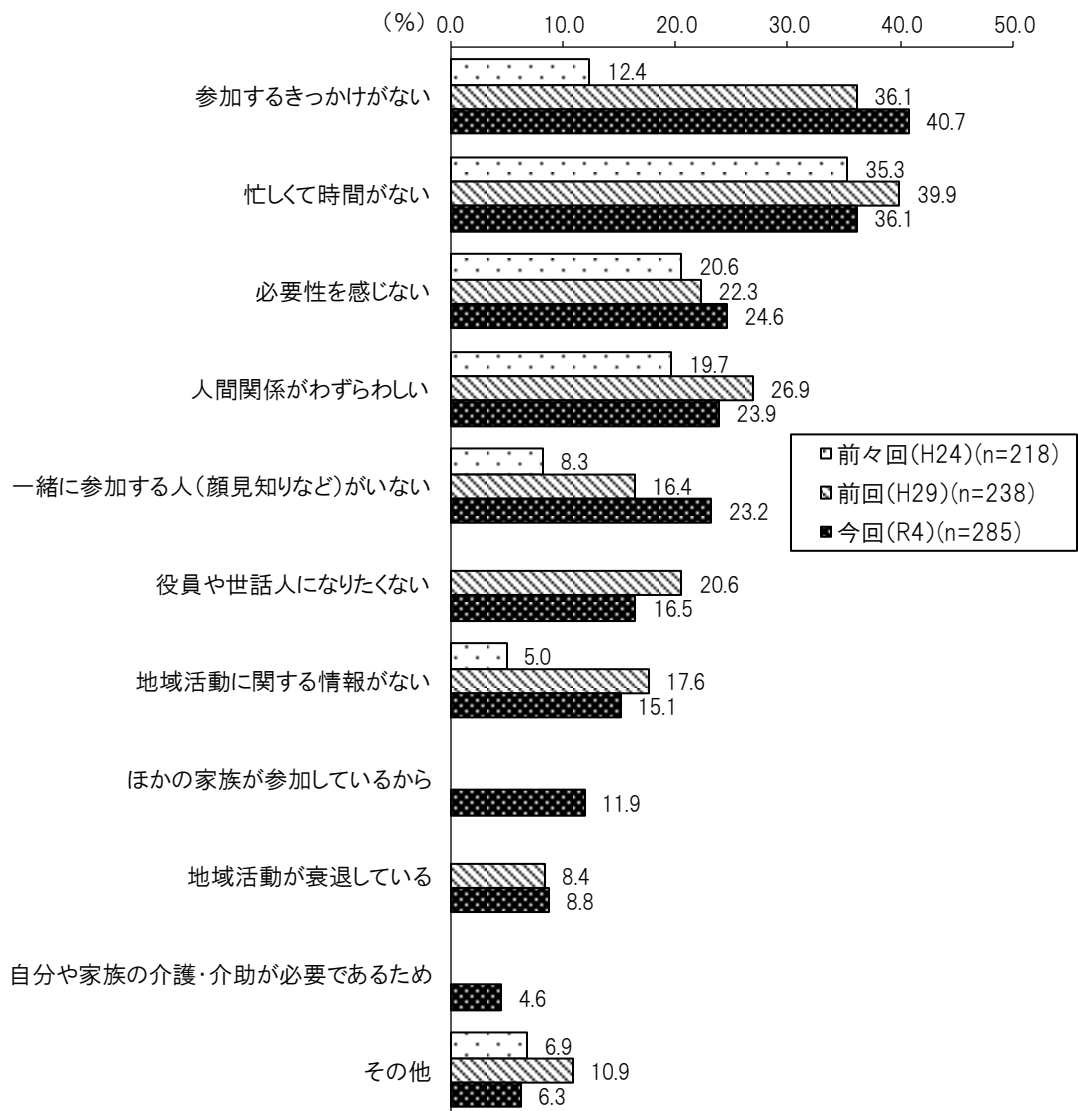




年齢別では、女性は 29 歳以下で「一緒に参加する人（顔見知りなど）がいない」、40 代で「ほかの家族が参加しているから」、60 代で「忙しくて時間がない」「人間関係がわずらわしい」の割合が高く、若い年齢層ほど「参加するきっかけがない」の割合が高くなっている。また、男性は 30 代で「忙しくて時間がない」、30～40 代で「人間関係がわずらわしい」、60 代以上で「必要性を感じない」の割合が高くなっている。

単位 (%)	参加するきっかけがない	忙しくて時間がない	必要性を感じない	人間関係がわずらわしい	知り（一緒に参加する人（顔見知りなど））がいない	役員や世話人になりたくない	地域活動に関する情報が	ほかの家族が参加しているから	地域活動が衰退している	自分や家族の介護・介助が必要であるため	その他
全体(n=285)	40.7	36.1	24.6	23.9	23.2	16.5	15.1	11.9	8.8	4.6	6.3
【女性年齢別】											
29歳以下(n=46)	67.4	30.4	17.4	23.9	34.8	15.2	19.6	8.7	13.0	2.2	6.5
30代(n=32)	62.5	37.5	18.8	18.8	25.0	21.9	25.0	12.5	12.5	0.0	6.3
40代(n=27)	37.0	18.5	37.0	33.3	11.1	14.8	3.7	40.7	3.7	3.7	0.0
50代(n=26)	34.6	34.6	15.4	26.9	30.8	15.4	19.2	7.7	11.5	7.7	7.7
60代(n=18)	22.2	50.0	22.2	50.0	22.2	22.2	11.1	5.6	0.0	11.1	0.0
70歳以上(n=22)	18.2	36.4	36.4	13.6	18.2	27.3	18.2	4.5	9.1	4.5	13.6
【男性年齢別】											
29歳以下(n=26)	46.2	46.2	15.4	7.7	23.1	3.8	19.2	7.7	3.8	0.0	3.8
30代(n=23)	17.4	56.5	26.1	34.8	21.7	21.7	0.0	4.3	21.7	0.0	4.3
40代(n=17)	23.5	41.2	23.5	35.3	23.5	11.8	11.8	17.6	11.8	5.9	17.6
50代(n=19)	47.4	47.4	10.5	10.5	26.3	10.5	15.8	15.8	5.3	0.0	5.3
60代(n=13)	38.5	15.4	53.8	7.7	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0	15.4	0.0
70歳以上(n=13)	23.1	15.4	46.2	23.1	15.4	7.7	15.4	7.7	0.0	23.1	15.4

【参考／時系列推移】



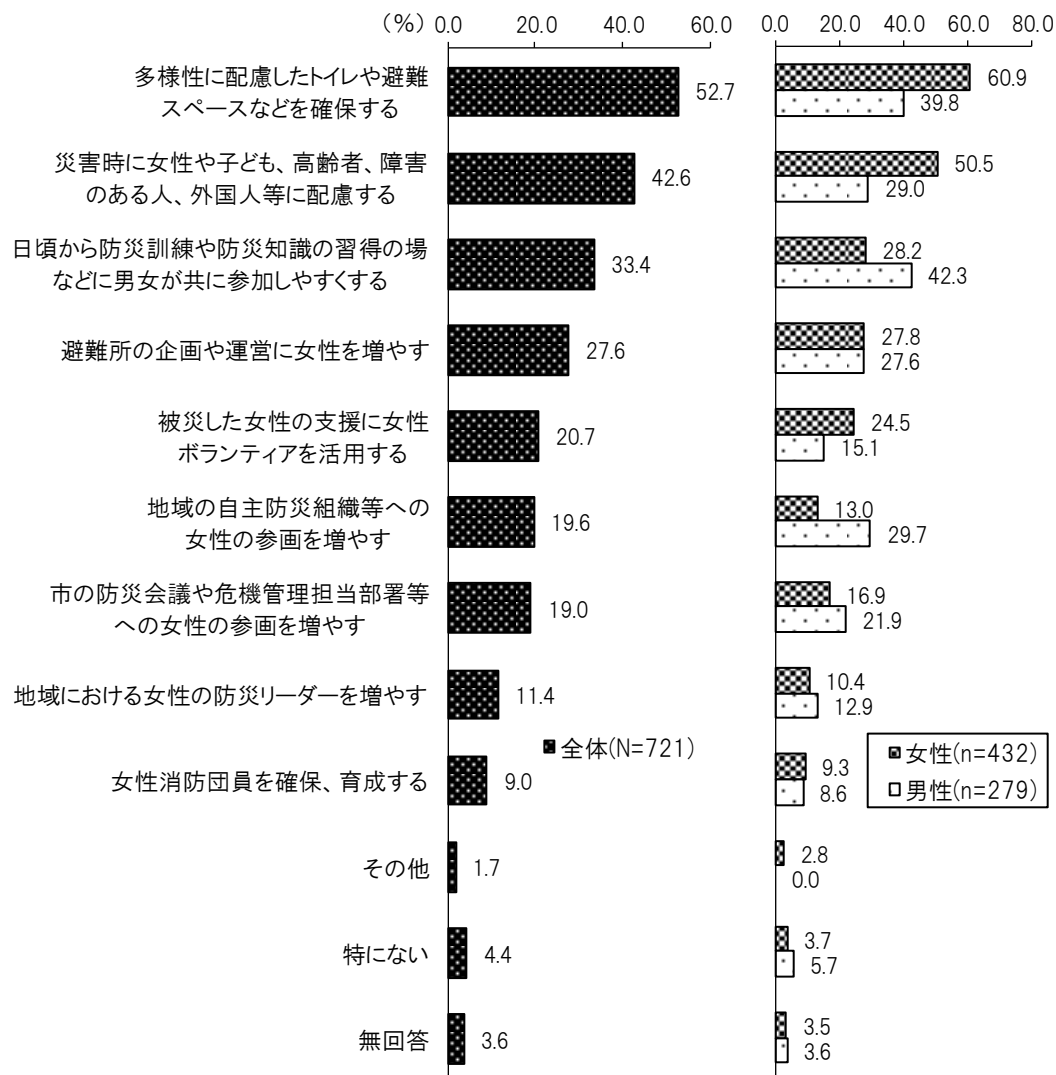
注:前々回調査(H24)では、回答は3つまでとなっている。

## 5 防災・災害復興対策で強化すべき取組

問 27 防災・災害復興対策においては、避難所での着替えや授乳場所の問題など、男女共同参画の視点が必要と言われています。今後、どのような取組を強化すべきだと思いますか。（○印3つまで）

防災・災害復興対策で強化すべき取組については、「多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する」の割合が52.7%と最も高く、次いで「災害時に女性や子ども、高齢者、障害のある人、外国人等に配慮する」（42.6%）、「日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする」（33.4%）、「避難所の企画や運営に女性を増やす」（27.6%）の順となっている。

性別では、女性は「多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する」「災害時に女性や子ども、高齢者、障害のある人、外国人等に配慮する」の割合が男性を大きく上回っている。



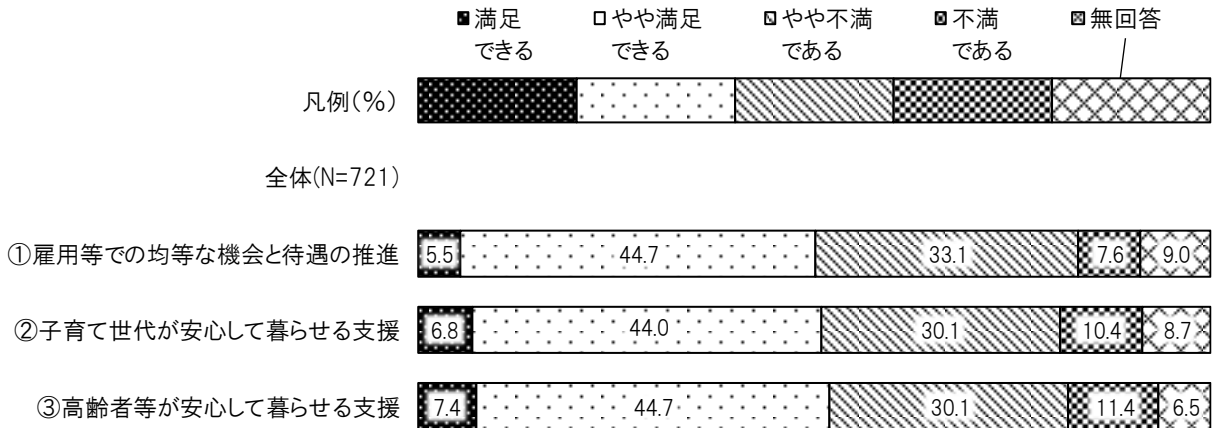
年齢別では、女性は29歳以下で「避難所の企画や運営に女性を増やす」の割合が高く、男性は30代で「被災した女性の支援に女性ボランティアを活用する」、40代で「避難所の企画や運営に女性を増やす」「市の防災会議や危機管理担当部署等への女性の参画を増やす」、50～60代で「日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	多様なニーズなどを確保する	災害時に障害のある人、外国人等に配慮する	日頃からの防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする	避難所の企画や運営に女性を増やす	被災した女性の支援に女性ボランティアを活用する	地域の自主防災組織等への女性の参画を増やす	市の防災会議や危機管理担当部署等への女性の参画を増やす	地域における女性の防災リーダーを増やす	女性消防団員を確保、育成する	その他	特になし
全体(N=721)	52.7	42.6	33.4	27.6	20.7	19.6	19.0	11.4	9.0	1.7	4.4
<b>【女性年齢別】</b>											
29歳以下(n=64)	67.2	50.0	21.9	35.9	20.3	14.1	25.0	12.5	18.8	6.3	1.6
30代(n=78)	53.8	47.4	28.2	32.1	28.2	17.9	17.9	14.1	15.4	2.6	3.8
40代(n=85)	64.7	54.1	28.2	24.7	22.4	7.1	22.4	11.8	5.9	4.7	2.4
50代(n=87)	58.6	57.5	26.4	25.3	25.3	14.9	11.5	9.2	8.0	0.0	4.6
60代(n=65)	63.1	50.8	30.8	29.2	21.5	12.3	15.4	6.2	3.1	3.1	3.1
70歳以上(n=52)	57.7	36.5	36.5	19.2	30.8	11.5	7.7	7.7	1.9	0.0	7.7
<b>【男性年齢別】</b>											
29歳以下(n=40)	32.5	30.0	27.5	30.0	15.0	22.5	22.5	12.5	10.0	0.0	7.5
30代(n=51)	45.1	35.3	37.3	21.6	27.5	29.4	21.6	13.7	13.7	0.0	2.0
40代(n=48)	35.4	25.0	31.3	37.5	16.7	22.9	35.4	20.8	14.6	0.0	4.2
50代(n=56)	37.5	26.8	53.6	26.8	12.5	35.7	25.0	12.5	7.1	0.0	8.9
60代(n=45)	40.0	31.1	55.6	24.4	11.1	35.6	15.6	8.9	4.4	0.0	6.7
70歳以上(n=39)	48.7	25.6	46.2	25.6	5.1	30.8	7.7	7.7	0.0	0.0	5.1

## 6 市の取組への満足度

問 28 あなたは、次の分野で、さぬき市の男女共同参画の取組に満足していますか。それぞれの項目についてお答えください。（○印1つずつ）

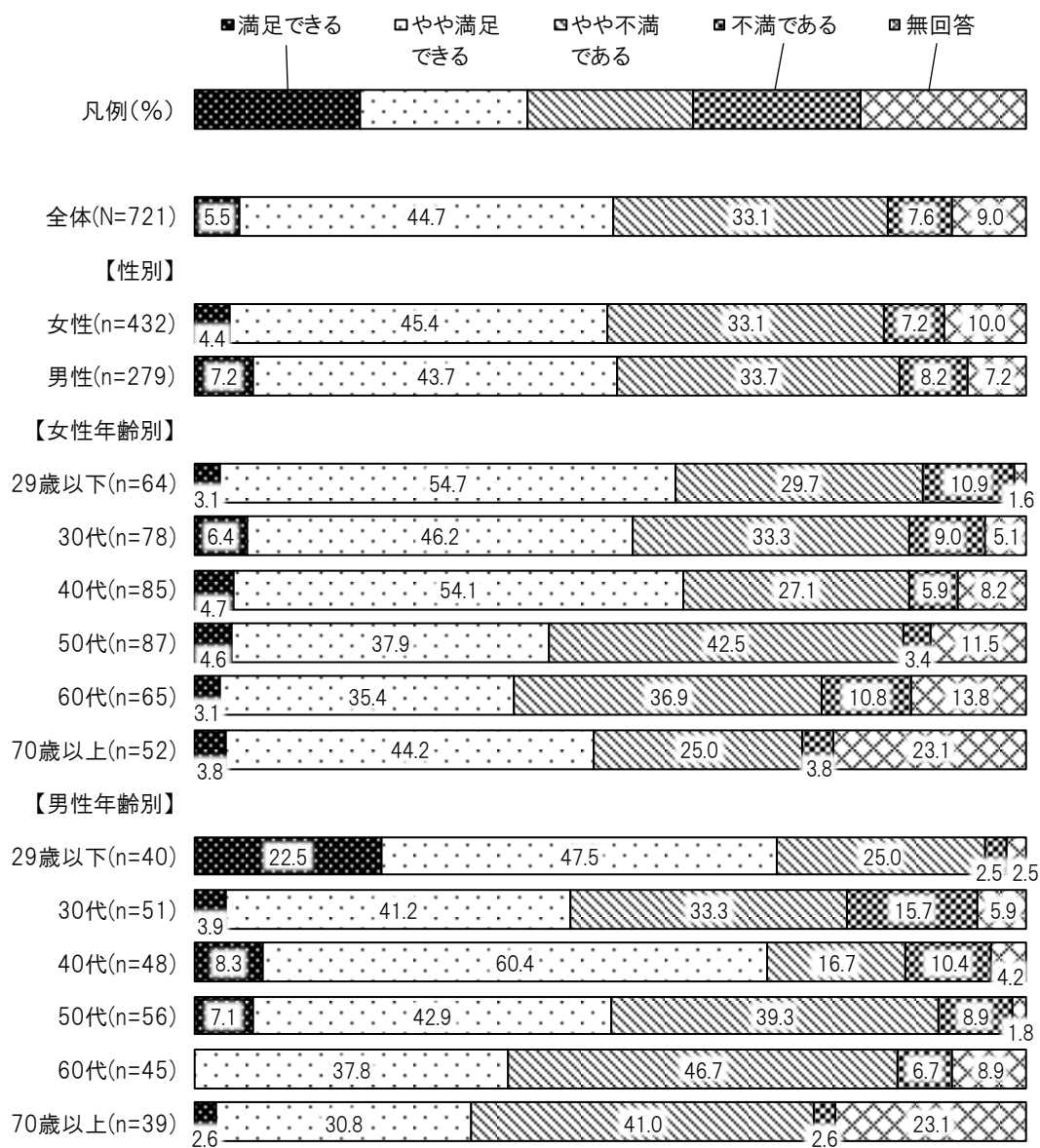
市の取組への満足度については、いずれの取組も『満足』（「満足できる」「やや満足できる」の合計）が約半数を占めており、『不満』（「不満である」「やや不満である」の合計）は4割程度となっている。



### ①雇用等での均等な機会と待遇の推進

「雇用等での均等な機会と待遇の推進」については、「満足できる」が 5.5%、「やや満足できる」が 44.7%、合計で 50.2%が『満足』と回答している。一方、「やや不満である」(33.1%)、「不満である」(7.6%) の合計は 40.7%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では男性の 29 歳以下や 40 代で『満足』の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

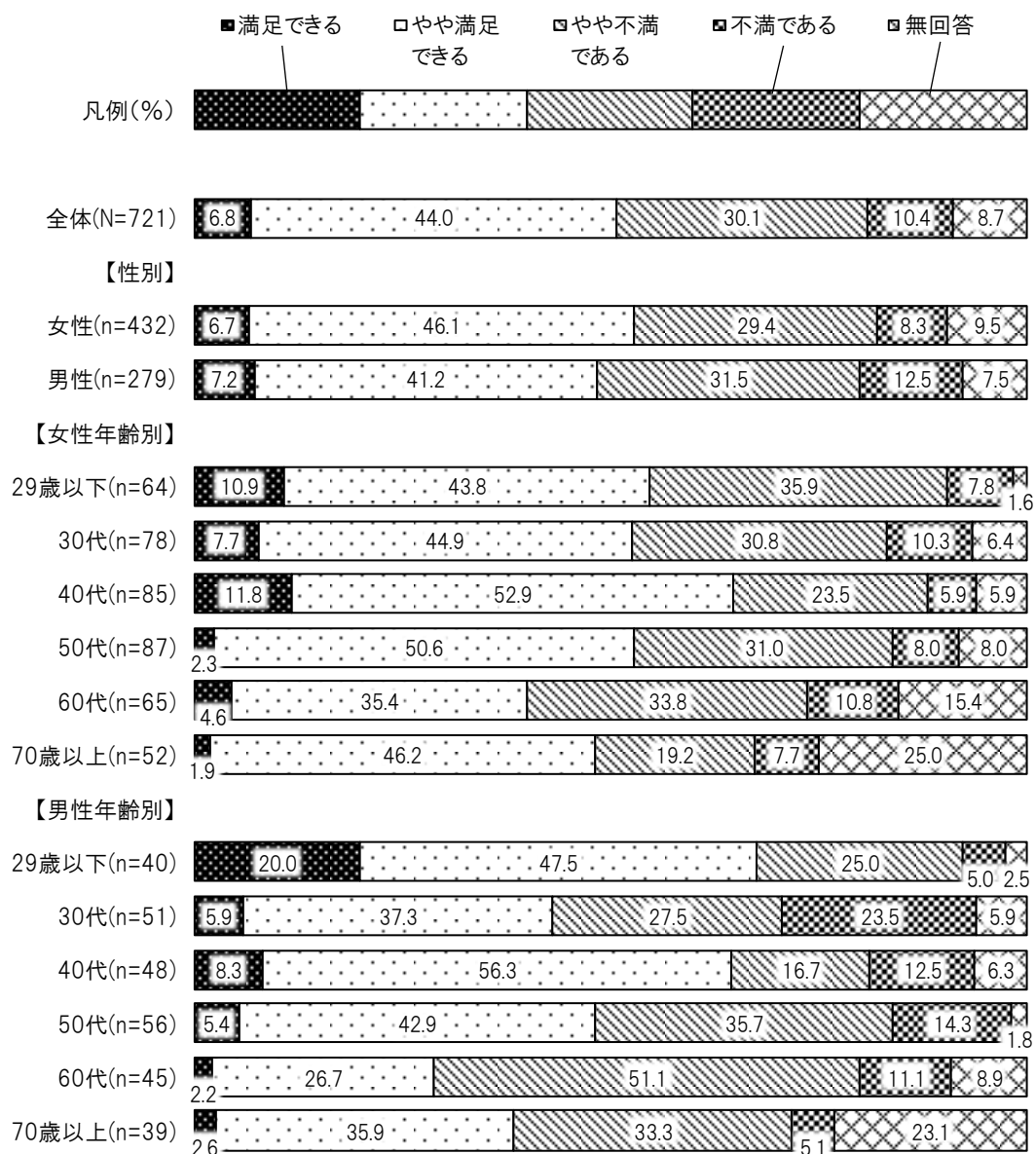


## ②子育て世代が安心して暮らせる支援

「子育て世代が安心して暮らせる支援」については、「満足できる」が6.8%、「やや満足できる」が44.0%、合計で50.8%が『満足』と回答している。一方、「やや不満である」(30.1%)、「不満である」(10.4%)の合計は40.5%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「やや満足できる」の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の29歳以下や男女共に40代で『満足』の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。

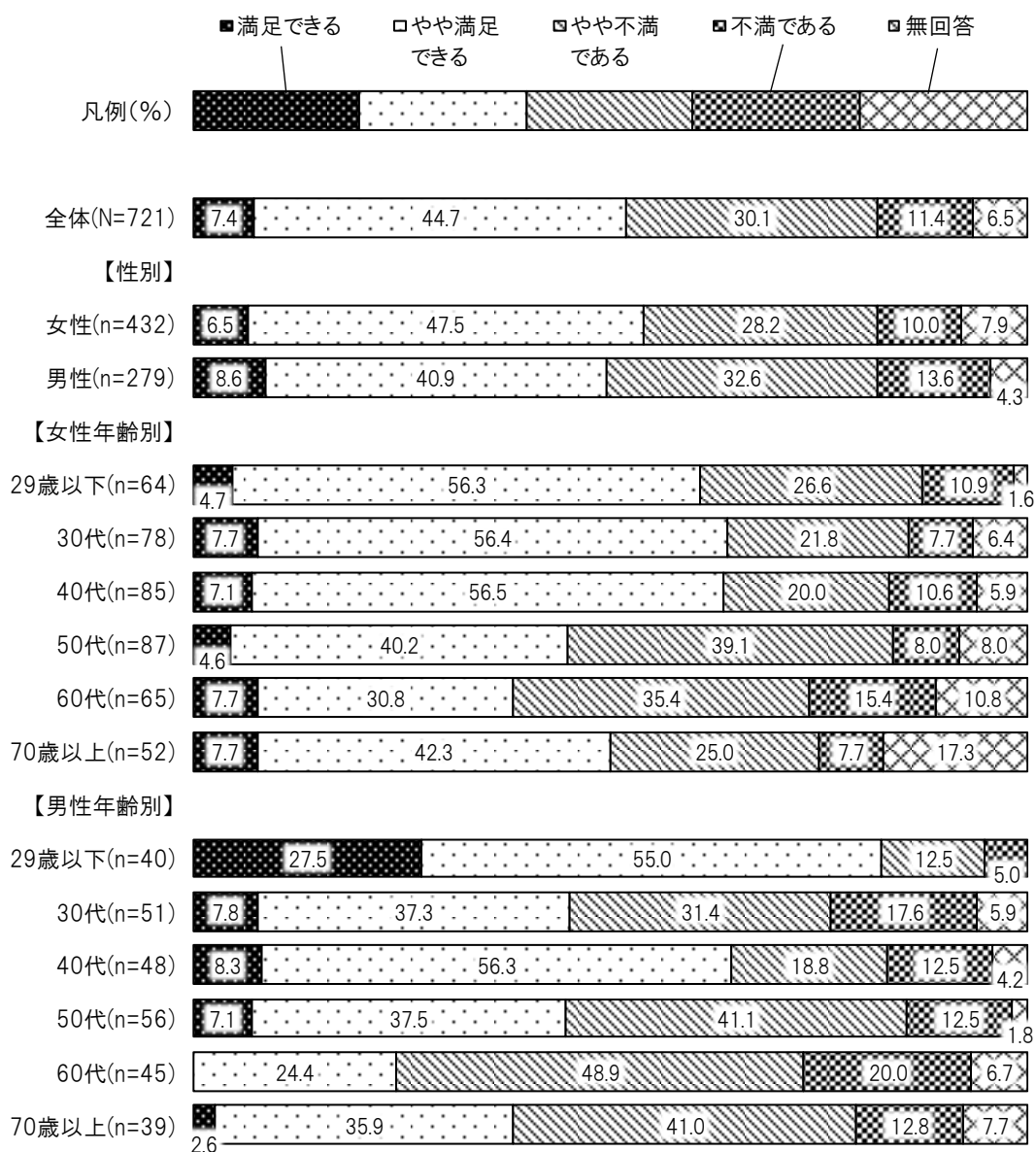


### ③高齢者等が安心して暮らせる支援

「高齢者等が安心して暮らせる支援」については、「満足できる」が7.4%、「やや満足できる」が44.7%、合計で52.1%が『満足』と回答している。一方、「やや不満である」(30.1%)、「不満である」(11.4%)の合計は41.5%となっている。

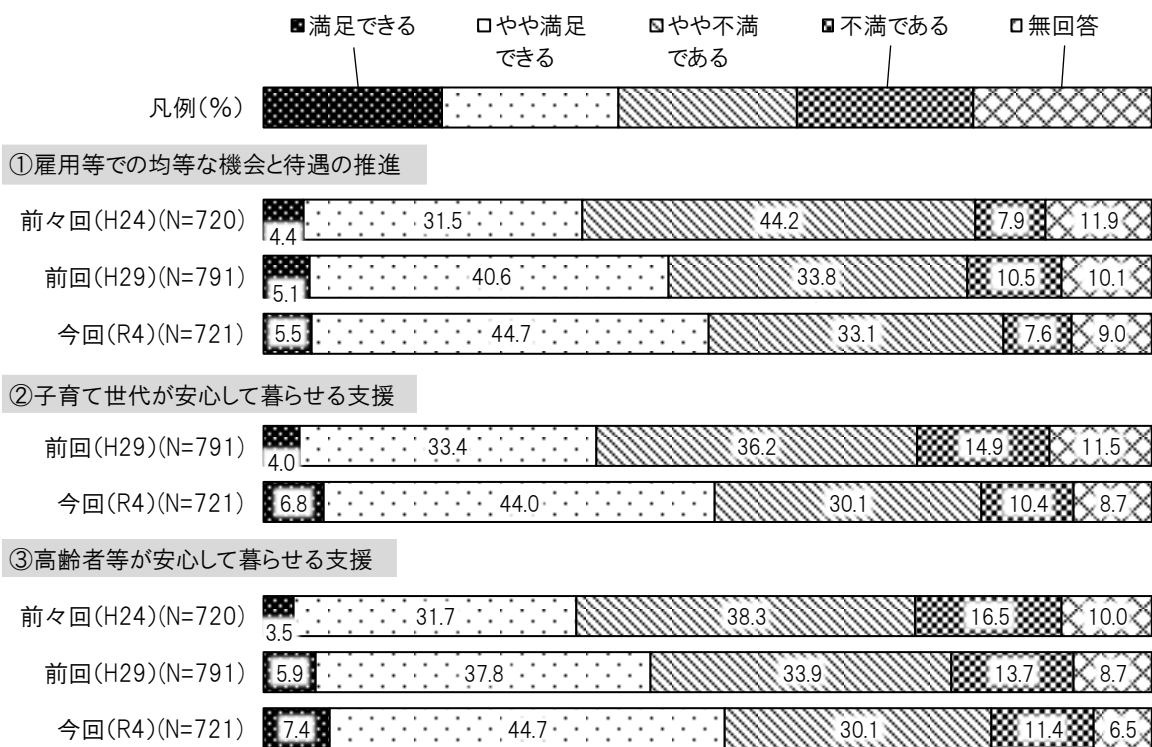
性別では、男性は女性に比べ『不満』の割合が高くなっている。

年齢別では、男女共に60代で『不満』の割合が高くなっている。





【参考／時系列推移】



## 【4】暴力の防止等について

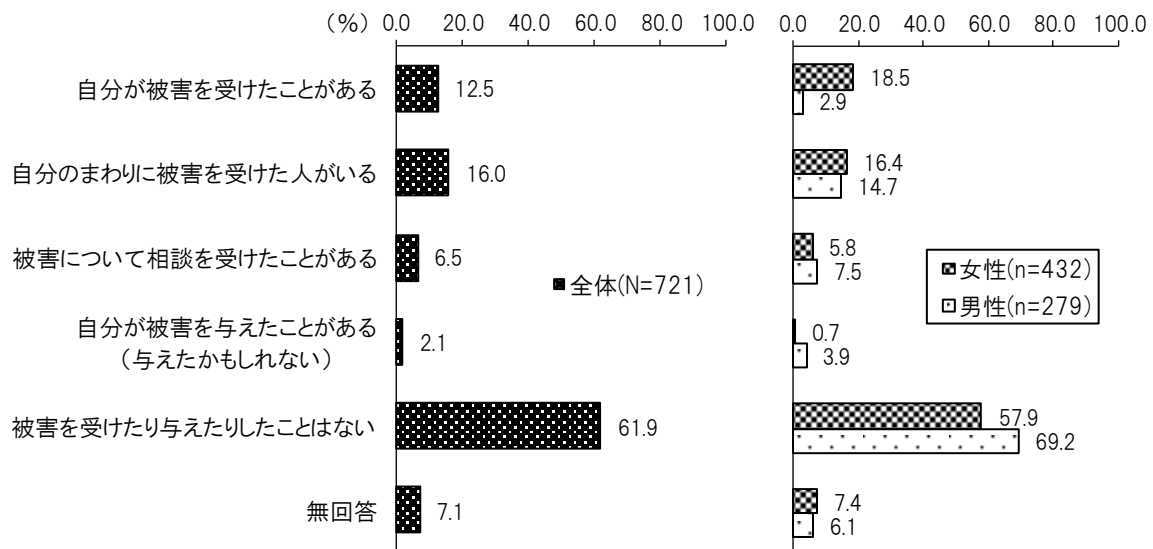
### 1 各種ハラスメントやDVの経験

問 29 あなたは、次の①から⑤までの項目について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○印それぞれいくつでも）

#### ①セクシュアルハラスメント（セクハラ）

セクシュアルハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が12.5%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が16.0%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は6.5%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は2.1%であった。

「自分が被害を受けたことがある」割合は、女性が男性を大きく上回っており、特に女性の30～40代で高くなっている。

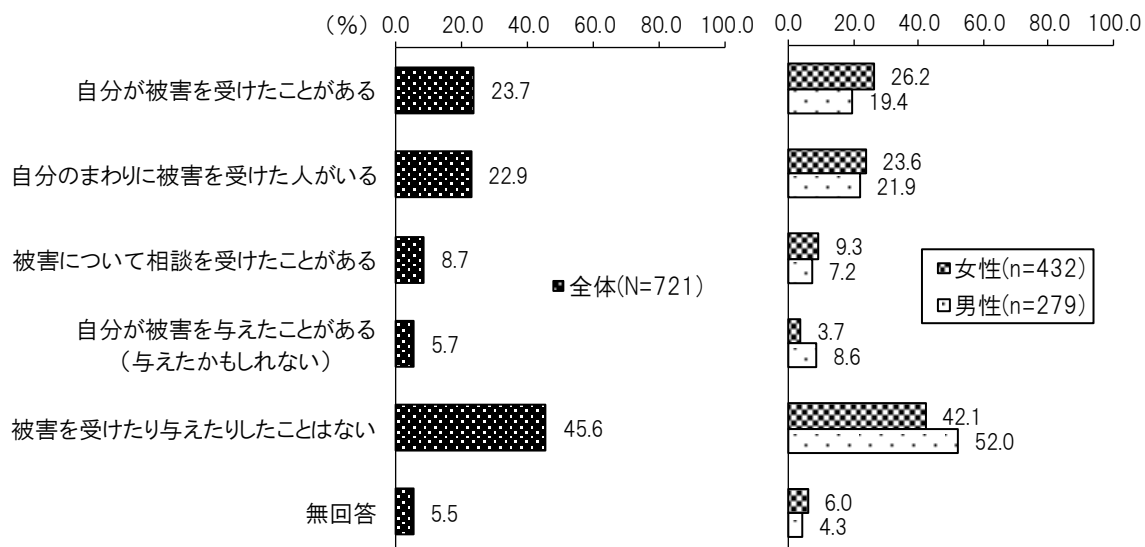


単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり与えたりしたことはない
全体(N=721)	12.5	16.0	6.5	2.1	61.9
【女性年齢別】					
29歳以下(n=64)	18.8	18.8	3.1	0.0	60.9
30代(n=78)	25.6	15.4	5.1	0.0	52.6
40代(n=85)	23.5	21.2	12.9	0.0	55.3
50代(n=87)	16.1	18.4	6.9	2.3	60.9
60代(n=65)	15.4	15.4	0.0	1.5	58.5
70歳以上(n=52)	7.7	5.8	1.9	0.0	61.5
【男性年齢別】					
29歳以下(n=40)	0.0	17.5	2.5	5.0	80.0
30代(n=51)	7.8	29.4	7.8	3.9	60.8
40代(n=48)	4.2	12.5	14.6	4.2	60.4
50代(n=56)	1.8	12.5	7.1	1.8	80.4
60代(n=45)	2.2	4.4	6.7	2.2	68.9
70歳以上(n=39)	0.0	10.3	5.1	7.7	64.1

## ②パワーハラスメント（パワハラ）

パワーハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が23.7%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が22.9%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は8.7%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は5.7%であった。

「自分が被害を受けたことがある」割合は、女性が男性を上回っており、男女共に30～40代で高くなっている。

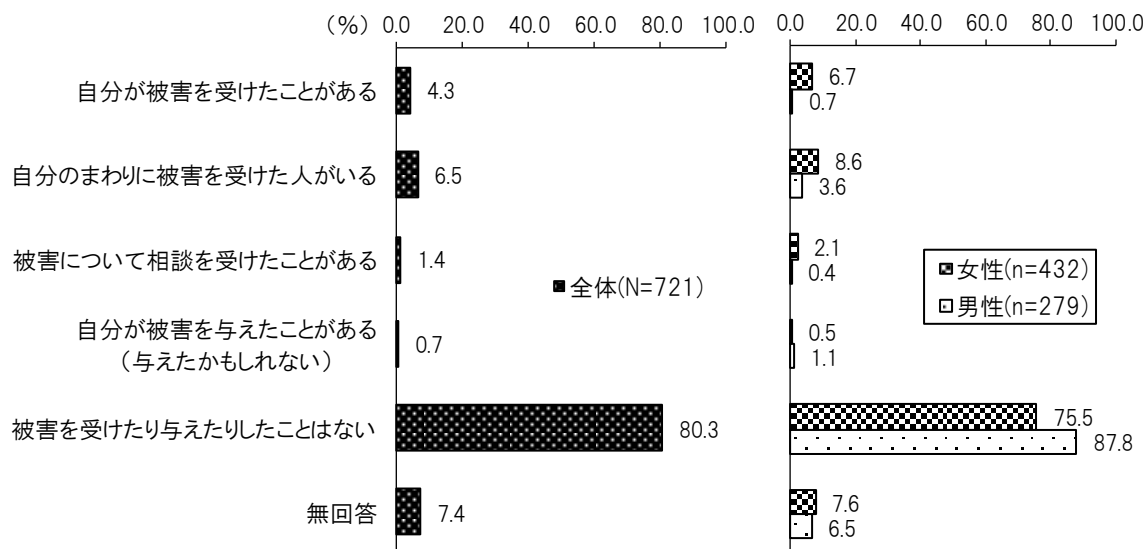


単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり与えたりしたことはない
全体(N=721)	23.7	22.9	8.7	5.7	45.6
<b>【女性年齢別】</b>					
29歳以下(n=64)	25.0	28.1	4.7	0.0	40.6
30代(n=78)	30.8	28.2	10.3	3.8	38.5
40代(n=85)	32.9	27.1	11.8	8.2	40.0
50代(n=87)	26.4	27.6	9.2	3.4	40.2
60代(n=65)	24.6	18.5	6.2	4.6	43.1
70歳以上(n=52)	9.6	5.8	13.5	0.0	55.8
<b>【男性年齢別】</b>					
29歳以下(n=40)	12.5	22.5	2.5	2.5	67.5
30代(n=51)	29.4	33.3	3.9	9.8	41.2
40代(n=48)	27.1	18.8	12.5	6.3	45.8
50代(n=56)	19.6	23.2	12.5	7.1	51.8
60代(n=45)	20.0	13.3	2.2	20.0	51.1
70歳以上(n=39)	2.6	17.9	7.7	5.1	59.0

### ③ マタニティハラスメント（マタハラ）

マタニティハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が4.3%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が6.5%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は1.4%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は0.7%であった。

年齢別でみると、女性の30代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が高くなっている。

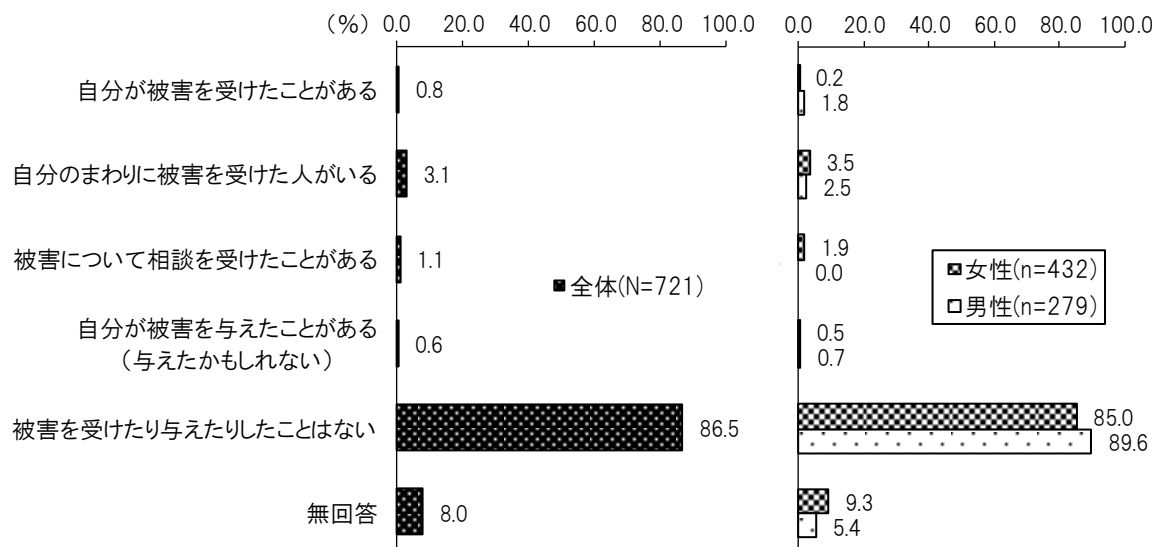


単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり与えたりしたことはない
全体(N=721)	4.3	6.5	1.4	0.7	80.3
<b>【女性年齢別】</b>					
29歳以下(n=64)	7.8	9.4	4.7	0.0	76.6
30代(n=78)	16.7	16.7	1.3	1.3	64.1
40代(n=85)	3.5	10.6	4.7	0.0	75.3
50代(n=87)	6.9	4.6	0.0	1.1	82.8
60代(n=65)	1.5	6.2	0.0	0.0	83.1
70歳以上(n=52)	1.9	1.9	1.9	0.0	69.2
<b>【男性年齢別】</b>					
29歳以下(n=40)	0.0	2.5	0.0	0.0	97.5
30代(n=51)	3.9	5.9	0.0	2.0	84.3
40代(n=48)	0.0	6.3	0.0	0.0	85.4
50代(n=56)	0.0	0.0	0.0	0.0	96.4
60代(n=45)	0.0	4.4	0.0	2.2	82.2
70歳以上(n=39)	0.0	2.6	2.6	2.6	79.5

#### ④パタニティハラスメント（パタハラ）

パタニティハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が0.8%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が3.1%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は1.1%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は0.6%であった。

年齢別でみると、男性の30～40代で「自分が被害を受けたことがある」の割合がやや高くなっている。

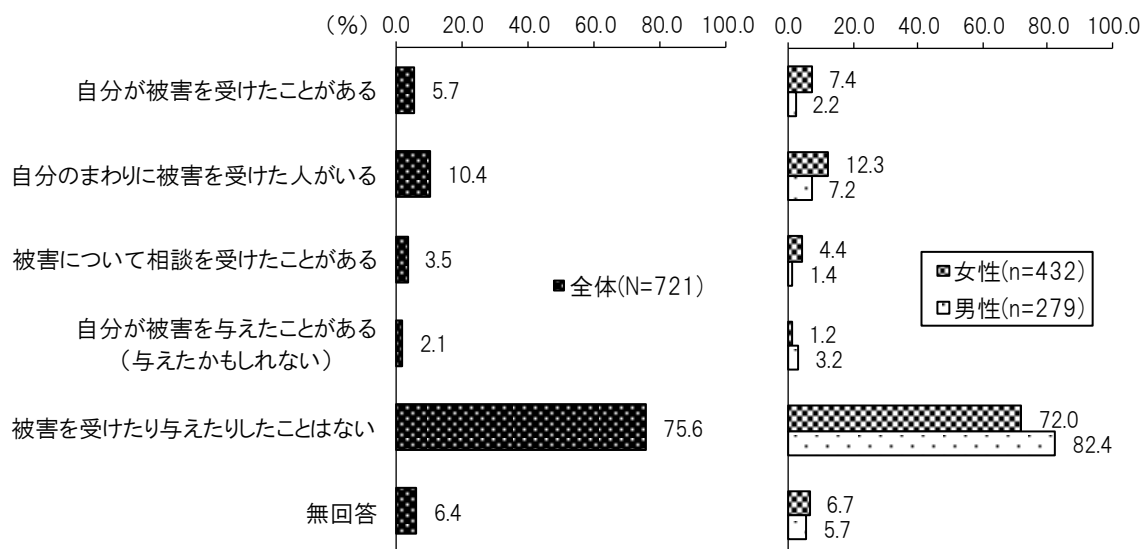


単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり与えたりしたことはない
全体(N=721)	0.8	3.1	1.1	0.6	86.5
<b>【女性年齢別】</b>					
29歳以下(n=64)	0.0	6.3	6.3	0.0	84.4
30代(n=78)	1.3	10.3	1.3	1.3	80.8
40代(n=85)	0.0	2.4	1.2	0.0	90.6
50代(n=87)	0.0	1.1	1.1	1.1	92.0
60代(n=65)	0.0	0.0	0.0	0.0	86.2
70歳以上(n=52)	0.0	0.0	1.9	0.0	69.2
<b>【男性年齢別】</b>					
29歳以下(n=40)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代(n=51)	3.9	5.9	0.0	2.0	84.3
40代(n=48)	4.2	4.2	0.0	0.0	85.4
50代(n=56)	1.8	1.8	0.0	0.0	96.4
60代(n=45)	0.0	2.2	0.0	0.0	86.7
70歳以上(n=39)	0.0	0.0	0.0	2.6	84.6

### ⑤ドメスティック・バイオレンス（DV）

ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験については、「自分が被害を受けたことがある」が5.7%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が10.4%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は3.5%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は2.1%であった。

「自分が被害を受けたことがある」割合は、女性が男性を上回っており、特に女性の30～50代で高くなっている。



単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある (与えたかもしれない)	被害を受けたり与えたりしたことはない
全体(N=721)	5.7	10.4	3.5	2.1	75.6
【女性年齢別】					
29歳以下(n=64)	4.7	12.5	3.1	0.0	76.6
30代(n=78)	9.0	10.3	2.6	2.6	76.9
40代(n=85)	9.4	20.0	10.6	1.2	67.1
50代(n=87)	11.5	19.5	4.6	1.1	63.2
60代(n=65)	1.5	4.6	1.5	0.0	81.5
70歳以上(n=52)	5.8	0.0	1.9	1.9	69.2
【男性年齢別】					
29歳以下(n=40)	0.0	7.5	0.0	0.0	92.5
30代(n=51)	5.9	17.6	3.9	5.9	68.6
40代(n=48)	2.1	8.3	0.0	2.1	85.4
50代(n=56)	3.6	5.4	1.8	3.6	87.5
60代(n=45)	0.0	2.2	0.0	4.4	80.0
70歳以上(n=39)	0.0	0.0	2.6	2.6	82.1

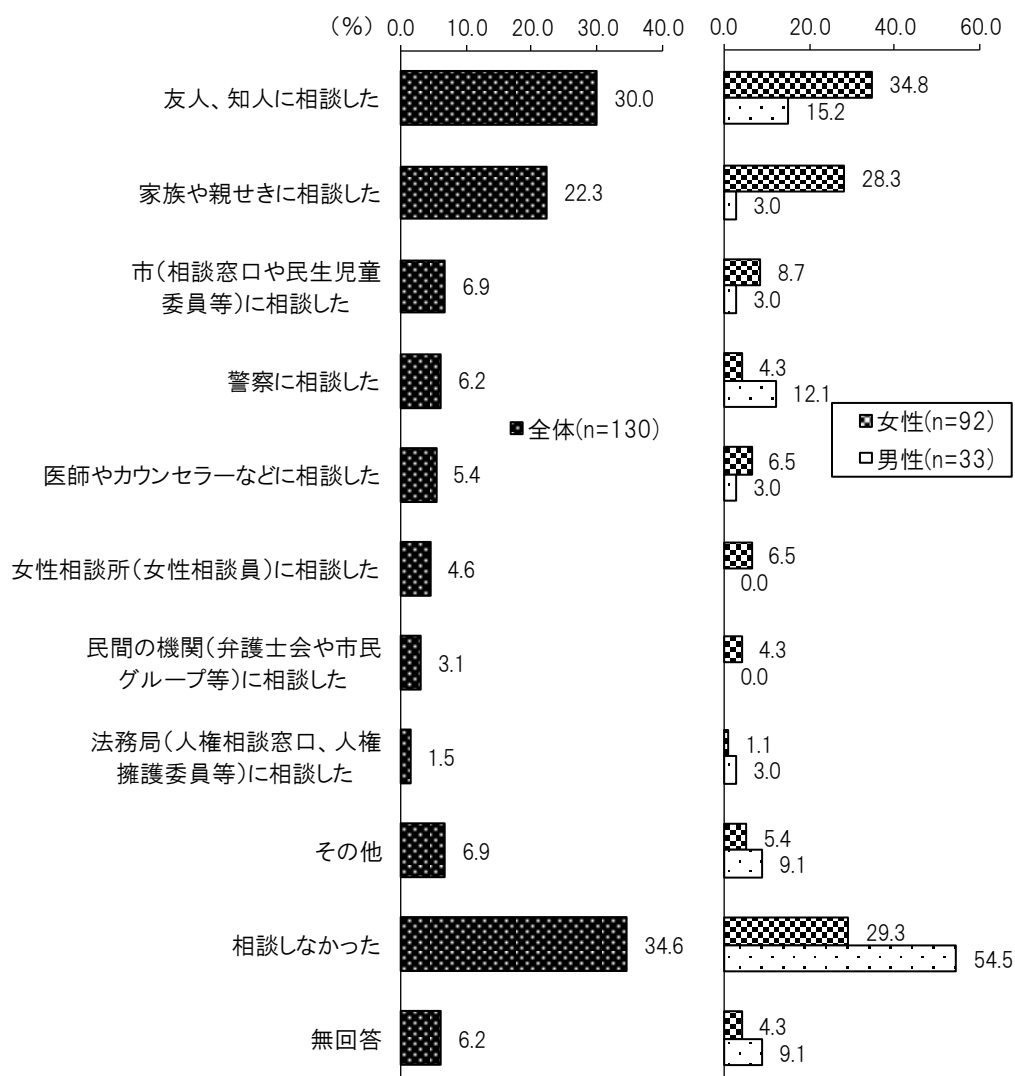
## 2 DVに関する相談状況

【問 29 ⑤「DV」について「1～4」と答えた方におたずねします。】

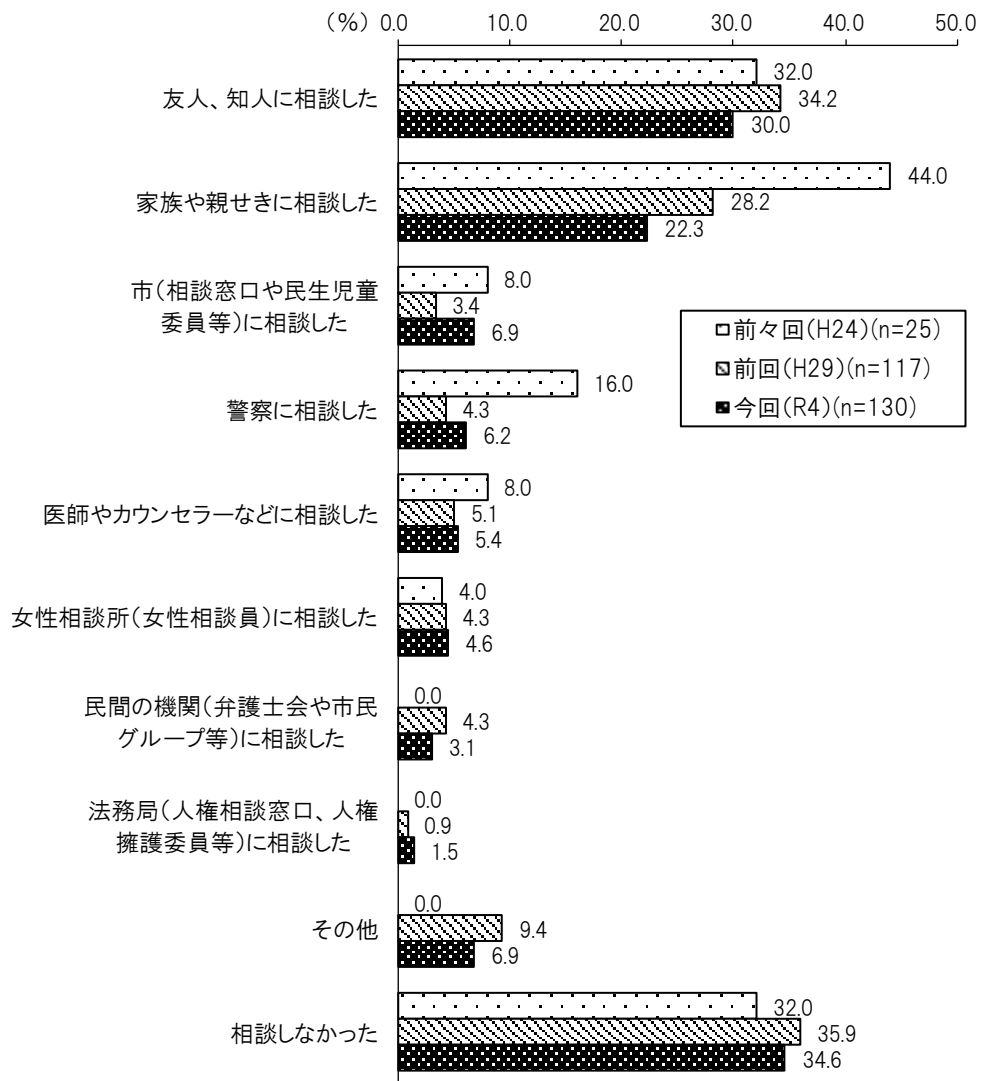
問 30 あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○印いくつでも）

DVに関する相談状況については、「友人、知人に相談した」の割合が30.0%と最も高く、次いで「家族や親せきに相談した」（22.3%）、「市（相談窓口や民生児童委員等）に相談した」（6.9%）、「警察に相談した」（6.2%）の順となっている。一方、「相談しなかった」は34.6%となっている。

性別では、女性は「友人、知人に相談した」「家族や親せきに相談した」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「相談しなかった」の割合が高くなっている。



【参考／時系列推移】



注：前々回調査(H24)では、暴力を受けた人を対象に調査している。



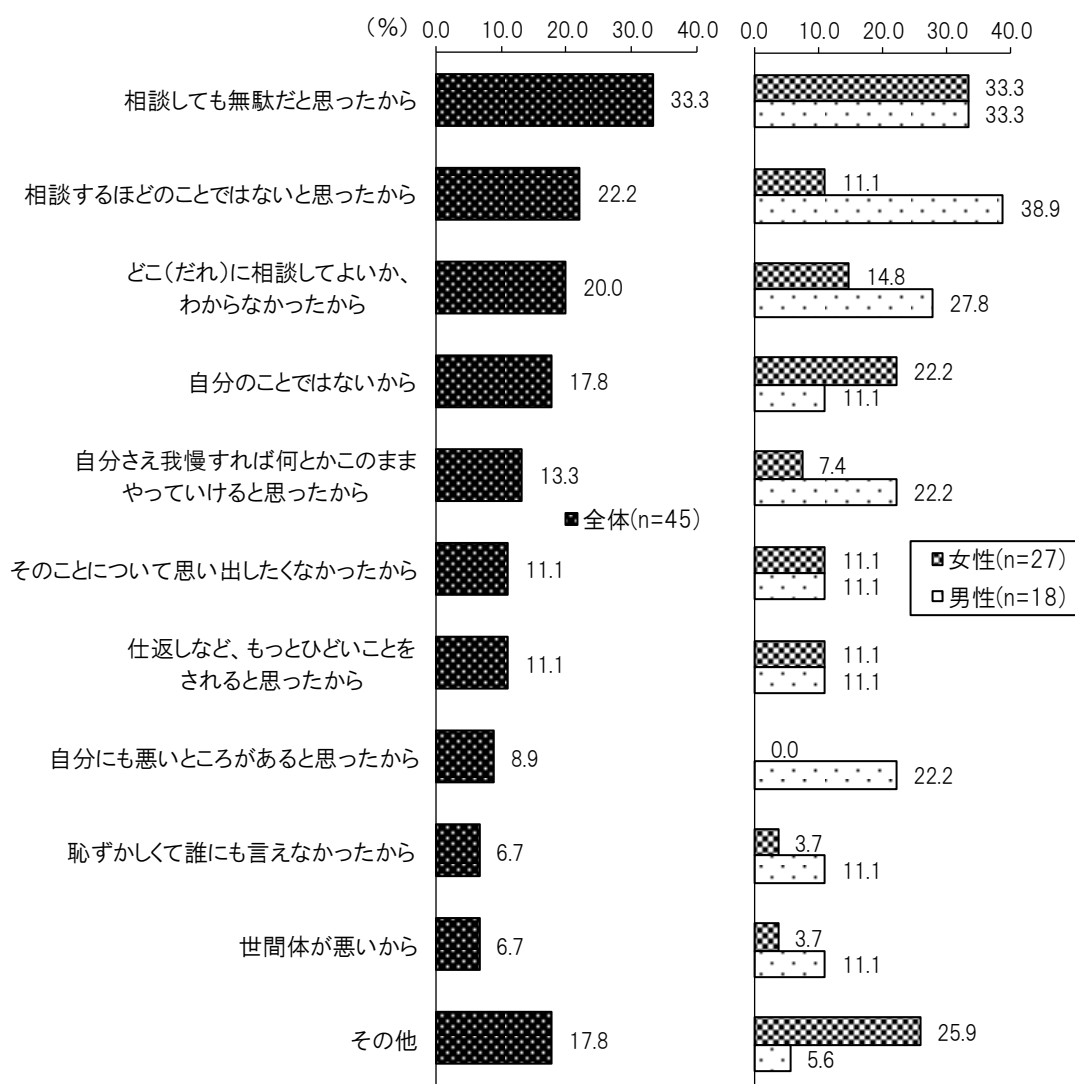
### 3 相談しなかった理由

【問 30 で「10 相談しなかった」と答えた方におたずねします。】

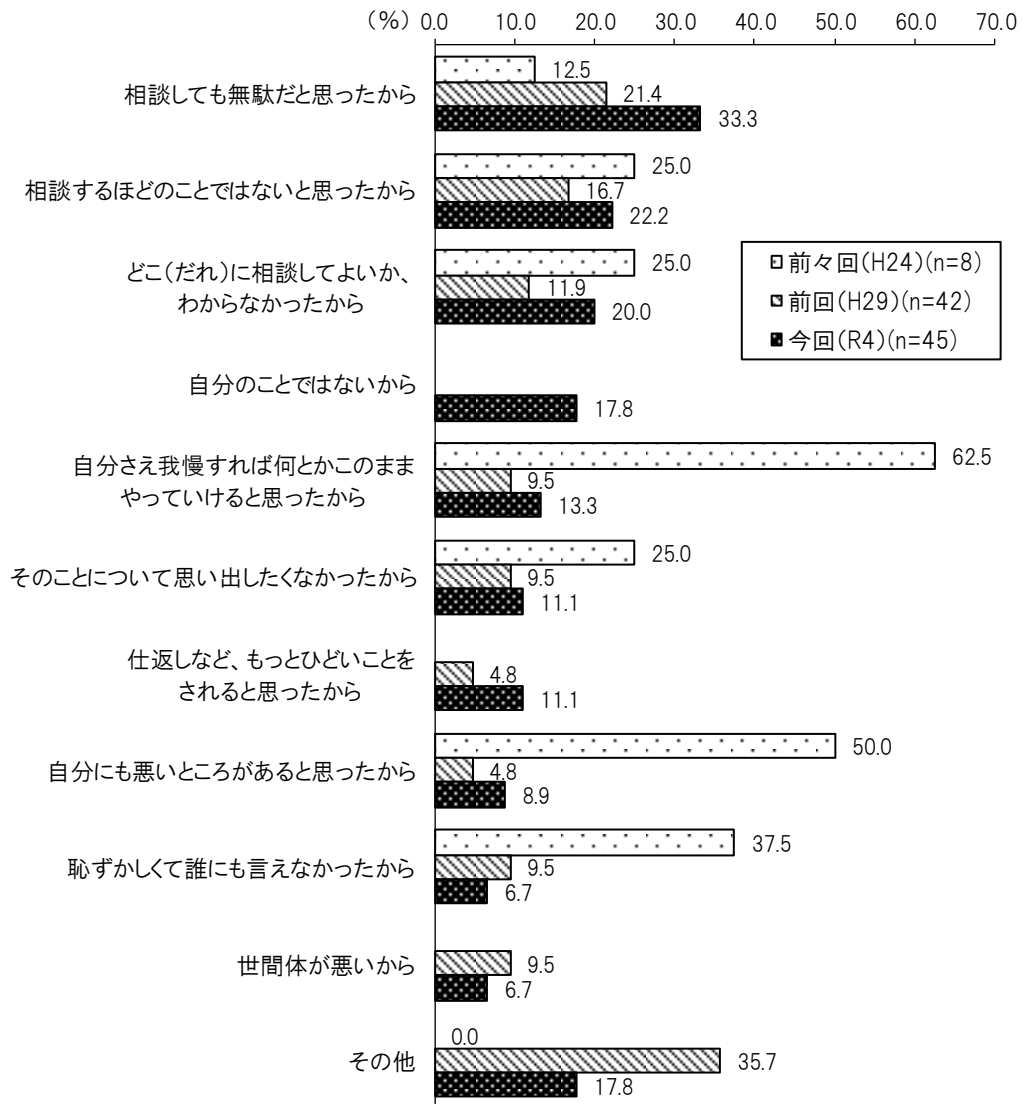
問 31 あなたが「相談しなかった」のは、なぜですか。（○印いくつでも）

相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（22.2%）、「どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから」（20.0%）、「自分のことではないから」（17.8%）の順となっている。また「その他」では、「DVが、どのような行為を指すのかわらなかった」「すでに解決していたから」などの回答がみられた。

性別では、女性は男性に比べ「自分のことではないから」の割合が高く、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」「どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから」などの割合が高くなっている。



【参考／時系列推移】



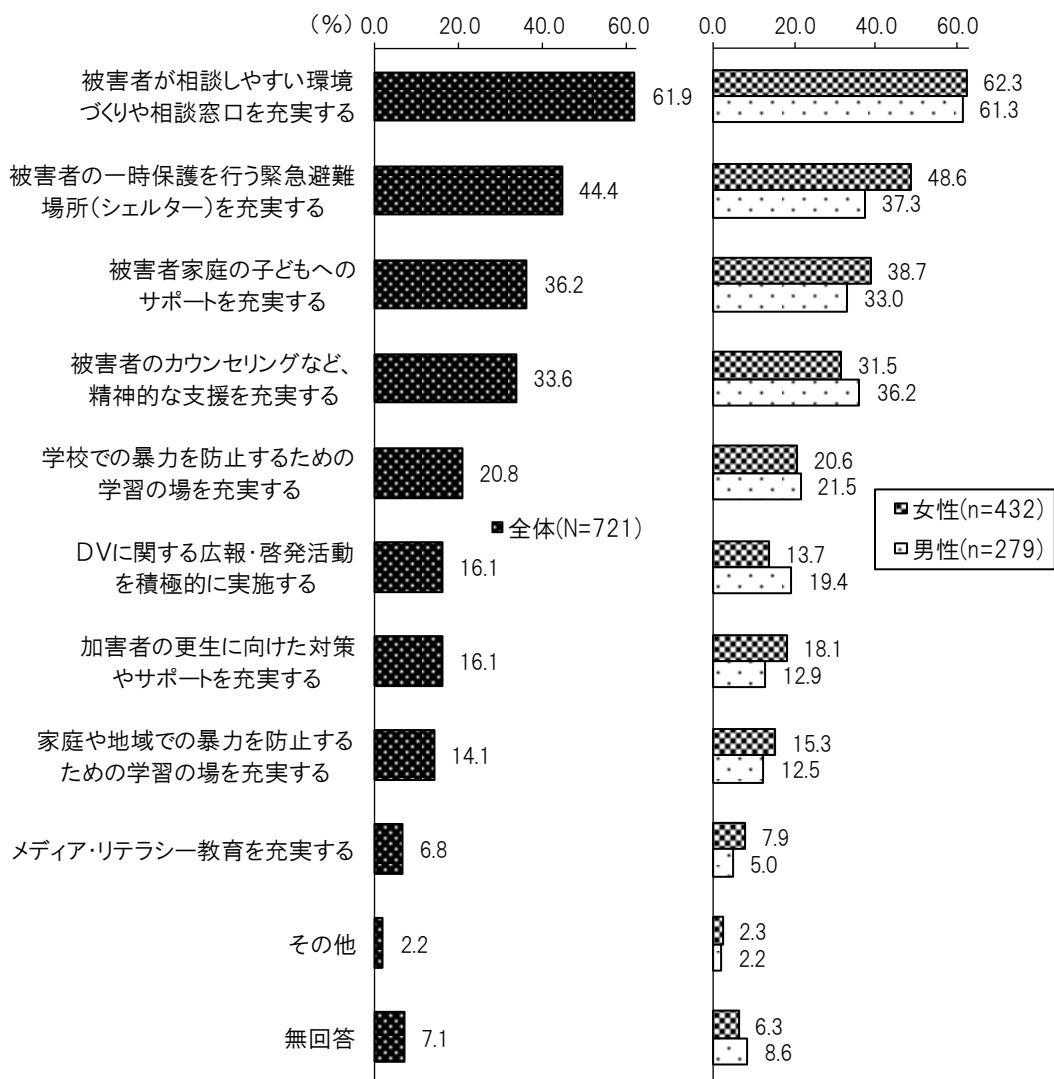
注:前々回調査(H24)では、暴力を受けた人を対象に調査している。

#### 4 DVをなくすために必要な取組

問 32 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）に対する対策や支援として、どのような取組が必要だと思いますか。（〇印3つまで）

DVをなくすために必要な取組については、「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口を充実する」の割合が61.9%と最も高く、次いで「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する」（44.4%）、「被害者家庭の子どもへのサポートを充実する」（36.2%）、「被害者のカウンセリングなど、精神的な支援を充実する」（33.6%）の順となっている。

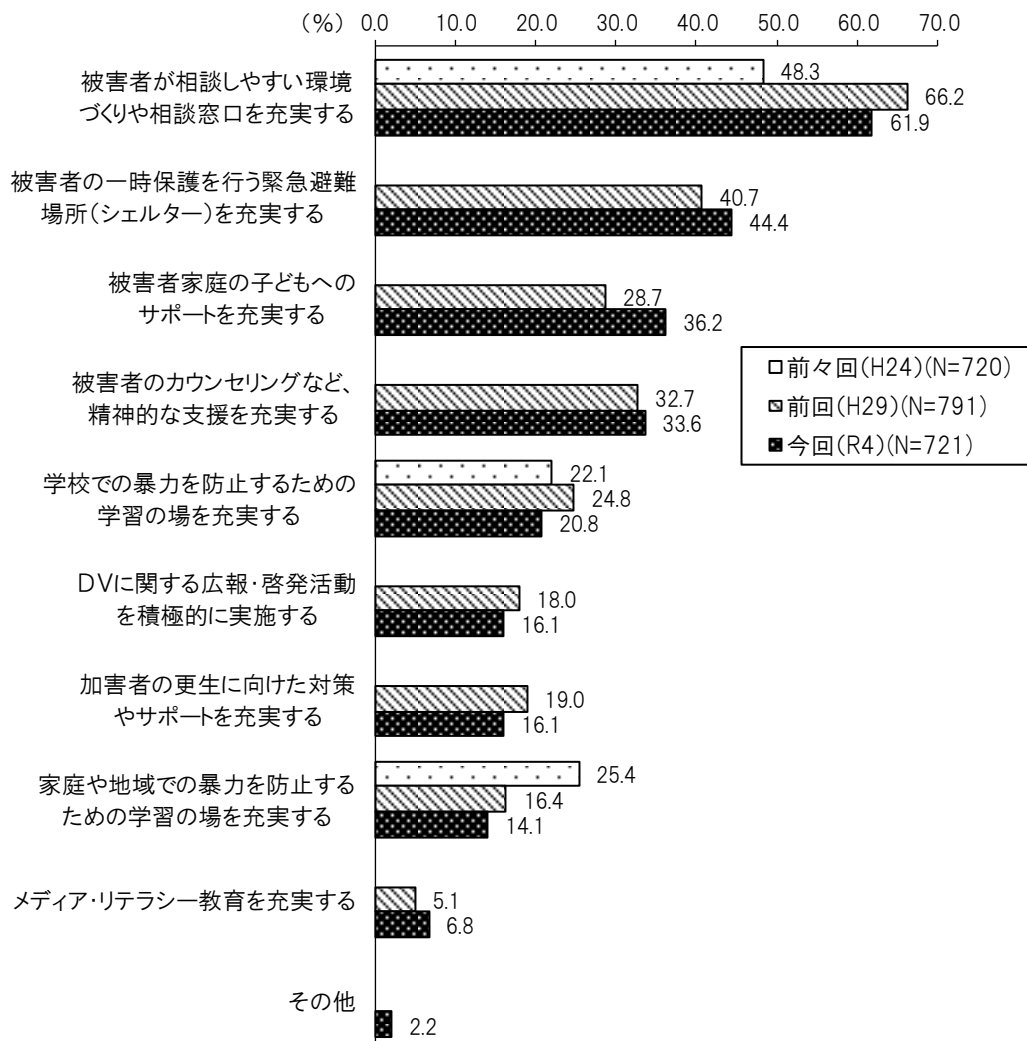
性別では、女性は男性に比べ「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する」「被害者家庭の子どもへのサポートを充実する」などの割合が高くなっている。



年齢別では、女性は30代以下で「被害者のカウンセリングなど、精神的な支援を充実する」、40代で「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する」、60代で「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口を充実する」の割合が高くなっている。男性は30～40代で「被害者家庭の子どもへのサポートを充実する」、40～50代で「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する」の割合が高くなっている。

単位 (%)	被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口を充実する	被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する	被害者家庭の子どもへのサポートを充実する	被害者のカウンセリングなど、精神的な支援を充実する	学校での暴力を防止するための学習の場を充実する	DVに関する広報・啓発活動を積極的に実施する	加害者の更生に向けた対策やサポートを充実する	家庭や地域での暴力を防止するための学習の場を充実する	メディア・リテラシー教育を充実する	その他
全体(N=721)	61.9	44.4	36.2	33.6	20.8	16.1	16.1	14.1	6.8	2.2
【女性年齢別】										
29歳以下(n=64)	64.1	51.6	45.3	40.6	17.2	15.6	23.4	12.5	4.7	3.1
30代(n=78)	55.1	48.7	33.3	37.2	21.8	7.7	19.2	20.5	12.8	5.1
40代(n=85)	58.8	61.2	47.1	28.2	28.2	10.6	22.4	14.1	8.2	1.2
50代(n=87)	62.1	46.0	37.9	31.0	11.5	14.9	16.1	16.1	8.0	2.3
60代(n=65)	70.8	49.2	33.8	32.3	27.7	16.9	7.7	9.2	4.6	0.0
70歳以上(n=52)	65.4	28.8	32.7	17.3	17.3	19.2	17.3	17.3	7.7	1.9
【男性年齢別】										
29歳以下(n=40)	62.5	37.5	27.5	40.0	27.5	17.5	15.0	12.5	10.0	2.5
30代(n=51)	60.8	33.3	39.2	39.2	17.6	9.8	19.6	13.7	5.9	5.9
40代(n=48)	52.1	45.8	37.5	29.2	27.1	25.0	14.6	14.6	6.3	0.0
50代(n=56)	71.4	50.0	32.1	39.3	14.3	21.4	10.7	5.4	3.6	3.6
60代(n=45)	66.7	24.4	28.9	31.1	22.2	22.2	8.9	15.6	4.4	0.0
70歳以上(n=39)	51.3	28.2	30.8	38.5	23.1	20.5	7.7	15.4	0.0	0.0

【参考／時系列推移】



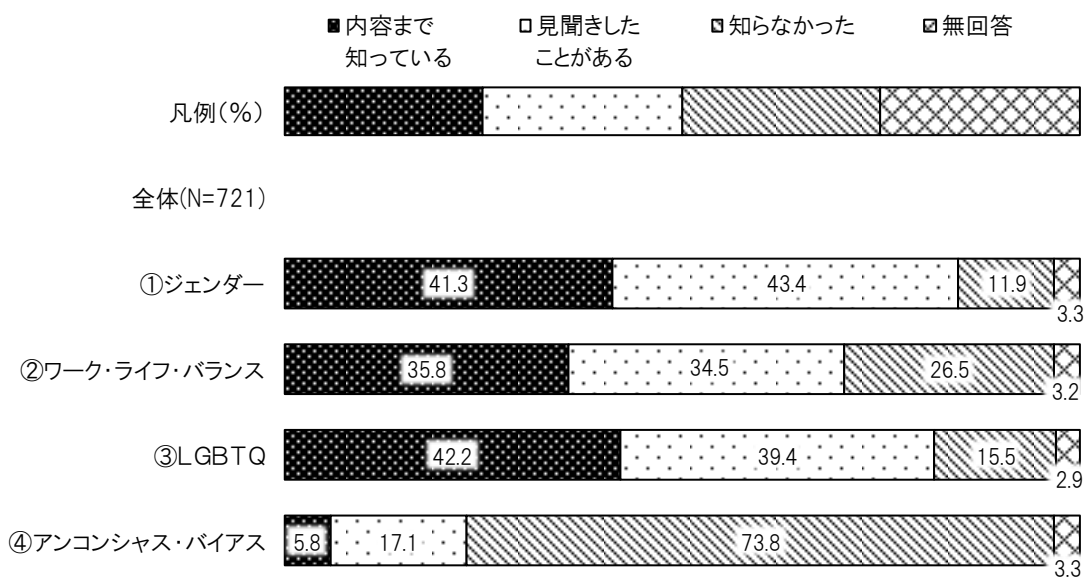
## 【5】男女共同参画の取組について

### 1 用語の認知状況

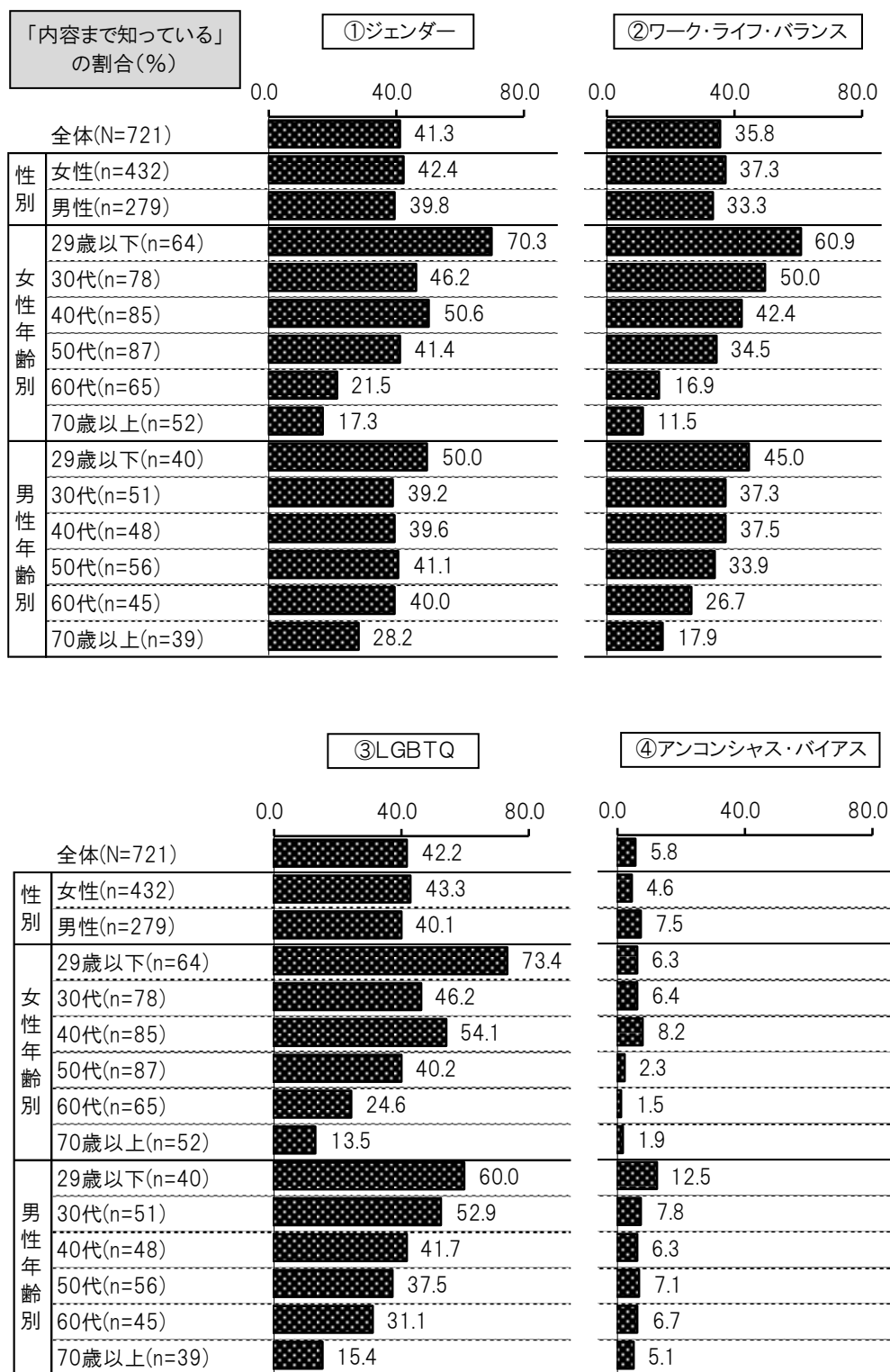
問 33 あなたは、次の用語の意味を知っていますか。（○印1つずつ）

用語の認知状況については、「内容まで知っている」の割合が高い順に、「③LGBTQ」（42.2%）、「①ジェンダー」（41.3%）、「②ワーク・ライフ・バランス」（35.8%）の順となっている。

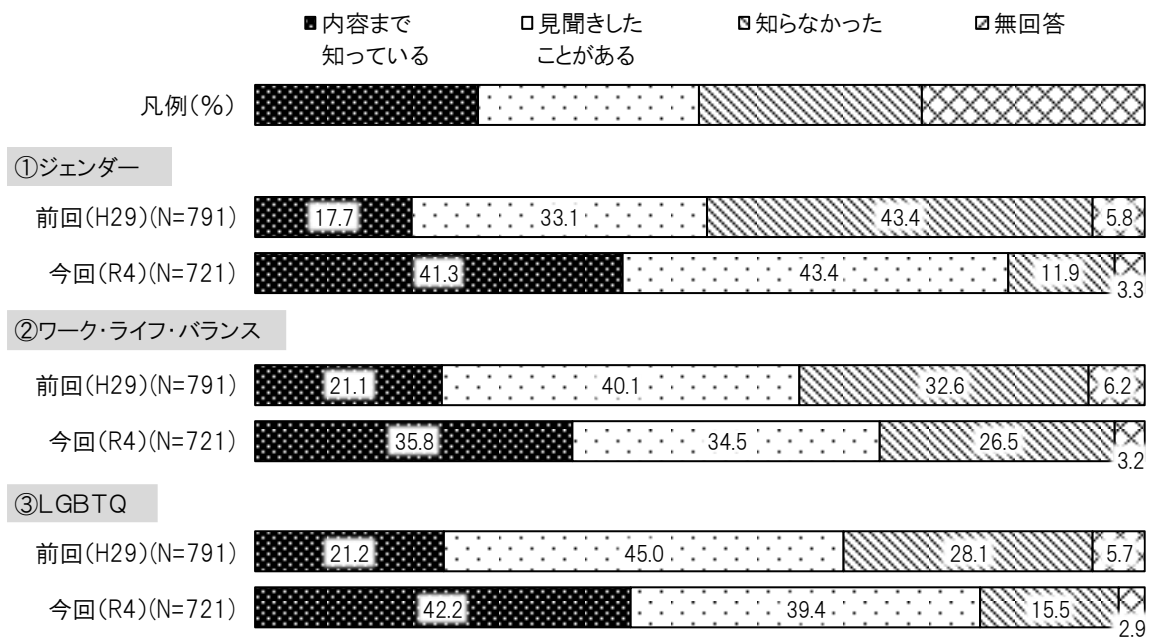
「④アンコンシャス・バイアス」については、「内容まで知っている」が 5.8%、「見聞きしたことがある」が 17.1%、合計で 22.9%となっている。



「内容まで知っている」の割合を属性別で見ると、男女共に29歳以下で「①ジェンダー」の割合が高く、おおむね若い年齢層ほど「②ワーク・ライフ・バランス」「③LGBTQ」の割合が高くなっている。



【参考／時系列推移】





## 2 パートナーシップ宣誓制度の認知状況

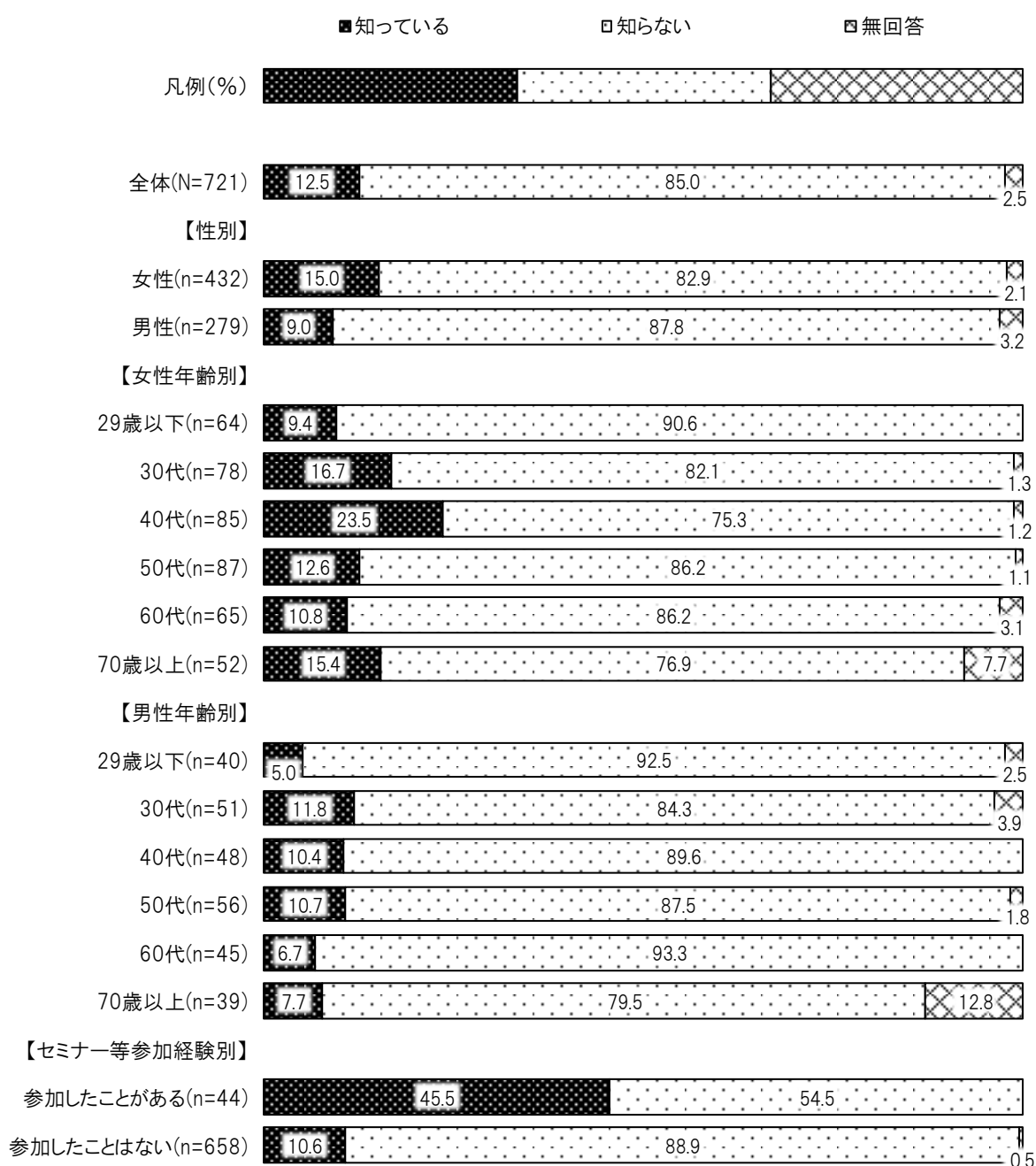
問 34 あなたは、さぬき市が4月1日から「パートナーシップ宣誓制度」を開始したことをご存知ですか。（○印1つ）

パートナーシップ宣誓制度の認知状況については、「知っている」が12.5%、「知らない」が85.0%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「知っている」の割合が高くなっている。

年齢別では、女性の40代で「知っている」の割合が高くなっている。

セミナー等参加経験別（問38）でみると、参加したことがある人は参加したことがない人に比べて「知っている」の割合が高くなっている。



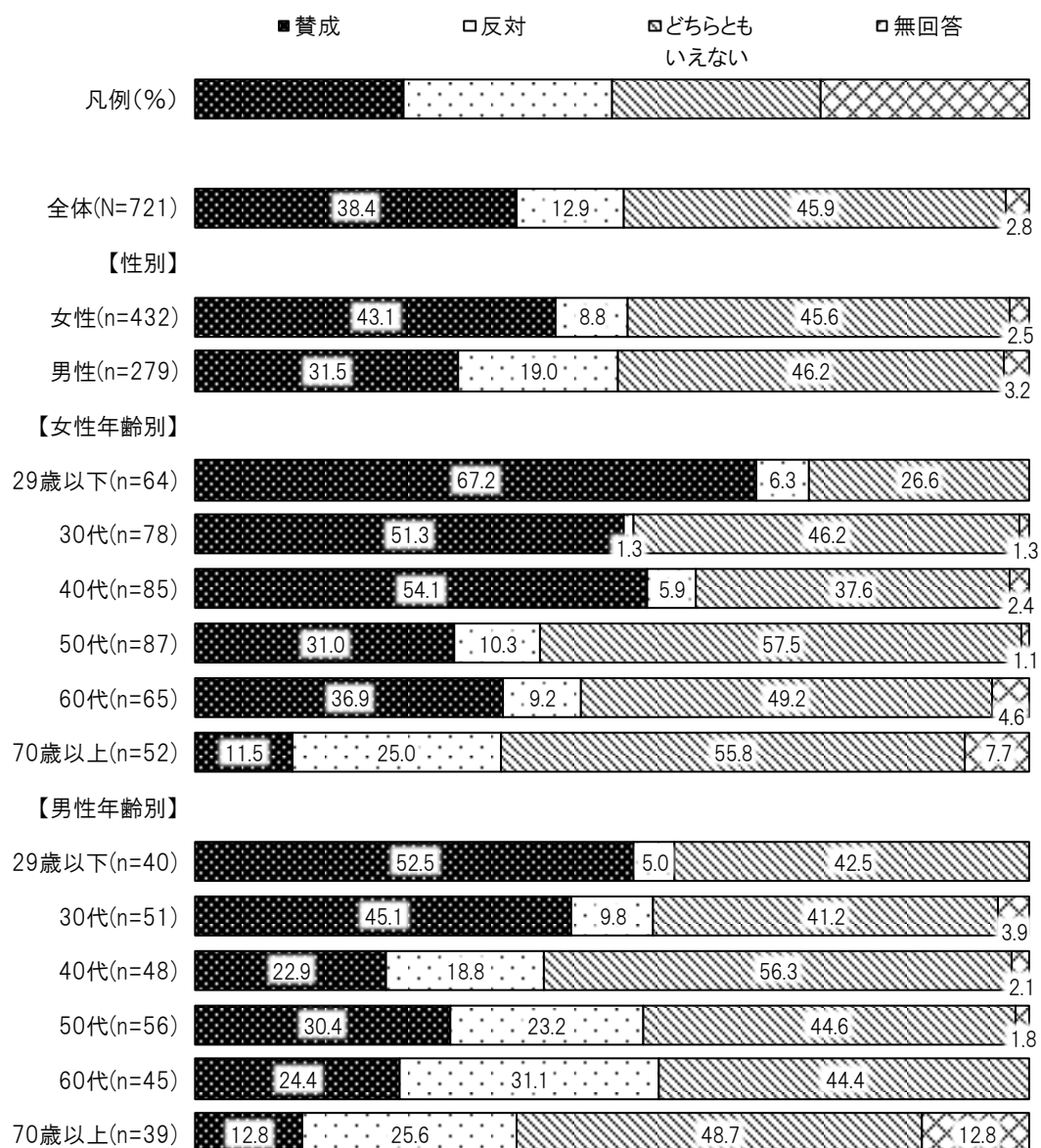
### 3 選択的夫婦別姓（別氏）制度について

問 35 あなたは「選択的夫婦別姓（別氏）制度」に対して、どのように思いますか。法律や制度の規定にかかわらず、あなたご自身のお考えとしてお答えください。  
 (○印1つ)

選択的夫婦別姓（別氏）制度については、「賛成」が38.4%、「反対」が12.9%、「どちらともいえない」が45.9%となっている。

性別では、女性は「賛成」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、男女共におおむね若い年齢層ほど「賛成」の割合が高くなっている。



#### 4 L G B T Q (セクシュアルマイノリティ) に関する課題について

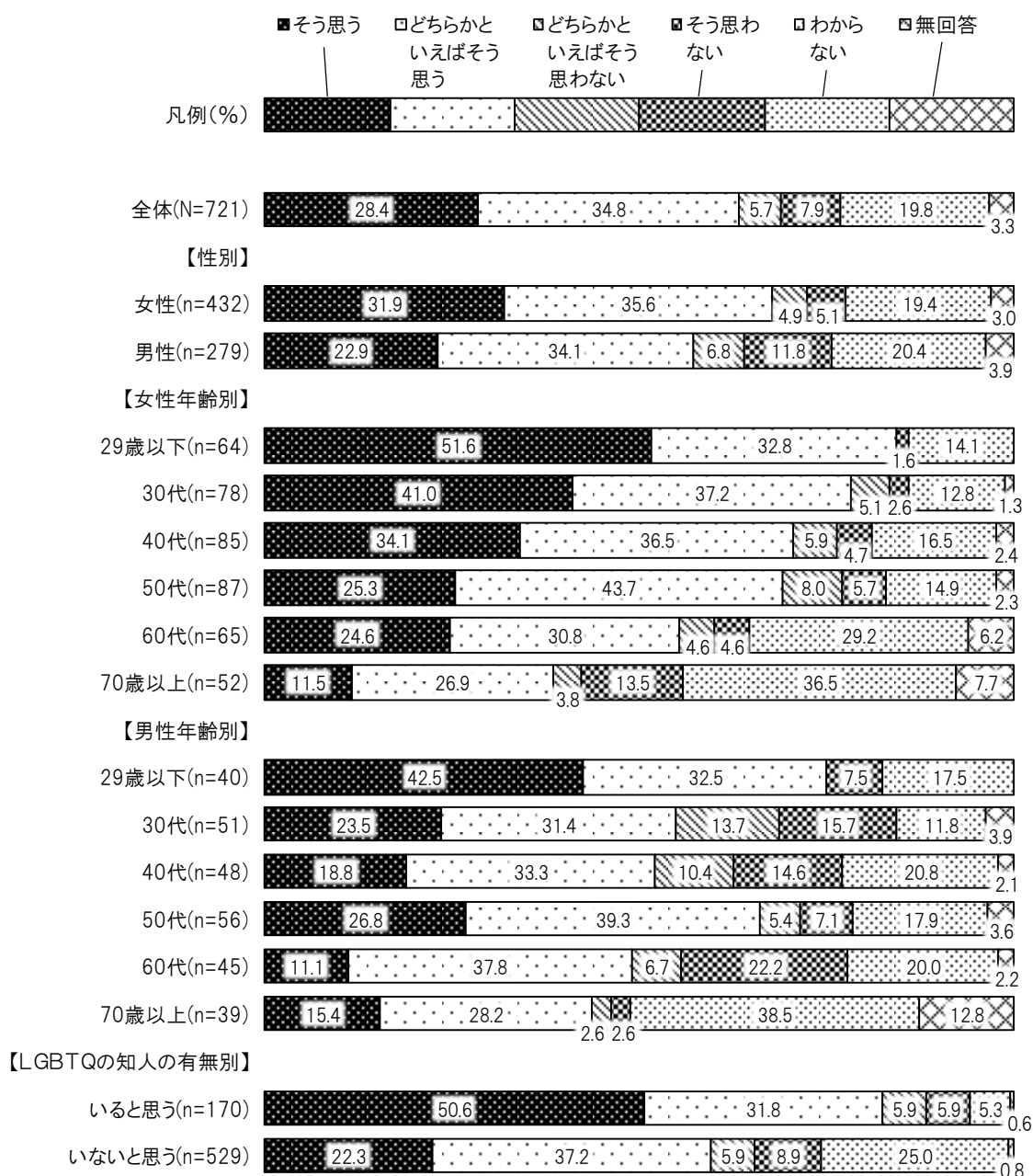
問 36 「世の中ではL G B T Q (セクシュアルマイノリティ) をめぐる問題は、対応すべき社会的な課題になっている」と思いますか。(○印1つ)

L G B T Q (セクシュアルマイノリティ) をめぐる問題は対応すべき社会的な課題になっていると思うことについては、「そう思う」が28.4%、「どちらかといえばそう思う」が34.8%、合計で約6割(63.2%)が『そう思う』と回答している。一方、「どちらかといえばそう思わない」(5.7%)、「そう思わない」(7.9%)の合計は13.6%となっている。

性別では、女性は「そう思う」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、女性は若い年齢層ほど「そう思う」の割合が高くなっている。

L G B T Qの知人の有無別(問37)では、身近にいると思う人はいないと思う人に比べて「そう思う」の割合が高くなっている。



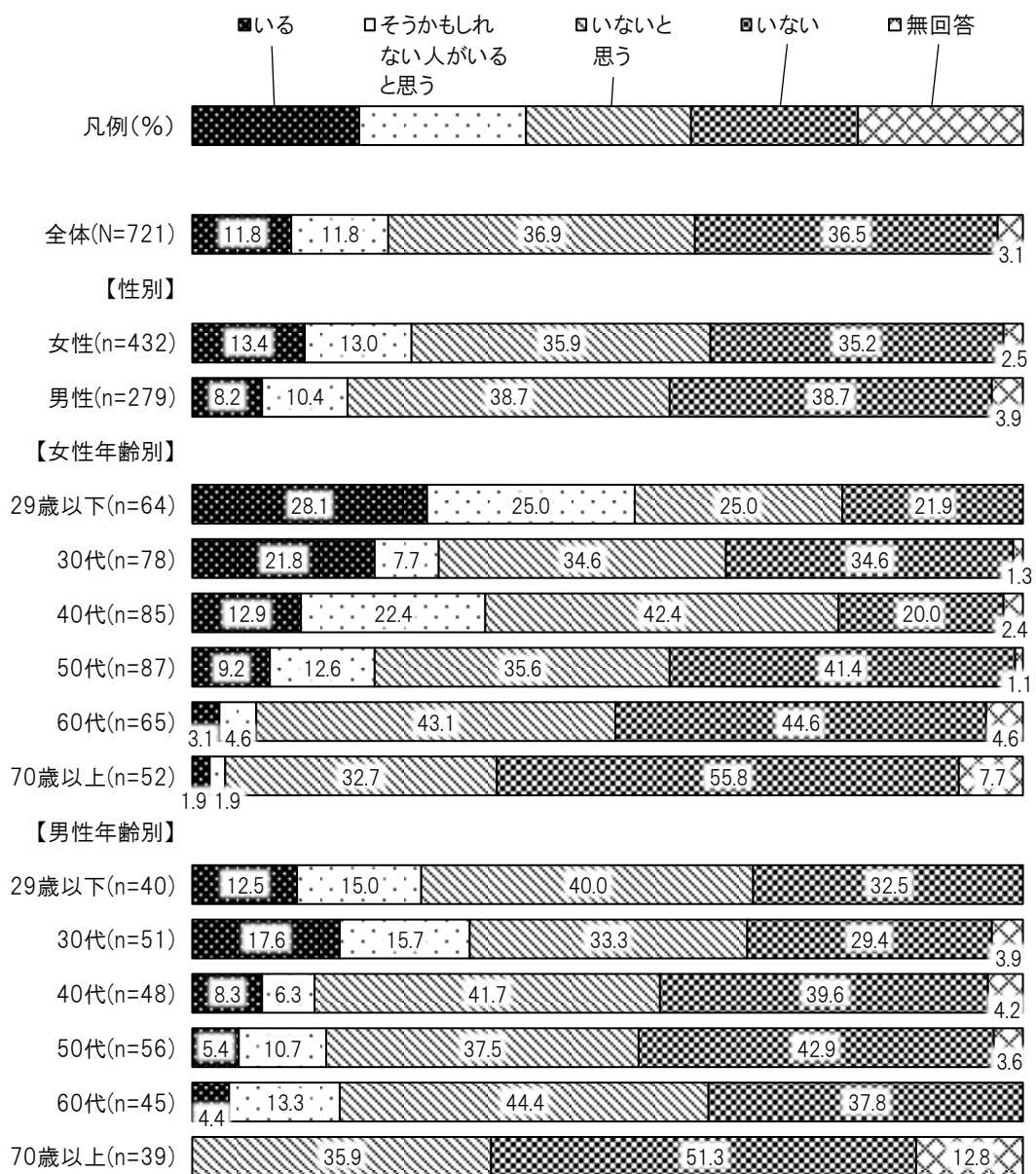
## 5 身近にLGBTQ（セクシュアルマイノリティ）の方がいることについて

問 37 あなたの友人や知人など、身近な人に「LGBTQ（セクシュアルマイノリティ）」の方はいますか。（○印1つ）

身近にLGBTQ（セクシュアルマイノリティ）の方がいることについては、「いる」が11.8%、「そうかもしれない人がいると思う」が11.8%、合計で23.6%が『いる』と回答している。一方、「いないと思う」（36.9%）、「いない」（36.5%）の合計は73.4%となっている。

性別では、女性は男性に比べ『いる（合計）』の割合が高くなっている。

年齢別では、女性は若い年齢層ほど「いる」の割合が高くなっている。



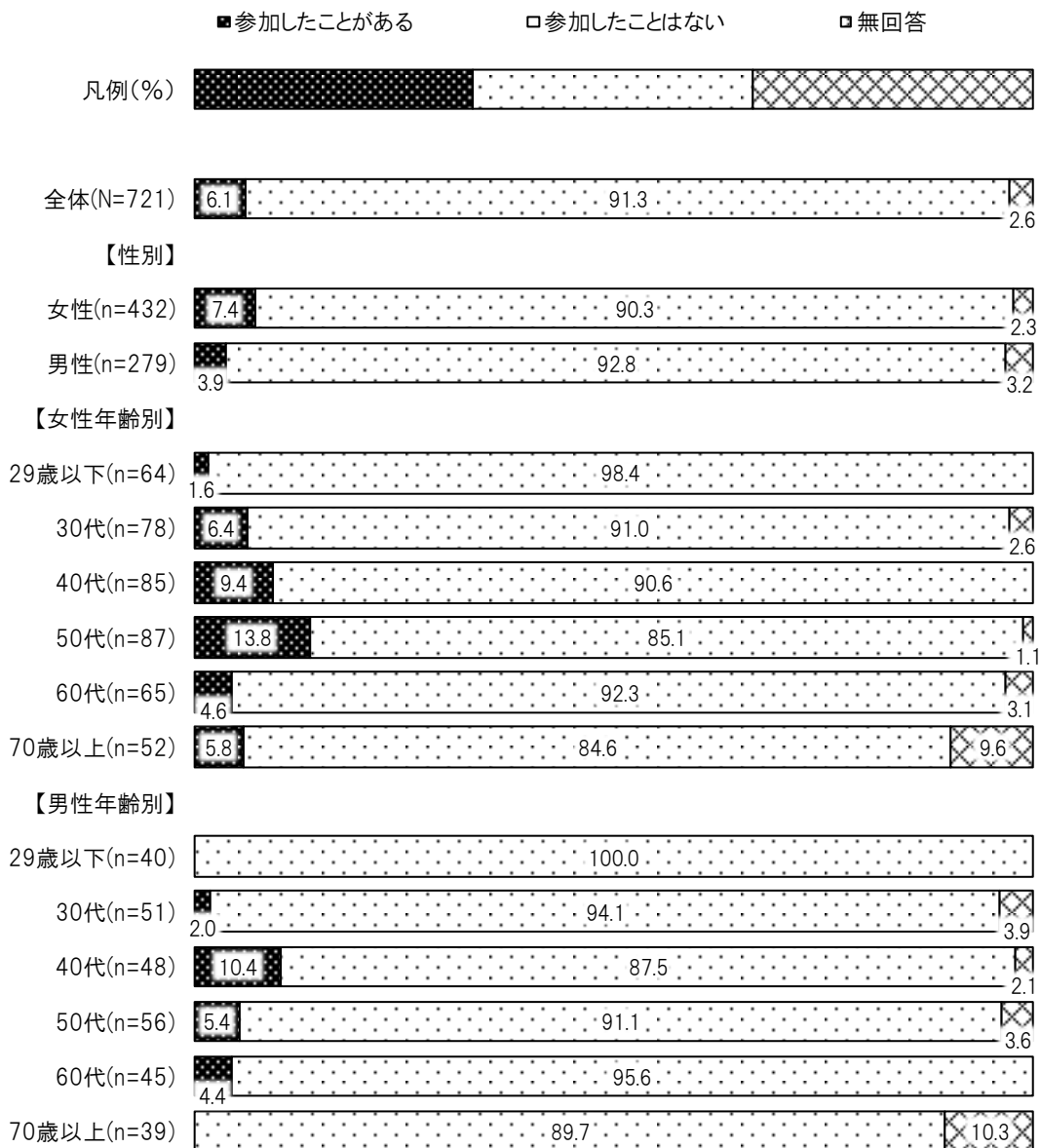
## 6 セミナーやイベント等への参加状況

問 38 あなたは香川県やさぬき市などが開催している、男女共同参画に関連するセミナーやイベント、講座などに参加したことがありますか。(○印1つ)

セミナーやイベント等への参加状況については、「参加したことがある」が6.1%、「参加したことはない」が91.3%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「参加したことがある」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、女性の50代や男性の40代で「参加したことがある」の割合が他の年齢層に比べてやや高くなっている。

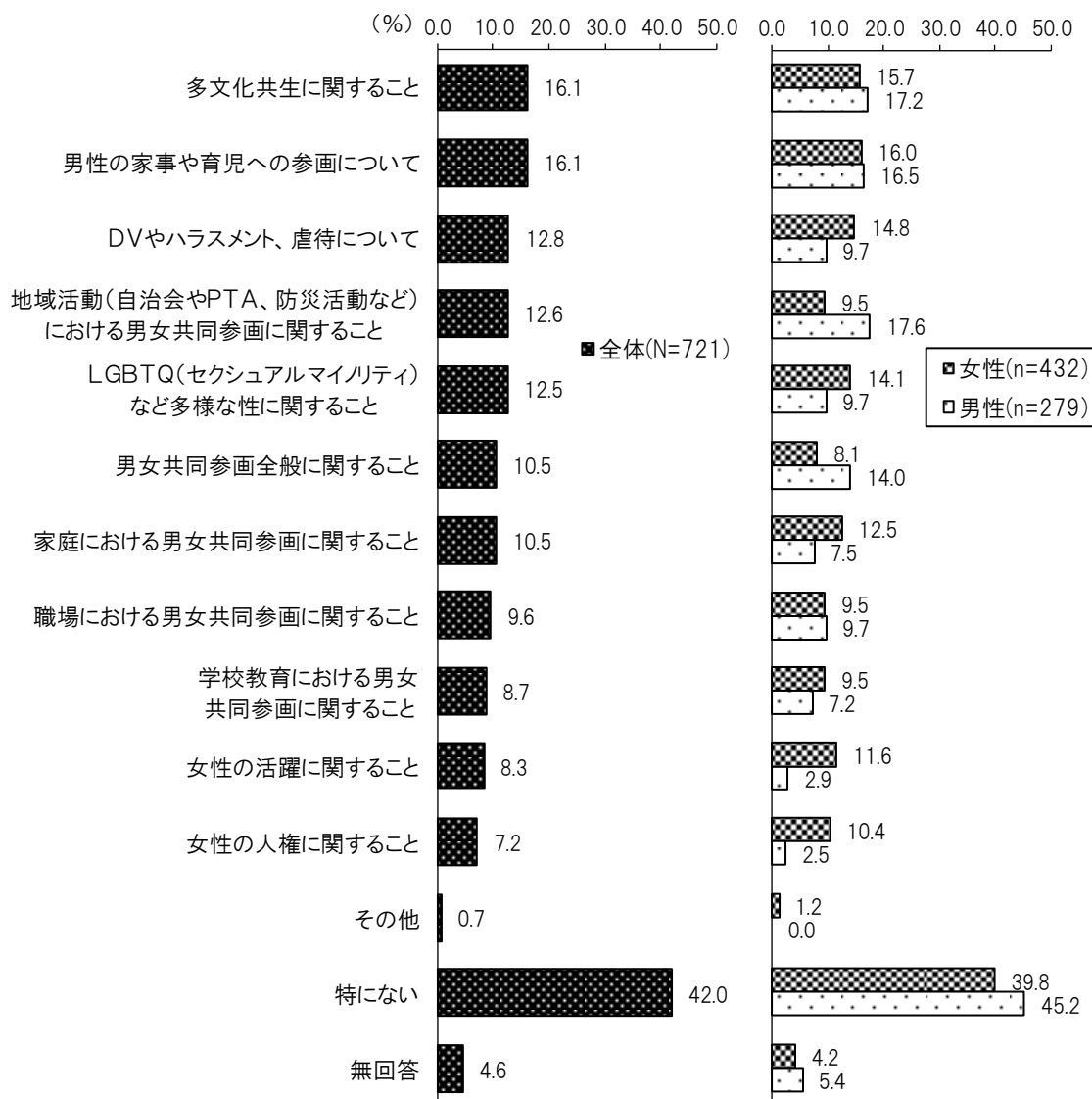


## 7 参加してみたい講座やセミナー

問 39 あなたは、今後、どのような講座やセミナー、催しなどに参加してみたいと思いますか。（○印いくつでも）

参加してみたい講座やセミナーについては、「多文化共生に関すること」「男性の家事や育児への参画について」の割合が16.1%と最も高く、次いで「DVやハラスメント、虐待について」（12.8%）、「地域活動（自治会やPTA、防災活動など）における男女共同参画に関すること」（12.6%）の順となっており、約4割（42.0%）は「特にない」と回答している。

性別では、女性は男性に比べ「女性の活躍に関すること」「女性の人権に関すること」などの割合が高く、男性は「地域活動（自治会やPTA、防災活動など）における男女共同参画に関すること」の割合が女性を上回っている。



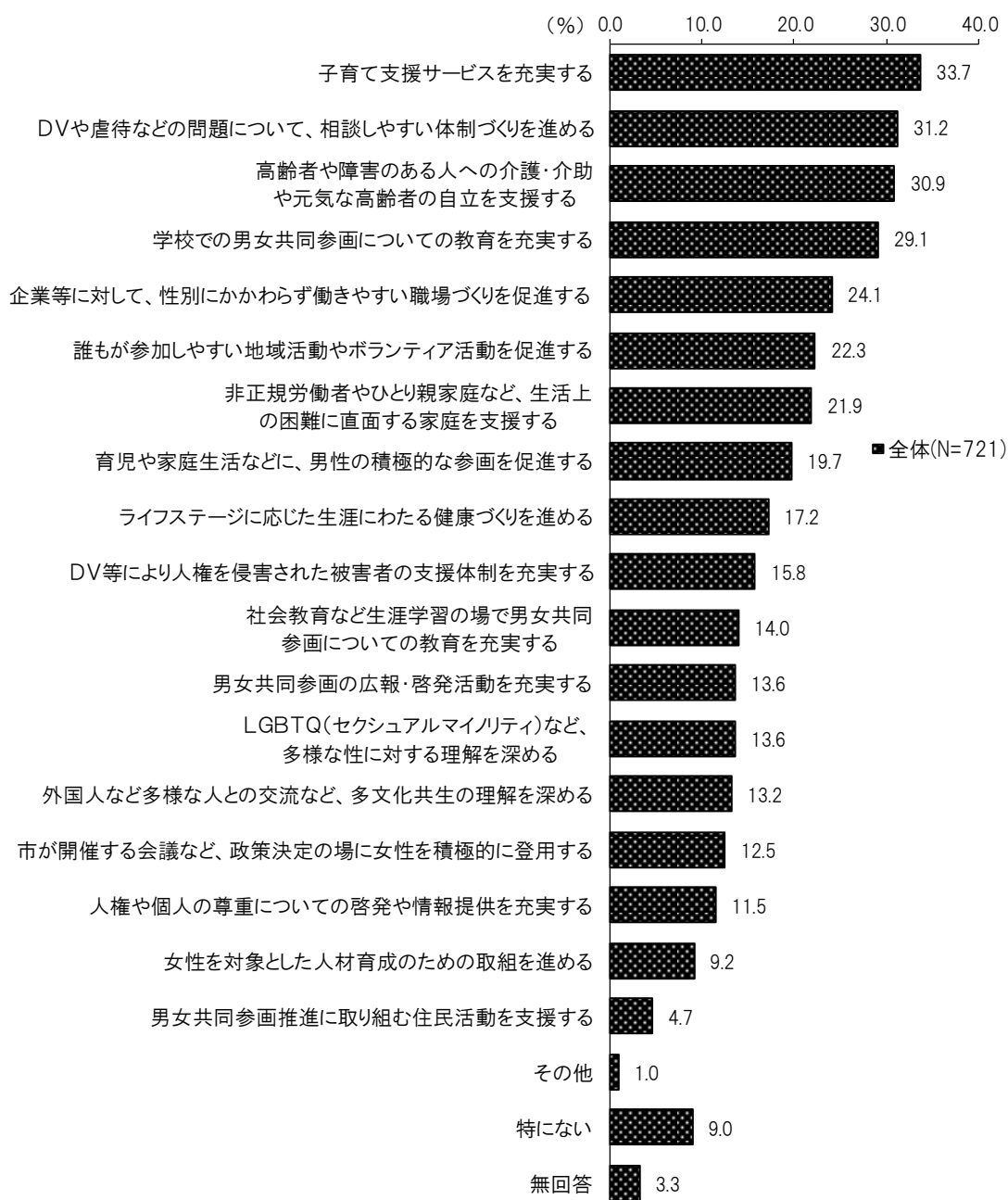
年齢別では、女性の29歳以下で「LGBTQ（セクシュアルマイノリティ）など多様な性に関すること」「職場における男女共同参画に関すること」、女性の30代以下や男性の29歳以下で「男性の家事や育児への参画について」、男性の60代以上で「地域活動（自治会やPTA、防災活動など）における男女共同参画に関すること」の割合がそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	多文化共生に関すること	男性の家事や育児への参画について	DVやハラスメント、虐待について	参画に関すること	地域活動（自治会やPTA、防災活動など）における男女共同参画に関すること	LGBTQ（セクシュアルマイノリティ）など多様な性に関すること	男女共同参画全般に関すること	家庭における男女共同参画に関すること	職場における男女共同参画に関すること	学校教育における男女共同参画に関すること	女性の活躍に関すること	女性の人権に関すること	その他	特になし
全体(N=721)	16.1	16.1	12.8	12.6	12.5	10.5	10.5	9.6	8.7	8.3	7.2	0.7	42.0	
<b>【女性年齢別】</b>														
29歳以下(n=64)	18.8	26.6	21.9	4.7	31.3	9.4	18.8	21.9	14.1	21.9	18.8	1.6	37.5	
30代(n=78)	11.5	26.9	15.4	9.0	15.4	1.3	14.1	10.3	14.1	11.5	10.3	1.3	34.6	
40代(n=85)	20.0	12.9	21.2	9.4	18.8	7.1	9.4	9.4	9.4	4.7	9.4	1.2	43.5	
50代(n=87)	11.5	10.3	11.5	6.9	6.9	13.8	12.6	9.2	8.0	11.5	12.6	1.1	41.4	
60代(n=65)	18.5	6.2	9.2	13.8	10.8	4.6	12.3	1.5	6.2	9.2	7.7	0.0	38.5	
70歳以上(n=52)	15.4	13.5	7.7	15.4	0.0	13.5	7.7	1.9	1.9	13.5	1.9	1.9	44.2	
<b>【男性年齢別】</b>														
29歳以下(n=40)	17.5	27.5	7.5	10.0	12.5	5.0	10.0	2.5	5.0	5.0	5.0	0.0	45.0	
30代(n=51)	19.6	11.8	11.8	5.9	7.8	11.8	7.8	13.7	13.7	5.9	3.9	0.0	51.0	
40代(n=48)	14.6	16.7	4.2	12.5	14.6	10.4	0.0	16.7	6.3	0.0	2.1	0.0	47.9	
50代(n=56)	17.9	16.1	14.3	16.1	10.7	16.1	14.3	16.1	8.9	3.6	1.8	0.0	44.6	
60代(n=45)	20.0	15.6	11.1	35.6	8.9	26.7	6.7	4.4	6.7	2.2	2.2	0.0	42.2	
70歳以上(n=39)	12.8	12.8	7.7	28.2	2.6	12.8	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	

## 8 男女共同参画の推進に市が力を入れるべきこと

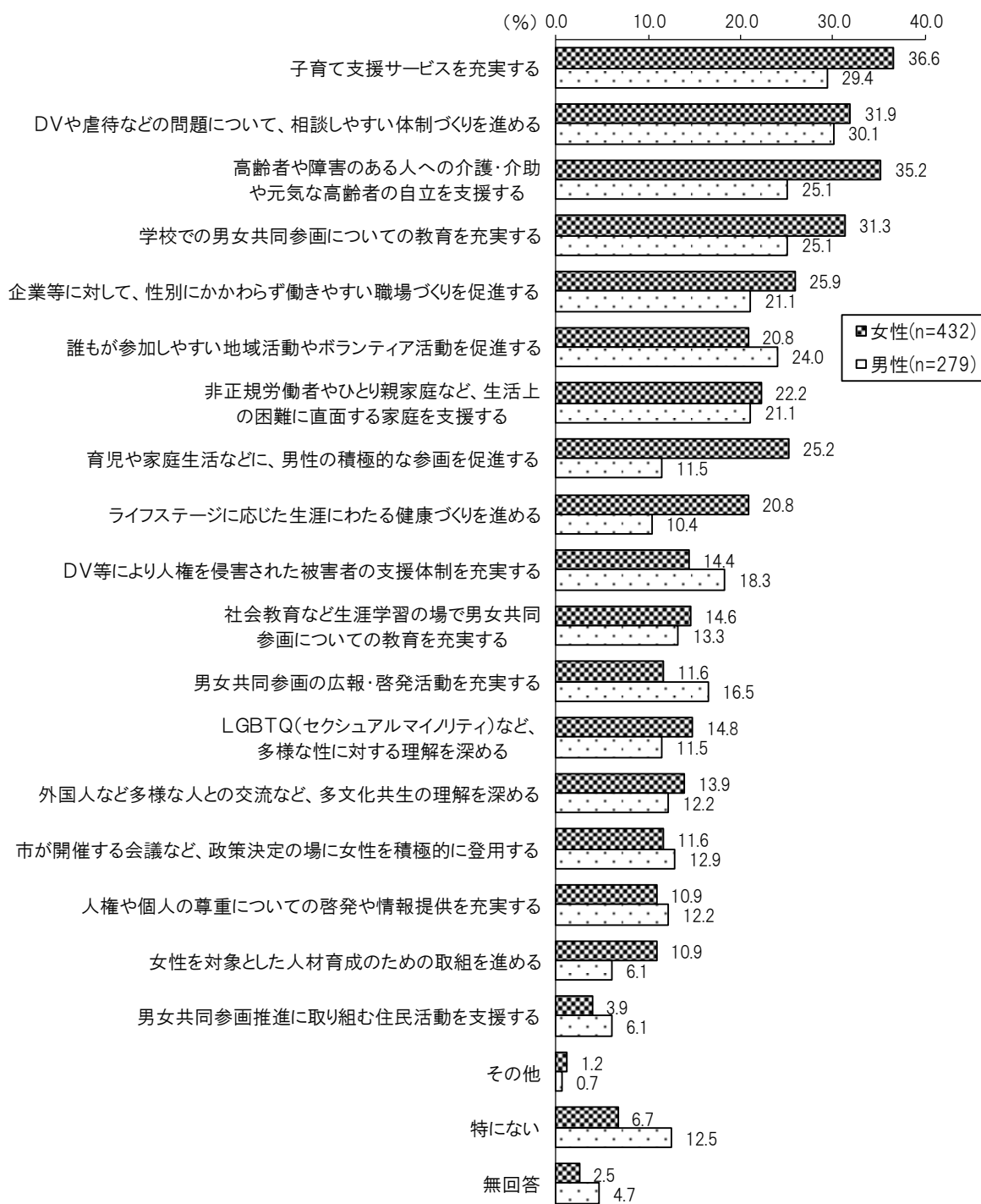
問 40 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、さぬき市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

男女共同参画の推進に市が力を入れるべきことについては、「子育て支援サービスを充実する」の割合が33.7%と最も高く、次いで「DVや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める」（31.2%）、「高齢者や障害のある人への介護・介助や元気な高齢者の自立を支援する」（30.9%）、「学校での男女共同参画についての教育を充実する」（29.1%）の順となっている。





性別では、女性は「高齢者や障害のある人への介護・介助や元気な高齢者の自立を支援する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する」「ライフステージに応じた生涯にわたる健康づくりを進める」などの割合が男性を大きく上回っている。



女性の年齢別では、30代以下で「子育て支援サービスを充実する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する」、50代で「ライフステージに応じた生涯にわたる健康づくりを進める」、70歳以上で「誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。

単位 (%)	子育て支援サービスを充実	DVや虐待などの問題につ	DVや虐待などの問題につ	介護・介助や元高年齢者の	高年齢者や障害のある人への	学校の教育を充実する	学校での男女共同参画につ	くわを促進する	企業等に対して、性別にか	進めを促進する	誰もが参加しやすい地域活	面する家庭を支援する	庭など、生活の困難に親	非正規労働者やひとり親	性の積極的な参画を促進す	育児や家庭生活などに、男	育児や家庭生活などに、男	性児や家庭生活などに、男	めらにわたる健康づくりを	ライフステージに応じた生	実了被害者により人権を侵害	れた被害者により人権を侵害	DV等により人権を侵害さ
全体(N=721)	33.7	31.2	30.9	29.1	24.1	22.3	21.9	18.8	37.5	15.6	17.2	21.9	18.5	9.2	16.9	10.8	10.3	17.2	15.6	17.2	15.8	17.2	15.8
【女性年齢別】																							
29歳以下(n=64)	51.6	29.7	17.2	32.8	21.9	15.6	18.8	37.5	15.6	17.2	21.9	18.8	37.5	15.6	17.2	21.9	18.8	37.5	15.6	17.2	15.8	17.2	15.8
30代(n=78)	59.0	28.2	23.1	34.6	28.2	12.8	20.5	38.5	20.5	10.3	28.2	20.5	18.5	9.2	16.9	10.8	10.3	17.2	15.6	17.2	15.8	17.2	15.8
40代(n=85)	34.1	37.6	40.0	36.5	31.8	17.6	23.5	27.1	17.6	24.7	34.1	23.5	18.5	9.2	16.9	10.8	24.7	17.6	17.6	24.7	15.8	24.7	15.8
50代(n=87)	27.6	32.2	42.5	31.0	26.4	20.7	25.3	20.7	32.2	14.9	27.6	25.3	18.5	9.2	16.9	10.8	14.9	20.7	32.2	14.9	15.8	14.9	15.8
60代(n=65)	27.7	36.9	43.1	26.2	27.7	27.7	18.5	9.2	16.9	10.8	27.7	18.5	18.5	9.2	16.9	10.8	10.8	27.7	16.9	10.8	15.8	10.8	15.8
70歳以上(n=52)	13.5	25.0	46.2	23.1	13.5	36.5	25.0	15.4	19.2	3.8	13.5	25.0	18.5	9.2	16.9	10.8	3.8	19.2	19.2	3.8	15.8	3.8	15.8

単位 (%)	教育を充実する	社会教育など生涯学習の場	活動充実する	男女共同参画の広報・啓発	マイノリティ（セクシュアル	LGBTQ（セクシュアル	を深める	外国人など多様な人との交	に登用する	策定の場に女性を積極的	市が開催する会議など、政	の啓発や個人情報の提供を充	の女性を対象とした人材育成	む住民活動を支援する	男女共同参画推進に取り組	その他	特	に	ない			
全体(N=721)	14.0	13.6	13.6	13.2	12.5	11.5	9.2	4.7	1.0	9.0	14.0	13.6	13.6	13.2	12.5	11.5	9.2	4.7	1.0	9.0	9.0	9.0
【女性年齢別】																						
29歳以下(n=64)	14.1	10.9	25.0	21.9	12.5	10.9	9.4	6.3	3.1	6.3	14.1	10.9	25.0	21.9	12.5	10.9	9.4	6.3	3.1	6.3	9.0	6.3
30代(n=78)	17.9	10.3	19.2	16.7	12.8	9.0	16.7	5.1	1.3	3.8	17.9	10.3	19.2	16.7	12.8	9.0	16.7	5.1	1.3	3.8	9.0	3.8
40代(n=85)	14.1	4.7	22.4	17.6	10.6	5.9	9.4	3.5	1.2	5.9	14.1	4.7	22.4	17.6	10.6	5.9	9.4	3.5	1.2	5.9	9.0	5.9
50代(n=87)	14.9	12.6	10.3	10.3	11.5	10.3	11.5	3.4	0.0	9.2	14.9	12.6	10.3	10.3	11.5	10.3	11.5	3.4	0.0	9.2	9.0	9.2
60代(n=65)	12.3	16.9	4.6	12.3	13.8	16.9	10.8	3.1	0.0	4.6	12.3	16.9	4.6	12.3	13.8	16.9	10.8	3.1	0.0	4.6	9.0	4.6
70歳以上(n=52)	13.5	17.3	3.8	1.9	7.7	15.4	5.8	1.9	1.9	11.5	13.5	17.3	3.8	1.9	7.7	15.4	5.8	1.9	1.9	11.5	9.0	11.5

男性の年齢別では、30代以下で「子育て支援サービスを充実する」、30～40代で「非正規労働者やひとり親家庭など、生活上の困難に直面する家庭を支援する」、50代で「DV等により人権を侵害された被害者の支援体制を充実する」の割合がそれぞれ高く、おおむね年齢が上がるほど「高齢者や障害のある人への介護・介助や元気な高齢者の自立を支援する」の割合が高くなっている。

単位 (%)	子育て支援サービスを充実	DVや虐待などの問題に	介護者や障害のある高齢者の自立を支援する	学校での男女共同参画につ	企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場につ	誰もが参加しやすい活動を促	非正規労働者やひとり親家庭など、生活上の困難に直	性の積極的な参画を促進す	育児や家庭生活などに、男	ライフスタイルに合った健康づくりに進	DV等により人権を侵害された被害者の支援体制を充
全体(N=721)	33.7	31.2	30.9	29.1	24.1	22.3	21.9	19.7	17.2	15.8	
【男性年齢別】											
29歳以下(n=40)	42.5	27.5	7.5	22.5	27.5	22.5	20.0	25.0	10.0	17.5	
30代(n=51)	41.2	31.4	13.7	27.5	23.5	21.6	25.5	13.7	7.8	15.7	
40代(n=48)	27.1	18.8	25.0	18.8	22.9	27.1	27.1	12.5	8.3	10.4	
50代(n=56)	21.4	37.5	23.2	30.4	17.9	21.4	16.1	10.7	12.5	30.4	
60代(n=45)	15.6	35.6	37.8	24.4	22.2	31.1	20.0	4.4	11.1	15.6	
70歳以上(n=39)	30.8	28.2	46.2	25.6	12.8	20.5	17.9	2.6	12.8	17.9	

単位 (%)	教育を充実する	社会教育など生涯学習の場	男女共同参画の広報・啓発	LGBTQ(セクシュアルマイノリティ)など、多様な性に対する理解を深める	外国人など多様な人との交流を深める	市が主催する会議など、政策的に活用する	人権や個人情報の尊重を充実す	女性の対象とした人材育成	男女共同参画推進に取り組	その他	特にな
全体(N=721)	14.0	13.6	13.6	13.2	12.5	11.5	9.2	4.7	1.0	9.0	
【男性年齢別】											
29歳以下(n=40)	7.5	12.5	17.5	15.0	7.5	10.0	7.5	2.5	0.0	15.0	
30代(n=51)	9.8	11.8	7.8	13.7	7.8	15.7	3.9	5.9	2.0	11.8	
40代(n=48)	12.5	14.6	8.3	10.4	18.8	6.3	4.2	6.3	2.1	18.8	
50代(n=56)	17.9	14.3	14.3	10.7	10.7	8.9	7.1	10.7	0.0	8.9	
60代(n=45)	17.8	22.2	13.3	17.8	17.8	17.8	11.1	6.7	0.0	13.3	
70歳以上(n=39)	12.8	25.6	7.7	5.1	15.4	15.4	2.6	2.6	0.0	7.7	

## 【6】自由記述回答集約結果

問 41 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでも自由にお書きください。

男女共同参画について、意見・要望等を自由記述方式で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、掲載にあたり、誤字等一部修正を行っている。

### 1 人権尊重の意識づくりについて

- ・男女共同参画についての取組内容を市民に訴求するために、広報誌やケーブル、SNS 広告を活用していただけると、より市民の意識が強まると思います。(女性 29 歳以下)
- ・今回このようなアンケートで、市の男女共同参画に対して改めて認識したところもあるので、積極的に発信してくださればと思いました。(女性 29 歳以下)
- ・ファミリーシップを導入してほしい。40～50 代、それ以上へのジェンダー教育を実施してほしい。(性別不明、29 歳以下)
- ・さぬき市が男女共同参画について、どのような取組をしているか知らない。広報か何かで発信されているのですか？(女性 30 代)
- ・例えば、さぬき市が4月1日～パートナーシップ宣誓制度を開始したことを今回のアンケートで知りましたが、セミナー等に関心がある人しか見ない、忙しい人は見ないので、市の広報などで同様に紹介してはいかがでしょうか。(すでにしていたら、すみません…。)もう少し三豊市のようにメディアを活用したり、市が様々な取組をしているのであれば、それを対外的にPRしてみてもはいかがでしょうか。人口が減少すると、市の財源ダウン、同時にサービスも下がると思いますので。(女性 30 代)
- ・さぬき市の取組について、知らないことが多々あった。素晴らしい取組が行われているとしても、知らないという意味がないと思うので、情報に触れやすくなれば良いと思う。必要だと思う人が調べなければ分からないというのはとてももったいないのではないかと。(女性 40 代)
- ・金銭、時間など生活に余裕がないと男女共同参画について考えることや、様々な企画などに参加すること自体が難しいのではないかと。この問題が大切な問題というのは理解できるが、行政としての取り組み方そのものに温度差があるような気がする。(男性 40 代)
- ・普段あまり考えたことがなかったので、知る機会、考える機会がもっとあればいいと思いました。(男性 40 代)
- ・男女共同参画について、さぬき市がどういう活動をしているのか、よく分かりません。もっと広報、啓発活動を充実し、市民の多くの方が興味を示し、納得のいく活動をしてもらいたいです。(女性 50 代)

## 2 男女共同参画の意識づくりについて

- ・男女共同参画社会とは、男性女性が共に平等に豊かに過ごせる社会づくりだと思っている。20代の意見です。男性はこうでなければならぬ、女性はこうでなければならぬという固定観念、既成概念にとらわれず、これまで以上に女性の管理職や女性経営者、また男性も育児や家事を女性任せにせず、誰もが助け合い無差別な社会づくりが重要であると考えている。女性が働き、男性が主夫をするケースもあるが、男女共同参画社会は固定観念や先入観が阻害して上手く浸透していないから、男性、女性や固定観念、先入観、いろいろな垣根を取り払い、男女共に対等に暮らせる社会の実現を目指すことを第一に考える。固定観念、先入観をなくす、男性も育児や家事をする。産後も復職しやすい制度。マタニティハラスメントのない社会。それらを良い意味、偏見なく当たり前の意味として認め、容認するような社会やシステム制度を考えることが必要である。平等な社会になることで、少子化問題も今よりかは改善され、いろいろな社会への視野も広がり、より豊かに過ごせると思います。(女性 29 歳以下)
- ・正直なところ、男女平等の施策は進んでいると思っています。逆に、「無責任」にあらゆる施策を盾に、ゆとりのある生活を選ぶことに危機感を感じます。他の人に迷惑をかけない、あるいは、かけることに申し訳なさを感じるならまだしも、例えば男性自身が育児休暇を取れて当たり前と構えるのは間違っていると思うのです。お互いが支え合う社会だからこそ、施策も大事ですが、それ以前に「感謝」「思いやり」といった根本的なところをどうにかすべきです。(道徳に該当しますかね。) 今後も、さぬき市の発展をどうぞよろしくお願いします。(女性 29 歳以下)
- ・男女共同参画社会は「男女がお互いに尊重し合い、職場、学校、家庭、地域などの社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し喜びや責任を分かち合うことができる社会」ですが、やはり実現するには難しいと考えます。これを社会に実現するには男女問わず「理解」することが必要です。LGBTやDV、家事育児は女性の仕事、表向きは普通の企業でも本当はブラック企業だったり、女性というだけで昇進や、昇進したことを悪く言われたり……。私はいつも被害を受けるのは女性が多いと感じます。(男性が被害を受けていないとは限りません。) どちらが被害を受けたにしろ、それに対応する社会は詰めを甘くするべきでは決してないと思います。(女性 29 歳以下)
- ・パートナーシップ制度だけでは、同性カップルの方は異性カップルの方と同じ立場に立ったとはいえません。大阪地裁では同性婚を認めないことは「合憲」ということになってしまいましたが、さぬき市がより豊かで全員にとって住みやすい地域であるためにはのりしかないのです、このビッグウェーブ(同性婚を認める動き)に！先駆けてアクションを起こすことで、さぬき市の話題性、人口の社会増加率は、上昇すること間違いなしです。エキセントリック発明家、平賀源内を生んだ、このさぬき市の行動力を見せつけてやりましょう！と、まあ熱く語ってしまい、数年後、もしこれを私が見直したら、きっと恥ずかしさで赤面するでしょうが、それほど私のかける思いは熱いのです。～近いうちに「さぬき市出身です」と胸を張って言えるような未来を目指して～(女性 29 歳以下)
- ・差別をする必要はないと思うが、LGBTQを認めると、少子化が加速すると思う。(男性 29 歳以下)

- ・男女平等の考えは少し違う気もしています。というのも身体の特性や本来持っている性質的に、男性にしかできないことや女性のほうが得意なことなどがあるからです。お互いの特性を理解しつつ、できないことは補いつつ、共存していれば一番良いように思います。（女性 30 代）
- ・性差というのは確実に存在するため、男女を完全に同一視できないのは当然と言えます。その中で何を以て「平等である」とするのか、個人の価値観によって大きく異なるのだと思っています。今の世の中は、平等であることを目指していて、それ自体は意義のあることだと思います。ただ、これが極端に行き過ぎると、“平等”につながることであれば、どんな偏った意見や現実性を欠く主張であっても、“平等”の大義名分のもと採用され、ある意味公共の福祉に反することにもなりかねません。上記のとおり、個人の価値観によって平等の基準も異なる以上、完璧を目指すのではなく、おおむね合理的かつ現実的なレベルで男女共同参画社会が実現できていれば、それで充分なのだと思います。（男性 30 代）
- ・男女の格差は少しずつ改善されていると思うが、まだ男女よっての差別があると思うので、もっと男女共同参画を積極的に進めていく必要があると思う。（男性 30 代）
- ・「なぜ今さら“男女”だけ？」と感じました。自身は精神障害（ですが、私は「定型発達の方よりも少しだけ苦勞や苦手面の多い人」ととらえています。障害の有無にかかわらず、悩みや苦悩のない人なんていないから。）で、週一で診療内科で S S T（ソーシャルスキルトレーニング）を受けています。5年です。「ノーマライゼーション」は初期には、バリアフリーやユニバーサルデザインなど「高齢者」や「障害者」に特化していましたが、最近では、男女はもちろん定型発達であるか否かにかかわらず、「全ての人が快適に暮らしやすい世界を皆が互いに歩みより、支え合っていこう」そんな世界を目指そうという考えに変わってきています。男女とか L G B T とか、カテゴライズせず、皆で協力し合って自分らしく生きていける、それ位大きく考えていただきたいです。「人権」推進課と名がつくのなら。WHOで日本は G 7 の中であらゆる差別に対する意識が一番低いとバカにされているのは当然ご存知ですよ。少しずつでも、1歩ずつでも変わってほしいです。（女性 40 代）
- ・男女共同参画は、ひと昔前と比べると、進歩していると思います。（女性 40 代）
- ・DVや男女の格差（賃金）など皆が平等であってほしいです。高齢者や障害のある人もない人も配慮ができるように。（女性 50 代）
- ・生まれ持った男性、女性、それぞれの良さがあると思うので、その特性を生かした上での、男女の協力があれば良いと思う。（女性 50 代）
- ・規則を決める側に L G B T の女性を増やしてほしい。男の人たちだけ決定権を持っているからの外的な企画が多いと思う。（女性 50 代）
- ・L G B T Q についても、必要以上に取り組む必要などない。差別されることに関しては措置を設けていいと思われる。（男性 50 代）
- ・女性＝弱者といった発想の元、企画を立てること自体が、解決の道から外れていると思う。各々の役割分担を理解し合うことが大事だと思う。（男性 50 代）

- ・肉体的、精神的に差異があることは仕方ないが、環境整備において解決できることは多く存在するはず。一つずつでも進めていきましょう。（男性 50 代）
- ・そもそも書類などに、男女の記入があることが共同ではないと思います。性別、年齢問わず、間口を広くして参加しやすくすると良いと思います。そうして、個々に相手を思い、向き合うと良いと思います。（女性 60 代）
- ・日本の国そのものが「男社会」のままである。いくら政治家たちが声を「大」にして「共同、共同」と叫んでいても、しょせん「上っ面」の話。根底がひっくり返りでもしない限り、オオカミの遠吠えでしかない。（女性 60 代）
- ・パートナーシップ宣誓制度について、知らなかったことが恥ずかしい。市としては、積極的に周知されたとは思いますが。（男性 60 代）
- ・自分だけでなく、正しく考えられるように、生きたいと思います。（女性 70 歳以上）
- ・男とか女とかでなく、一人の人間として見て、生きていきたい。（女性 70 歳以上）

### 3 男女平等の視点に立った教育の推進について

- ・学校で子どもに何か（体調不良など）あったときなど、連絡が来るのは母の場合が多い。共働きでも、母に連絡がいくのが普通というイメージがある。母も父も同じように仕事をしているはずなのに…と思う。母ばかりに負担が増えないようにする必要がありそう。（女性 29 歳以下）
- ・子どものうちから意識づけることが必要だと思います。宿題だったり、調べたことを発表させる授業をするといった工夫がいるのかもしれませんが。（男性 29 歳以下）
- ・教育の充実により、今後男女共同参画の意識度は高くなって来るとされる。（時代の推移と共に。）（男性 30 代）
- ・歳を重ねた方にも常識は変わってしまったのだとしっかり理解していただきたい。特に男の子だと特別扱いされて育ち、そのことが当たり前だと信じ、真実に気付かないまま大人になり、自分本意な結婚生活や子育て支援無参加でも何も感じてこなかった男性。また、女性は結婚、出産が当たり前で、そうできない人は駄目だと決めつける世代の方。学校教育の場が一番男女にこだわるため、教員等の教育もするべき。特に服装や髪型等の生活指導は学校教育がすることではない。きちんとした性教育が男女共同参画の基礎になると思う。（女性 40 代）
- ・一人一人の個性を認める教育。（女性 50 代）

### 4 生涯学習を活用した啓発の推進について

- ・講座やセミナーを開催しても、興味や関心を持たない人もいるため、社会全体の男女共同参画の実現は難しいと感じる。（女性 29 歳以下）
- ・平日勤務をしている者でも参加できる夜に、セミナーを開いたりしてください。（女性 50 代）
- ・あまり聞きなれない言葉が多く、もっと学習しなくてはと思いました。（女性 60 代）

## 5 市政等への多様な意見の反映について

- ・市議さんは男性が多いので、若い女性議員や男性議員が増えるといいなと思います。（女性 40 代）
- ・現役世代が参加できるように！（女性 70 歳以上）

## 6 事業所等における女性活躍推進の支援について

- ・以前、さぬき市で働いていました。上司のパワハラがひどく毎日悩んでいました。サービス残業も、毎日のようにしていました。周りの人に相談できず、精神的に病んで会社をやめました。相談窓口をもっと充実してほしいです。（女性 30 代）
- ・まずは、市役所で働いている非正規雇用の女性スタッフの待遇改善から取り組むべきです。アンケートを送ってくる市民部は男女共同参画できていますか？まだまだ男性が優遇されているのでは？行政が率先して行わない限り、民間も意識が変わることはありません。（男性 40 代）
- ・間違っても、男女の構成比率などで社会参加率を検討しないでほしい。数合わせのために無能な人を無理に採用することになる。（男性 50 代）
- ・職場等では男女の比率は関係なく、知識、能力、モチベーションで処遇されるのが重要と思う。考課者の公平性、スキルが必要。（男性 60 代）
- ・私の職場では、女性の能力の低さが問題。女性だから参画させれば良いという姿勢ではなく、もっと能力の向上を図らなければならないと思う。（男性 60 代）
- ・男女共同参画、特に地方は、女性の参画が進んでいない。キャリア形成支援、仕事と生活（調和）、当たり前。「さぬき市」から全国へ、発信してくださいよ！！（男性 60 代）

## 7 働きやすい職場環境づくりについて

- ・「男性は外で仕事、女性は家事・育児」という考え方がしみついていて、男性は育児を理由に会社を休めない雰囲気がありますし、女性は育児（子どもの体調不良）で休まざるを得ない場合、会社に対して申し訳ない気持ちがあります。何度も続いたらなおさらで、それがストレス。会社側は「ゆっくり休んで下さい」と言うけれど、申し訳ない気持ちはなくなりませんし、子どもがいたらゆっくり休むことができないと思います。育児で急に休むことになっても、後ろめたさが残らないような仕組みが何かあればなあと、周りの女性を見て思います。また、今の子育て世代の上司は、昭和の古いお考えの方が多いので理解されない（自分が育児・家事をしてこなかったから）場合が多いのも事実かと思います。（女性 29 歳以下）
- ・今年 4 月に男性の育休制度が新しくなり、育休が取りやすくなったが、まだまだ「男性は外で働く」という意識が根強くあり、女性が育児の大部分を担っているように感じる。私自身、2 月に初めての出産を経験したが、夫は育休を取得することができなかった。職場の上司の理解が得られなかったためである。上の年齢の方々の意識を変えていかなければ、男女が平等に育児、家事をする生活はできないのだと思った。（女性 29 歳以下）
- ・男性の育児休暇が取りやすくなる仕組みをつくってほしい。明石市のように子育て支援が手厚くなると、女性も男性のように働きやすいのではないのか。（女性 29 歳以下）



- ・旦那の会社、コロナワクチン3回目打ってないと、ボーナス減らされた。(女性 30代)
- ・女性はお茶くみ、家庭に入れといった昔風な考え方が日本には多く、男尊女卑を小さい頃から目の当たりにしている部分が多くあります。社会に出てからは特に感じます。同じ仕事をしていても給料に格差があることや、シングルマザーへの偏見も酷いものです。女性しか子どもを出産できないのに、そのせいで会社を辞めなければいけない状況も納得がいきません。だとすれば男性も出産できるべきです。それに男性に家庭があり、子どもが多くいるから給料が上がるのに対して、シングルマザーは働けないから、保育園にしょっちゅう呼び出されるからと給料を下げられたり、そもそも採用されないということが平気で行われていることに怒りを感じています。私は妊娠したとたん嫌な顔をされ、作業もないと言われ、手当て等当然に受けられるはずの申請も、こちらからお願いしないともらえませんでした。海外のように男性だから女性だからはなしにして、個々人のスキルやキャリア、人柄などをちゃんと見てほしいです。(女性 30代)
- ・非正規労働者の増加に伴い、共働きをしなくてはならない環境になっているように感じます。正規労働者で共働きとなると家事、育児の負担は高いです。残業しなくてもよい職場づくりは良いと思います。保育所等の労働環境ではベテラン非正規労働者が若手正規労働者に対しパワハラを起こす割合が高いと聞きました。安易に非正規労働者の待遇を改善するだけでは、正規労働者の精神的、肉体的な負担が増すだけに思います。(男性 30代)
- ・ワーク・ライフ・バランスについて、考え方は浸透したと思うが、相変わらず職業によっては、時間外労働が多い。このような場合、どうしても女性に家事が集中しがちとなり、男性が主な働き手となる傾向があるのではないかと。日本社会の働き方、労働環境が、根本的に変わらない限り、男女共同参画は進まないと思う。(男性 50代)

## 8 仕事と子育て、介護の両立支援について

- ・意識改革のためにまずは市の職員が積極的に育休を取得し、市民のモデルとなってほしい。男性(パパ)の行動が子どもたちに引き継がれ続けていくなら、今から変わるべきだと感じる。「子育てしやすい市」になっていくことを心から願い、私も努力していきたい。(女性 29歳以下)
- ・周りの結婚して子どもを産んだ友達の旦那さんが、全く育児を手伝っている様子がなく、自分の家庭はうまくできているので羨ましがられるが、子どもをつくった責任もあるのに、自分の子どもの育児をしない父親の神経が分からないので、男性の育児に対する熱意を感じられるイベントを開いて、父親全員連れて行ってあげたい。(女性 29歳以下)
- ・今は共働き世帯が増えていますが、それに伴い保育所などに預ける保育者も多くなってきたと思います。疑問に思うことがあるのですが、さぬき市は土曜保育などを利用するときに勤務証明などが必要なのはなぜでしょうか。県内(他の市などは、勤務証明を見せなくても)でも、リフレッシュなどで預けたりできるなどと聞いたりしています。私の場合は、仕事の場合、土曜保育を利用することがありますが、平等でないのかな?と思いましたので書いてみました。(女性 30代)
- ・男性の育休が、確実に取れるようにしてほしい。(女性 30代)

- ・子どもが3人いて、3人目が生まれたとき、4歳、2歳、0歳をワンオペで育てました。主人は仕事が忙しく、毎日残業で出張もあり家におらず、祖父母もまだ若く、仕事をしているので頼るのも難しかったです。我が子を可愛く思えない時間もありました。こんな苦しい思いを他の方もしてほしくないので、男性の育休、育児への参加を積極的に進めてほしいと思います。（女性30代）
- ・男性が育児に積極的に参加できるような仕組みづくりがあれば良いと思います。特に育児で会社を休むなど、男性が休暇を取得するのが難しい状況と思いますが、その状況がますます女性を働きづらくさせている原因だと思います。政治、法では平等をうたっていますが、現実にはそうになっていません。（女性30代）
- ・女性が男性のような仕事ができるようになって、家事、育児を50:50にしない限り、職の負担、責任が増えるだけで、より一層女性が生きづらくなる。まずは家庭を持っている人への配慮がなければ、それを独身の人が見ていて“これじゃ結婚しても、子どもをつくっても苦しくなるだけじゃないか”と思う。家庭と職場の50:50は今の日本が今すぐに解決しなければならないと思う。社会人の若者の自殺も40~50代の中年の当たり前が、時代錯誤になっていることに気付かなければならない。（女性30代）
- ・「男女共同参画」とてもアウトだと思う。「さぬき市内の雇用が少ない→高松で働く→時短勤務でも保育園では早出、延長保育→お金がかかる→高松へ転出」がとても周りで多い。父、母どちらが時短で働くかとなれば、どうしても母親が時短になる風潮があるので、どうしても女性が働きにくいとなる。また、今の時代、平日、土日祝働いている人が多いのに、保育園や学童は土日休みなので、家族によっては大変だと思う。お金もかかるし、家族の時間も取れない。（女性40代）

## 9 あらゆる世代への健康づくり支援について

- ・さぬき市は、競泳用の温水プールがないため、温泉施設だけでなく、子どものときから男女で運動できる、温水プールなどの施設も充実させてほしい。（男性30代）

## 10 学校保健の充実について

- ・私は、他県からの移住です。直面したのは、子どもの「いじめ」でした。先生方（さぬき市）のご意見を聞き、発達障害の問題を含め、親として出した答えは、「さぬき市」は遅れていると思われました。自殺者が出てからでは遅い。（男性60代）

## 11 母子保健の充実について

- ・子どもが3人おり、3人共さぬき市民病院で出産しました。とても丁寧な育児指導をしていただきましたが、参加は母親のみ。父親も必ず参加するように変えてほしいです。家事も育児も本当に大変なときには、指示待ちの“お手伝いさん”すら邪魔です。男女関係なく、自分が考え動けることが家庭経営にも不可欠だと思います。意識変革と家事・育児の知識、技能の習得、両方に男女差があるままでは、女性が思うままに社会で働くことも難しい。第一子の産後支援の相談にさぬき市の窓口へ行きました。実親へ頼るようアドバイスを受けました。頼れないから相談に行ったのに……。産後ケアの公共化がなければ、安心して産めるのはマンパワーの充実した“恵まれた人”だけだと思います。（女性30代）

## 12 安心して暮らせる環境づくりについて

- ・子育ては、まだまだ女性のみが苦勞していると思う。お金の面だけでも、支援を増やしてほしい。（女性 30 代）
- ・さぬき市は子育てしづらいです！！他市に比べ公園が少ないというか、ない。土日の保育が充実していない。母子手帳をもらいにいったときの説明もない。最低です！！（女性 30 代）
- ・ワーク・ライフ・バランス、経済的なこと、メンタルヘルス、パワハラ、子育て、自分自身も含め、友人や職場の人と話していると悩んでいる人は多い。でも、市の相談窓口相談に行こうという人は、少ないように思う。幼い子どもたちをコロナ禍で育てるのは精神的、経済的に大変さを感じることも多いので、先日のさぬき市子育て応援特別給付金の支給は励みになり、周りでも“ありがたいね”という声が多かった。パートナーシップ宣誓制度もそうだが、このような具体的な施策によって市民は励まされると思う。（女性 30 代）
- ・生保、障害担当課は、不正及び不適正受給者の排除に力を入れるべきである。税金を投入しているという意識を持ち、仕事をするべきだ。いいかげんなことをしてほしくない。（男性 30 代）
- ・20 代後半にさぬき市の研修会に参加しました。参加した研修が悪かったのか、年齢層が高く、さぬき市にどんな取組が必要かについても、未来を描くものではなく、高齢者のための対策づくりに関するものでした。東讃の若い人は高松市か子育て支援に手厚い三木町に移住しなくてはならないと感じました。（男性 30 代）
- ・さぬき市は生活がしやすく、子育てに最適な地であると実感していますが、公立高校の統合や私立大学の移転などは、若者にとっても市の経済面においても、残念なニュースであると思います。せめて今後、公立小中学校の統合は控えていただきたい。若い世代が家を購入する際、学校が近いことを条件に入れる人が少なくないと思うからです。自然に囲まれ、県庁所在地からも遠くなく、買物も便利で総合病院もあるさぬき市は、永住地としてもリモートワークのできる静かな環境としても、とてもいいと思っています。全国的に見ても、子育て支援が充実している自治体に転入者が増えていると実感しています。高齢者への手厚いサービスも大事ですが、若い世代が「ここで暮らしたい。この地域で居を構えて子どもを育てたい」と思える政策を今後もお願いしたいです。（女性 40 代）
- ・男女に限らず、発達障害（軽度）の人など、その人その人の特性を活用して能力を最大限に使える「適材適所」の受け皿としての雇用づくりなど、弱い立場の方々が生き生きと仕事を心得、収入を手にして自立できるような（うまく表現できませんが）そういう職場を設けるなど、福祉と雇用を両立できるような受け皿が市内にできれば、住みやすく働きやすい、住民に寄り添うまちづくりになると思います。男女共同参画は「男女が同じ比率」ではなく、「適材適所」に尽きるかと思っています。（女性 50 代）
- ・少子高齢化が進んで、志度にある大学ももう少しで移転してしまいます。若い人は仕事を求めて市外へ流出。さみしいですね。でも大きな市と違い、のどかで自然豊かなこの土地に、ずーっと住みたいと思ってもらえるよう、近所に住んでいる人の顔が見え、助け合えるコミュニティーを大事にして、安心して暮らせるさぬき市になってほしいです。（女性 50 代）

- ・何らかの理由により離婚ができずに別居状態にある家庭で、子育てをしている方は金銭的にも精神的にも負担が大きいですが、社会的には離婚してひとり親家庭ではないために支援を受けられません。子どもも 18 歳までの支援はあるが、現状大学生はこのコロナ禍でも複数のアルバイトをせざるを得ないのが実態です。支援を受けたくても受けられない状態の人にも目を向けてもらえると助かります。よろしく願いいたします。（女性 50 代）
- ・大きなゴミを捨てるために市役所へ券を買いに行き、指定場所まで持って行かなければならない。これからとても不安です。高松市は、券は近くのスーパーやコンビニで買えて、家の前に置いておくと持って帰ってくれる。さぬき市は、指定場所までかなり遠く、券を買うにも土日は買えない。高齢者になると不安に思います。さぬき市役所は、駐車場から中に入るのが遠く、入口に車椅子がありますが、パンクしているのがあり使いにくいです。シルバーカーなどがあると、ありがたいと思いました。（男性 50 代）
- ・免許返納した後、買物、用事で行くための移動手段がなくなったときの不安を感じる。（女性 70 歳以上）
- ・母の意見ですが、高齢者の免許返納した後の交通利用の検討、生活保護者の入院等の対処改善。（男性 70 歳以上）

### 13 その他の意見

- ・さぬき市は働く場所も少ないので、通勤時間や労働時間の負担にならないためにも、人がさぬき市から離れないように働ける場所をつくることを視野にいれて考えてほしいです。（女性 29 歳以下）
- ・男女共同参画はなぜ始まったのか？始めた人が本当に狙っていることは何なのか？について職員一人一人に、職場で知らされる情報以外の情報源から、視野を広く持って調べてほしいと思う。与えられる情報から学べることは、価値観を植え付けられたり、真実から目をそらされたりすることがあるので、注意が必要だと思う。善意でしていることも、誰かの悪意に知らず知らずのうちに利用されることが多くあるのだと、私自身も調べてから気付いた。自分で疑問に思っ、調べて、初めて真の公務員になるのではと思う。そうすれば、広報する内容も取組も変わってくるし、社会の変えるべきところ、問題点、すべきことも、自ずと分かるのではないのでしょうか。（女性 30 代）
- ・生活が急速に豊かになることに伴い、自由度も高くなりました。結婚するかどうか、子を持つかどうかも選択できます。自治会加入も選択でき、高齢の方は役員の負担から脱会する方もいると聞きます。（男性 30 代）
- ・問 28 の共同参画の取組における満足度では、①から③について「わからない」の選択肢があればそちらが回答になります。（男性 30 代）
- ・コミュニティバス停をもっと増やしてほしい。老若男女が集える場所、催し物などを、分かりやすく開催してほしい。（男性 30 代）
- ・さぬき市は人口が減少しており、またコロナで交流の機会も減少しています。さぬき市は地元の市民の就職の場が少ないと思います。耕作放棄地の再利用、観光産業の見直しなど若者が転居しやすい街にしてほしい。（男性 30 代）

- ・介護や医療の現場では、女性がたくさん活躍していますので、男女共同参画の視点から見れば、特に問題にすることではないと思います。ですが他の分野で問題視するのであれば、まずは地元から離れたくない環境をつくるのが大切だと思います。大学は県外だけど、将来はさぬき市に帰ってきて暮らしたいなど、その魅力がなければそもそもさぬき市で女性の活躍の場を広げようと思っても難しいのではないのでしょうか。デフレが続いている中で、経済的支援を新卒から何年間はするとか、子どもが産まれたら独自の経済的支援をするなど、考えなければならぬと思います。財源はどこからつくるのかは、さぬき市全体で政府に訴える必要があります。国債発行すれば支援ができる。(男性 30代)
- ・さぬき市は、子育てがしやすい環境で、私自身は公的サービスに満足しています。公立高校の統合や私立大学の移転は残念でなりません、せめて公立小中学校の統合は、今後できる限り控えていただきたい。学校数が減ると、転入する市民も減ります。(女性 40代)
- ・アンケートは大事だと思いますが、長すぎます。若い衆は見た時点で、うざいとか言ってやらないです。調査方法を今一度お考えください。(男性 40代)
- ・今回のアンケートとは関係ないですが、次回は政治や法律、社会の仕組みについてアンケートしてほしいです。(男性 40代)
- ・重度の障害者手帳の持ち主です。親が代筆しています。今回が初めてのアンケートではありません。なぜ何回も・・・？(男性 40代)
- ・少子高齢化が進むばかりなのに、結婚はしても子どもをつくらないとか、男同士や女同士の結婚とかしても、人口が増えないよ？個人の意見ばかりが象徴される世の中になってきている。(男性 40代)
- ・市や議員は町の行事やイベントに、他の市より全く協力的でなく、しかし一方で口だけは出してきて、伝統ある行事は続けるべきと言っていて、余計に混乱した。さぬき市のこういった考え方や取り組み方はおかしいと思う。(男性 40代)
- ・男女共同参画よりも先にやる必要があると思います。支所の合併による不便さ、これから年を取ると不安です。小中高の合併も、学力低下、いじめ等見逃すのではないかと思います。経費削減により、市民が不便になるのは困ります。市長は、どう考えているのでしょうか？(女性 50代)
- ・男性は女性よりも力がある人が多いと思います。だから外で長時間働く、女性は男性よりも力が弱い人が多いから、家の中でする作業(家事)には向いていると思います。ですが今は共に働いていかななくては生活が成り立たない家庭のほうが多いのか、「男性は外で働いて、女性は家庭を守る」という考え方も合わなくなっている気がします。実際、夫を病気や事故で亡くされた女性やまたその反対の男性も、再婚しない限りは、そういう考え方に合いません。男女共同参画というのは、男性も女性も共に参加してやっっていこうということだと思いますが、世の中二人の力(男性、女性)を合わせて生きていくのも大変で、まして一人で子どもを育てていくというのは、二人でやることを一人でしないといけないのだから、考えただけでもその大変さは分かると思います。(女性 50代)
- ・政府が若者の育て方を間違えたので、30~40代がまともな子育てをしないのが一番の原因だと思う。(女性 50代)

- ・さぬき市の市政について意見させていただきます。これ以上、大串地区に市民の税金を使うのは止めてください。大串は国道やインターチェンジから離れているため、遠方からの乗客は無理です。それより、今、全国的にブームになっている道の駅に力を入れるべきです。特に「道の駅、津田の松原」はインターチェンジからも近く、サービスエリアやドルフィンセンター、クアタラソなど周辺に集客力がある施設がそろっています。これからは「道の駅、津田の松原」を全面改良して、遠方から集客できるように有効活用してください。（男性 50 代）
- ・さぬき市は、山、海等自然に恵まれた地域ではあるが、地域の特色又は魅力を打ち出せていない。若い世代が定住できるまちづくりを一般より募るのも一つの方法ではないかと思います。行政ももっと市民の目線になって運営していただきたい。私はさぬき市に来て 30 年が経過しましたが、時代の流れが一段と早くなっています。一般企業も一地域だけの仕事ではやっていけません。市政の方々、今一度、外よりさぬき市を見てください。必ず見えてくるものがあると思います。このままいくと 10 年後、さぬき市はなくなるかもしれません。（男性 50 代）
- ・若い人の意見を聞いてあげてください。（男性 50 代）
- ・夫婦別姓など旧姓利用を拡大すれば済む話で、韓国と同様な制度設計など必要ない。（男性 50 代）
- ・みんなの票で、市議、県議、国会議員などが地域のことを考えて、一人一人寄り添って、お年寄りのこと、子育て世代のこと、20 代、50 代の働き盛りの世代の身になって動いてほしいと思う。自分たちばかりの利益だけ考えたのでは、さぬき市は全然良くなりませんし、お年寄りばかりの町になっている。市では積極的にお年寄りには動けないこと、パソコンなど携帯電話も動かせない人がいるのに、行政は遠くなるし、若者も働く地域が不便では、さぬき市には帰ってこないし、家庭生活も不満だらけになると思う。これでは男女平等にならない。給料をもらって地域のことをしなければならない人（行政関係・公務員・地方公務員・市議など）が、しっかりしてほしい。（女性 60 代）
- ・意外と書いているのが、家族の中で誰なのか。また、なぜそれが当然なのか。その点からも、男女などの意識も分かるように思います。家庭の立場をもう少し調査すべきと思いますが、如何でしょうか。（男性 60 代）
- ・政府が良くならなければ、国民、市民は、豊かにならない。（男性 60 代）
- ・コロナ禍で、さぬき市は子どもや子育て世帯に給付金をバラまいているが（各 5 万円）、全世帯に 5 万円の給付は行えないのか。他の香川県や他県では行っている。これは、全市民のお願いである。（男性 60 代）
- ・民主国家とそれに伴う制度が一定していない。地方自治も政治と一緒に積極的に取り組むのが、重要だと思います。（男性 60 代）

- ・男女共同参画については、多岐にわたり取り組む課題があり、人それぞれ考え方が異なる中での推進は、大変だと思います。今後も更なる積極的な取組を期待しています。頑張ってください。（男性 60 代）
- ・このようなアンケート、役に立ちますか？アンケートをして満足していませんか？（女性 70 歳以上）
- ・誰もが参加しやすい活動ができ、小さな幸せを感じられる社会になれば良いと思う。（女性 70 歳以上）
- ・男女の役割といえば古いかもしれないけど、外で男が安心して働き、家庭が安定していると女性は子育てに専念して家を守る、そんな暮らしが懐かしい。能力のある女性が社会の中で活躍するのは喜ばしいことだけど、家庭をしっかり守り、夫を助けて子どもを成長させるという暮らしも良かったと思う。（女性 70 歳以上）
- ・学校、職場での男女共同参画についての教育は大切だと思いますが、市の取組としては、現状の問題点の解決をお願いしたいと思います。問題抽出のお手伝いが、このアンケートでできれば幸いです。（男性 70 歳以上）

## さぬき市 男女共同参画に関する市民アンケート調査

### 【ご協力のお願い】

日ごろから、市政の推進にご協力をいただき、ありがとうございます。

本市では、性別等にかかわらず、誰もが自分らしく、ともにいきいきと生きることが  
できるまちの実現をめざす「第3次さぬき市男女共同参画プラン」の策定に向けた取組  
を進めています。

このたび、市民の皆様から男女共同参画に関するご意見をいただき、計画づくりにあ  
たって基礎資料とするためのアンケート調査を実施することにいたしました。

調査対象は、18歳以上の市民の方のなかから無作為に抽出させていただき、ご回答  
をお願いするものです。

本調査の趣旨をご理解いただくとともに、ご協力をお願い申し上げます。

令和4年8月

さぬき市長 大山 茂樹

### ご記入にあたってのお願い

- 1 封筒の宛名の本人がお答えください。病気や身体の不自由などの理由で記入が難しい場合は、家族  
や介護者の方などが、本人の意向を尊重して、無理のない範囲で代筆してください。
  - 2 回答は、あてはまると思う番号を○で囲んでください。また、各設問文にある(○印1つ)(○印いくつで  
も)などに注意して記入してください。
- ※ 回答は無記名であり、統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外  
に利用することはありません。

### 本調査はインターネットでの回答も可能です

#### ■ スマートフォンで回答する場合

右のQRコードを読み取り回答画面を開いてください。

【回答用QRコード】



#### ■ パソコンで回答する場合

以下のURLより回答画面を開いてください。  
<https://wss3.5star.jp/survey/login/57uqdlac>

### 調査のお問い合わせ先

さぬき市市民部人権推進課

〒769-2195 さぬき市志度 5385 番地 8

電話 (087) 894-9088 メール [jinkensuishin@city.sanuki.lg.jp](mailto:jinkensuishin@city.sanuki.lg.jp)

この調査票は、**8月29日(月曜日)**までに、同封の返信用封筒に入れて、  
返送してください(切手は不要です)。

回答時間の目安：約20分



問1 あなたの性別\*をお答えください。(自認する性別をお答えください。)(O印1つ)

1 女性	2 男性	3 その他	4 答えたくない
------	------	-------	----------

※ 性別の選択肢については、多様なお答えに配慮して作成しています。以下、性別に関わる質問については、ご自身のお考えに基づいてお答えください。

問2 あなたの年齢をお答えください。(O印1つ)

1 18~24歳	4 35~39歳	7 50~54歳	10 65~69歳
2 25~29歳	5 40~44歳	8 55~59歳	11 70~79歳
3 30~34歳	6 45~49歳	9 60~64歳	12 80歳以上

問3 あなたは結婚(事実婚を含む)をしていますか。(O印1つ)

1 結婚している
2 結婚していたが、離別・死別した---- → <b>問5へお進みください</b>
3 結婚していない----- → <b>問5へお進みください</b>

問4 **【問3で「1」と答えた方におたずねします。】**

あなたと配偶者(パートナー)は、共働き(パート・アルバイト等を含む)ですか。(O印1つ)

1 共働きである	2 共働きではない
----------	-----------

問5 あなたの同居家族の構成をお答えください。(O印1つ)

1 独り暮らし(単身世帯) → <b>問9へお進みください</b>
2 あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし
3 二世帯世帯(親と子)
4 三世帯以上同居(親と子と孫等)
5 その他( ) → <b>問9へお進みください</b>

問6 **【問5で「2~4」と答えた方におたずねします。】**

あなたが、食事のしたくや掃除、洗濯など家事に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。平日と休日に分けてお答えください。(O印1つずつ)

平日→	1 1時間未満	3 2~3時間未満	5 5時間以上
	2 1~2時間未満	4 3~5時間未満	6 家事には関わらない
休日→	1 1時間未満	3 2~3時間未満	5 5時間以上
	2 1~2時間未満	4 3~5時間未満	6 家事には関わらない



問5で「2 あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし」と答えた方は、次は問9へお進みください。

問7 【問5で「3～4」と答えた方におたずねします。】

あなたの同居家族の中に、小学校入学前の子どもはいますか。（○印1つ）

- |   |                  |
|---|------------------|
| 1 | 小学校入学前の子どもがいる    |
| 2 | いない → 問9へお進みください |

問8 【問7で「1」と答えた方におたずねします。】

あなたが、子どもの食事や入浴の世話、保育所等への送迎など、育児に費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。平日と休日に分けてお答えください。（○印1つずつ）

平日→	1	1時間未満	3	2～3時間未満	5	5時間以上
	2	1～2時間未満	4	3～5時間未満	6	育児には関わらない
休日→	1	1時間未満	3	2～3時間未満	5	5時間以上
	2	1～2時間未満	4	3～5時間未満	6	育児には関わらない

問9 あなたの家族の中に、介護・介助を必要とする方はいますか。（同居の有無は問いません。）  
（○印1つ）

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 1 | 介護・介助を必要とする家族がいる  |
| 2 | いない → 問11へお進みください |

問10 【問9で「1」と答えた方におたずねします。】

あなたが、介護・介助を必要とする家族の日常生活の世話を費やす時間の合計は、1日あたりどのくらいですか。平日と休日に分けてお答えください。（○印1つずつ）

平日→	1	1時間未満	3	2～3時間未満	5	5時間以上
	2	1～2時間未満	4	3～5時間未満	6	介護・介助には関わらない
休日→	1	1時間未満	3	2～3時間未満	5	5時間以上
	2	1～2時間未満	4	3～5時間未満	6	介護・介助には関わらない

問 11 あなたの職業をお答えください。(○印1つ)

自営業 (経営主又は 共同経営者)	1 農林水産業 2 商工・サービス業 3 自由業(開業医・弁護士等)	注: 個人事業主の方は1~3 の中から、そのご家族で 家業を手伝っている場合 は4~6の中からお答え ください。
自営業 (家族従業者)	4 農林水産業 5 商工・サービス業 6 自由業(開業医・弁護士等)	
勤め人	7 正社員・正職員 8 公務員・団体職員 9 パート・アルバイト・派遣など	付問「7」「8」と答えた方におたず ねします。あなたは管理職ですか。 1 管理職である 2 管理職ではない
その他	10 内職 11 家事専業 12 学生 13 無職 14 その他( )	

問 12 あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①から⑧までの項目についてお答えください。(○印1つずつ)

	非常に優遇されている	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	非常に優遇されている	女性の方が 優遇されている	わからない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6		
② 職場では	1	2	3	4	5	6		
③ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6		
④ 地域活動では	1	2	3	4	5	6		
⑤ 政治の場では	1	2	3	4	5	6		
⑥ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6		
⑦ 社会通念やしきたり・慣習では	1	2	3	4	5	6		
⑧ 社会全体としては	1	2	3	4	5	6		

問 13 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。（学生のアルバイトは除く）

※ 病気や出産・育児、家族の介護などで一時休業している場合も、仕事をしていることに含みません。（○印1つ）

- 1 現在、仕事をしている
- 2 以前、仕事をしていたが現在はしていない
- 3 今まで仕事をしたことがない ----- →問 22 へお進みください

問 14 【問 13 で「1～2」と答えた方におたずねします。】

あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、次のような男女間の格差がありますか（又は、ありましたか）。（○印いくつでも）

- 1 募集や採用の面で男女に差がある
- 2 賃金や昇給の面で男女に差がある
- 3 昇進や昇格の面で男女に差がある
- 4 配属場所が限られている
- 5 女性の仕事は補助的業務が多い
- 6 女性は業務にあまり関係のない雑用が多い
- 7 職場での研修や研究の機会に男女の差がある
- 8 女性は結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある
- 9 男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある
- 10 女性はいろいろなハラスメント（嫌がらせ）を受けやすい雰囲気がある
- 11 その他（ )
- 12 特にない ----- →問 16 へお進みください

問 15 【問 14 で「1～11」と答えた方におたずねします。】

あなたは、そのような男女間の格差があることに対して、どのように思いますか。（○印1つ）

- 1 大いに不満であり、改善すべきである
- 2 やや不満であり、改善すべきである
- 3 改善すべき点はあるが、ある程度納得している
- 4 現状に満足している
- 5 男女間に格差があるのは、仕方がないことである
- 6 その他（ )
- 7 特に何も感じない（何も感じなかった）

問 16 【問 13で「1～2」と答えた方におたずねします。】

あなたはこれまでに、仕事をやめたことがありますか。(定年退職を除く)(○印1つ)

- 1 やめたことがある          2 やめたことはない----→[問 19へお進みください](#)

問 17 【問 16で「1」と答えた方におたずねします。】

あなたが仕事をやめた理由は何ですか。(○印いくつでも)

- 1 結婚したから  
 2 妊娠したから  
 3 出産したから  
 4 子どもがほしいから(妊娠を希望しているから)  
 5 職場内での人間関係がよくなかったから  
 6 希望どおりの待遇や労働条件、仕事内容ではなかったから  
 7 勤め先の都合のため  
 8 家事や子育てに専念したかったから  
 9 家事や子育てとの両立が難しかったから  
 10 子どもの進学など、教育上の理由のため  
 11 家族の介護や看護のため  
 12 結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気があったから  
 13 いろいろなハラスメント(嫌がらせ)を受けたから  
 14 自分の体力や健康に自信がなかったから  
 15 自分の病気のため  
 16 配偶者の転勤のため  
 17 働きたくないから  
 18 経済的に働く必要がないから  
 19 その他( )  
 20 特になし

問 18 【問 16で「1」と答えた方におたずねします。】

あなたは、仕事をやめた後、再就職されましたか。(○印1つ)

※ 仕事をやめた経験が複数回ある場合は、最初のときについてお答えください。

- 1 以前は正社員で、正社員として再就職した  
 2 以前は正社員だが、非正社員\*として再就職した  
 3 以前は非正社員\*で、正社員として再就職した  
 4 以前は非正社員\*で、非正社員として再就職した  
 5 再就職したことはない

※ パートタイムや派遣社員など

問 19 【問 13 で「1～2」と答えた方におたずねします。】

あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(○印1つずつ)

① 育児休業 (原則として1歳に満たない子を養育するための休業制度)	1 取得したことがある 2 取得したことがない (取得する必要がなかったを含む)
② 介護休業 (2週間以上の期間にわたり、常時介護を必要とする状態にある家族を介護するための休業制度(通算93日まで))	1 取得したことがある 2 取得したことがない (取得する必要がなかったを含む)

問 20 【問 13 で「1～2」と答えた方におたずねします。】

あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。  
(○印1つ)

1 積極的に取得した方がよい 2 どちらかという取得した方がよい 3 どちらかという取得しない方がよい 4 取得しない方がよい 5 わからない 6 その他 ( )
--



問 20 で「3～4」と答えた方は問 21 へ、それ以外の方は問 22 へお進みください。

問 21 【問 20 で「3～4」と答えた方におたずねします。】

取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○印いくつでも)

1 休業期間中の代替要員の確保が困難だから 2 休業期間中のまわりの人の業務負担が多くなるから 3 代替要員では業務が務まらないから 4 現在の社会では制度を利用しやすい雰囲気ではないから 5 休業中の賃金が不安定になるから 6 復職時に技術・能力が低下する不安があるから 7 昇給・昇格に影響があると思うから 8 その他 ( )
--



問 24 あなたの日常生活では、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、次にあげるような悪影響はありましたか。(○印いくつでも)

- 1 収入が減ったことによる生活の困窮
- 2 会社や事業の経営状況の悪化
- 3 テレワークや時差出勤など働き方の変化によるストレスや負担の増加
- 4 通勤・通学などの移動の制限
- 5 運動不足等による体調不良・健康状態の悪化
- 6 メンタルヘルス※(精神的、心理的な状態)の悪化
- 7 人と接する機会が減ったことによる孤独や孤立
- 8 家庭内の人間関係の悪化
- 9 友人等に会えないことや付き合いの悪化
- 10 旅行等の自粛や外出制限
- 11 スポーツや各種イベント等の中止、参加制限
- 12 地域活動や趣味の活動、サークル活動等の休止
- 13 医療や福祉サービスが思うように受けられない
- 14 子どもの学習機会の確保や学力の低下
- 15 家庭における介護や子育ての負担の増加
- 16 その他 ( )
- 17 特にない

※ 「メンタルヘルス」とは「心の健康」という意味で、精神的、心理的な健康状態のこと。「心の健康」が不調になると、悩みやストレスを感じやすくなるとともに、放置しておくとうつ病などの精神疾患を引き起こしやすいと言われている。

問 25 あなたは、次の地域活動に参加していますか。コロナ前の活動も含めてお答えください。(○印いくつでも)

- 1 自治会、婦人会、老人会など
- 2 PTA、子ども会など
- 3 趣味や教養、スポーツ、レクリエーションなど
- 4 リサイクル、環境保護、まちづくりなど
- 5 福祉・ボランティア・NPO活動など
- 6 防災・防犯活動など
- 7 ホームステイ受入れや海外ボランティアなどの国際交流活動
- 8 行政の各種委員会や審議会の委員などの公的な活動
- 9 その他 ( )
- 10 特に参加していない



問 25 で「10」と答えた方は問 26 へ、それ以外の方は問 27 へお進みください。



問 26 【問 25 で「10」と答えた方におたずねします。】

「特に参加していない」理由を教えてください。（○印いくつでも）

- 1 忙しくて時間がない
- 2 一緒に参加する人（顔見知りなど）がいない
- 3 人間関係がわずらわしい
- 4 役員や世話人になりたくない
- 5 参加するきっかけがない
- 6 必要性を感じない
- 7 地域活動に関する情報がない
- 8 地域活動が衰退している
- 9 ほかの家族が参加しているから
- 10 自分や家族の介護・介助が必要であるため
- 11 その他（ )

問 27 防災・災害復興対策においては、避難所での着替えや授乳場所の問題など、男女共同参画の視点が必要とされています。今後、どのような取組を強化すべきだと思いますか。  
(○印3つまで)

- 1 地域の自主防災組織等への女性の参画を増やす
- 2 市の防災会議や危機管理担当部署等への女性の参画を増やす
- 3 日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする
- 4 女性消防団員を確保、育成する
- 5 地域における女性の防災リーダーを増やす
- 6 避難所の企画や運営に女性を増やす
- 7 災害時に女性や子ども、高齢者、障害のある人、外国人等に配慮する
- 8 多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する
- 9 被災した女性の支援に女性ボランティアを活用する
- 10 その他（ )
- 11 特にない

問 28 あなたは、次の分野で、さぬき市の男女共同参画の取組に満足していますか。  
それぞれの項目についてお答えください。（○印1つずつ）

	満足できる	やや満足できる	やや不満である	不満である
① 雇用等での均等な機会と待遇の推進 （就労支援、結婚・妊娠しても働き続けられる環境づくり等）	1	2	3	4
② 子育て世代が安心して暮らせる支援 （児童虐待防止やひとり親世帯支援などの相談窓口の充実等）	1	2	3	4
③ 高齢者等が安心して暮らせる支援 （高齢者の健康・生きがいづくりや社会参画の支援等）	1	2	3	4

問 29 あなたは、次の①から⑤までの項目について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○印それぞれいくつでも）

	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がいる	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり与えたりしたことはない
※12 ページの用語の解説も ご覧ください。					
① セクシュアルハラスメント（セクハラ）	1	2	3	4	5
② パワーハラスメント（パワハラ）	1	2	3	4	5
③ マタニティハラスメント（マタハラ）	1	2	3	4	5
④ パタニティハラスメント（パタハラ）	1	2	3	4	5
⑤ ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3	4	5

問 30 【問 29 ⑤「DV」について「1～4」と答えた方におたずねします。それ以外の方は問 32 へお進みください。】

あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(○印いくつでも)

- 1 警察に相談した
- 2 法務局（人権相談窓口、人権擁護委員等）に相談した
- 3 女性相談所（女性相談員）に相談した
- 4 市（相談窓口や民生児童委員等）に相談した
- 5 民間の機関（弁護士会や市民グループ等）に相談した
- 6 医師やカウンセラーなどに相談した
- 7 家族や親せきに相談した
- 8 友人、知人に相談した
- 9 その他（ )
- 10 相談しなかった



問 30 で「10」と答えた方は問 31 へ、それ以外の方は問 32 へお進みください。

問 31 【問 30 で「10」と答えた方におたずねします。】

あなたが「相談しなかった」のは、なぜですか。(○印いくつでも)

- 1 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 2 そのことについて思い出したくなかったから
- 3 仕返しなど、もっとひどいことをされると思ったから
- 4 自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから
- 5 自分にも悪いところがあると思ったから
- 6 世間体が悪いから
- 7 どこ（だれ）に相談してよいか、わからなかったから
- 8 相談しても無駄だと思ったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 自分のことではないから
- 11 その他（ )

## 用語の解説

### (1) セクシュアルハラスメント（セクハラ）

- 職場などにおいて、相手の望まない性的な言動のこと（性的嫌がらせ）。
- 相手は異性だけに限らず、同性同士でもセクハラは起こりえます。

### (2) パワーハラスメント（パワハラ）

- 職場などにおいて、職務上の地位や人間関係などといった権力（パワー）を利用して、精神的・身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる嫌がらせ行為のこと。
- 業務上必要な指示や注意・指導などは、パワハラには当たりません。
- 上司と部下の関係だけに限らず、同僚の関係でもパワハラは起こりえます。

### (3) マタニティハラスメント（マタハラ）

- 職場などにおいて、働く女性に妊娠や出産を理由として、精神的・身体的苦痛を与える嫌がらせ行為のこと。
- 妊娠や出産を理由とした解雇、雇用契約の変更、雇い止めなどもマタハラに当たります。
- 相手は異性だけに限らず、同性同士でもマタハラは起こりえます。

### (4) パタニティハラスメント（パタハラ）

- 職場などにおいて、働く男性に育児を理由として、精神的・身体的苦痛を与える嫌がらせ行為のこと。妊娠した女性を意味する「マタニティ」に対し、父性を意味する「パタニティ」からつくられた言葉。
- 男性の育児休業や時短勤務などの申請を断ることはパタハラに当たります。
- 上司と部下の関係だけに限らず、同僚の関係でもパタハラは起こりえます。

### (5) ドメスティック・バイオレンス（DV）

- 夫婦や恋人などの親密な関係にある（あった）パートナーからふるわれる暴力のこと。（夫婦には、婚姻届を出していない事実婚や同性婚を含む。）
- ① 身体的暴力（殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など）
  - ② 精神的暴力（大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊す など）
  - ③ 経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など）
  - ④ 性的暴力（性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠中絶を強要する など）
  - ⑤ 社会的隔離（勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など）
  - ⑥ 子どもを巻き込んだ暴力（子どもの前で暴力をふるう、子どもの前でパートナーをばかにする など）



	知っている	内容まで 見聞きした ことがある	知らなかった
④ アンコンシャス・バイアス 無意識の偏ったものの見方、思い込みのこと。例えば「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」といった固定的な性別役割分担意識など。	1	2	3

問 34 あなたは、さぬき市が4月1日から「パートナーシップ宣誓制度<sup>※1</sup>」を開始したことをご存知ですか。（○印1つ）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

※1 一方又は双方がLGBTQ（セクシュアルマイノリティ）の二人が、性別にとらわれずにお互いを人生のパートナーとして協力し支え合うことを約した関係であることを宣誓し、市が公的に証明する制度のこと。

問 35 あなたは「選択的夫婦別姓（別氏）制度<sup>※2</sup>」に対して、どのように思いますか。法律や制度の規定にかかわらず、あなたご自身のお考えとしてお答えください。（○印1つ）

1 賛成	2 反対	3 どちらともいえない
------	------	-------------

※2 夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の苗字を称することを認める制度のこと。

問 36 「世の中ではLGBTQ（セクシュアルマイノリティ）をめぐる問題は、対応すべき社会的な課題になっている」と思いますか。（○印1つ）

1 そう思う	4 そう思わない
2 どちらかといえばそう思う	5 わからない
3 どちらかといえばそう思わない	

問 37 あなたの友人や知人など、身近な人に「LGBTQ（セクシュアルマイノリティ）」の方はいますか。（○印1つ）

1 いる	3 いないと思う
2 そうかもしれない人がいると思う	4 いない

問 38 あなたは香川県やさぬき市などが開催している、男女共同参画に関連するセミナーやイベント、講座などに参加したことがありますか。（○印1つ）

1 参加したことがある	2 参加したことはない
-------------	-------------

問 39 あなたは、今後、どのような講座やセミナー、催しなどに参加してみたいと思いますか。  
(○印いくつでも)

- 1 男女共同参画全般に関すること
- 2 女性の人権に関すること
- 3 L G B T Q (セクシュアルマイノリティ) など多様な性に関すること
- 4 多文化共生に関すること
- 5 学校教育における男女共同参画に関すること
- 6 職場における男女共同参画に関すること
- 7 家庭における男女共同参画に関すること
- 8 地域活動(自治会やP T A、防災活動など)における男女共同参画に関すること
- 9 女性の活躍に関すること
- 10 男性の家事や育児への参画について
- 11 D Vやハラスメント、虐待について
- 12 その他 ( )
- 13 特にない

問 40 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、さぬき市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○印5つまで)

- 1 男女共同参画の広報・啓発活動を充実する
- 2 人権や個人の尊重についての啓発や情報提供を充実する
- 3 L G B T Q (セクシュアルマイノリティ) など、多様な性に対する理解を深める
- 4 学校での男女共同参画についての教育を充実する
- 5 社会教育など生涯学習の場で男女共同参画についての教育を充実する
- 6 D Vや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める
- 7 D V等により人権を侵害された被害者の支援体制を充実する
- 8 市が開催する会議など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 9 女性を対象とした人材育成のための取組を進める
- 10 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
- 11 誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する
- 12 男女共同参画推進に取り組む住民活動を支援する
- 13 外国人など多様な人との交流など、多文化共生の理解を深める
- 14 ライフステージに応じた生涯にわたる健康づくりを進める
- 15 育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する
- 16 子育て支援サービスを充実する
- 17 高齢者や障害のある人への介護・介助や元気な高齢者の自立を支援する
- 18 非正規労働者やひとり親家庭など、生活上の困難に直面する家庭を支援する
- 19 その他 ( )
- 20 特にない

問 41 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでも自由にお書きください。


～ご協力ありがとうございました～



## さぬき市 男女共同参画に関する市民アンケート調査 報告書

---

発 行 者／2022（令和4）年11月  
発 行 者／さぬき市 市民部 人権推進課  
〒769-2195 香川県さぬき市志度 5385 番地 8  
電 話（087）894-9088  
メー ル [jinkensuishin@city.sanuki.lg.jp](mailto:jinkensuishin@city.sanuki.lg.jp)

---